

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック応用実習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F71190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	PCグラフィック基礎実習に続き、Illustrator、Photoshopの機能・操作法と共に、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、パンフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたヴィジュアル媒体をデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解している。【知識・理解】 簡単なエディトリアル作品を制作できる。【汎用的技能】						
授業計画	1) 10/02 オリエンテーション -基礎実習の振り返り- 2) 10/09 曲線イラストモチーフを利用したポスター 3) 10/16 グラデーション機能を利用したポスター 4) 10/23 文字ツールを活用したロゴ・デザイン 5) 10/30 文字・段落スタイルによるレイアウト・デザイン 6) 11/06 プリント機能とプリンター詳細決定 7) 11/13 Photoshopの基本機能操作 写真と画像、選択方法 8) 11/20 基本的補正、色調補正 9) 11/27 レタッチ・ツールを利用した補正・合成 10) 12/04 Photoshop機能を活用したロゴ・デザイン 11) 12/11 雑誌スタイルのレイアウト・パターン 12) 12/18 エディトリアル制作のための情報収集 ファッションブランドの情報収集 13) 01/08 リーフレット・デザイン -1- 画像とテキストの整理 14) 01/15 リーフレット・デザイン -2- シーズントレンド紹介のレイアウト 15) 01/23 作品講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）は各回の課題提出状況、スキルの理解度、最終課題（リーフレット）の完成度（60%）を併せて評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル（授業で指定）を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくIllustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1 *前期使用 「きちんと身につくPhotoshopの教本」、初版、高橋他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6678-2						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック基礎実習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F71180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(illustrator)の入門として、基本図形や文字、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの操作、図形作成・変換、カラー操作などの基本操作を習得するとともに、素材集を活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフトの基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品および文章組版作品の制作を目標とする。						
到達目標	文字や画像を適切にレイアウトできるグラフィックデザインの基本を理解している。【知識・理解】グラフィックソフトの基本操作に関して、1) オブジェクトの作成と変形、2) カラー設定の操作、3) 文章のレイアウトなどを習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。【汎用的技能】						
授業計画	1) 04/10 オリエンテーション - 教室、システムの使い方、教科書について- 2) 04/17 グラフィックアート制作においてillustratorでできること、画面構成 3) 04/24 オブジェクトとパス - 1 - 基本図形とツール、選択と変形 4) 05/08 " - 2 - ペンツール、パスファインダー 5) 05/15 " - 3 - 曲線の描き方、フリーハンドのイラスト 6) 05/22 カラーの操作 - 1 - カラーパネル、スウォッチパネル、グラデーション 7) 05/29 " - 2 - 塗りと輪郭 8) 06/05 文字とタイポグラフィ - 1 - 文字操作ツールとパネル 9) 06/12 " - 2 - パンフレットの組版 10) 06/19 " - 3 - 表組みとメニュー表 11) 06/26 タイポグラフィによるポスター 12) 07/03 画像を効果的に構成したポスター 13) 07/10 リーフレット・デザイン - 1 - テーマ設定、写真・テキストの収集 14) 07/17 " - 2 - 各ページのレイアウト構成 15) 07/25 " - 3 - 完成と作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日常的に関心を持ってグラフィックアート作品のデザインについて、統一と変化、形や色のバランスなどを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。						
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル(授業で指定)を購入し、制作課題を保存すること。						
教科書	「きちんと身につくillustratorの教本」、初版、ヤマダ他共著、MdN、ISBN978-4-8443-6675-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学（材料）／アパレル科学II（材料）						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	F72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の性能について理解を深める						
授業の概要	繊維の性質と布の性質が被服材料としての要求性能に大きく影響を与えていることを理解する知識を学習する。具体的には、現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、繊維製品の組織等について学ぶ。生活者として被服の選択基準、使用、管理の場でこうした知識を生かした豊かな衣生活を営むこと、またファッション業界で役立つ知識の修得を目指す。						
到達目標	<p>(1) ファッション素材が直結する機能性や経済性、素材の物性による造形性や審美性、素材の歴史などもふまえた関係性についての知識を修得する。</p> <p>(2) ファッション素材に関する専門の言葉を習得し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>(3) 素材の知識をふまえたうえで、図、画像、文章、立体作品等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回：被服材料の科学を学ぶ意味、繊維→糸→布→服の流れ</p> <p>第2回：天然繊維：綿</p> <p>第3回：天然繊維：麻、絹</p> <p>第4回：天然繊維：毛、毛皮、羽毛</p> <p>第5回：化学繊維の発明と発展の歴史、現状と今後</p> <p>第6回：化学繊維：レーヨン、キュプラ、リヨセル</p> <p>第7回：化学繊維：アセテート、ナイロン</p> <p>第8回：化学繊維：ポリエステル</p> <p>第9回：化学繊維：アクリル、ポリウレタン</p> <p>第10回：化学繊維：無機繊維、生分解性繊維、高機能性繊維</p> <p>第11回：糸：種類と性能</p> <p>第12回：糸：太さと品質</p> <p>第13回：布：織物</p> <p>第14回：布：編物、不織布</p> <p>第15回：その他：天然皮革、合成皮革、人工皮革</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次回授業範囲（授業内で予告する）について、予習シートを記入して持参する。（学習時間：90分間）</p> <p>授業後学習：返却した授業シートに後から見直した際にもわかりやすくなるよう記述を補足したうえで、スキャンし、松蔭manabaにポートフォリオとしてファイリングする。（学習時間：90分間）</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>また、ICTを活用したポートフォリオ作成による学習成果の可視化を実現する。そのための方法修得は授業内に実習形式で行う。ポートフォリオは受講生同士で公開するので、都度のディスカッションによってその形態やコンテンツの質を高める。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業シート（A4裏表1枚） 60%</p> <p>予習シート（B6裏表1枚） 20%</p> <p>ポートフォリオ（松蔭manaba） 20%</p>						
履修上の注意	予習シートは授業開始時の提出とし、授業開始後は受け取らない。						
教科書							
参考書	榎本雅穂、古濱裕樹（編）：新版 繊維材料にフォーカスした生活材料学、アイ・ケイコーポレーション						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学（被服構成）／アパレル科学I（被服構成）						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	快適な衣生活をめざして、人体の形態、運動機能性と衣服の関わりについて考え、衣服を造形するうえで必要な知識を習得する。						
授業の概要	私たちの最も身近な環境である衣服について、衣服を着る人体と衣服の構造や形との関連性を学び、生まれてから高齢となるまでの体型や機能の変化から、ライフスタイルと衣服について検討する。これらの知識を定着させるため、視聴覚教材や学習内容の実践を交えて理解を確実なものとする。						
到達目標	(1)人体と衣服の関係性を科学的視点から捉え、考察することができる。【知識・理解】 (2)衣服の特性を素材や形態の知識を用いて他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (3)学習内容を実践し、討議、発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ペーパードレスの制作 グループワーク 新聞紙を使ったドレスを製作 3. 前回の内容を報告 4. 衣服の形式と形態 構造上から衣服の形を分類 民族服 5. 和服の歴史と構造 和服の歴史の変遷、素材と構成 6. 人体の構造 着衣する人体の構造 7. 人体の形の把握法 直接計測法と間接計測法 8. 人体形態の年齢的变化 9. 副素材の種類と構造 10. 衣服の素材と造形性能、動作適合性 11. 衣服の選択と購入 既成衣服の生産と流通、表示 12. 衣服の設計1 胸部原型の作成 前身頃 13. 衣服の設計2 胸部原型の作成 後身頃 14. 衣服の設計3 原型の作成 袖 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習し、事前に指定するキーワードについて指定された参考図書等で下調べする。（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	<p>講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。ペーパードレスの製作や衣服の設計など、実践を伴う授業ではグループ討議を行ったり、各自でレポートを完成させる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>提出物40%、発表20%、レポート20%、授業への参加度20%</p> <p>提出物：与えられた課題についての的確に対応できているか。制作物の完成度やリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容などを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(2)(3)の到達度の確認。</p> <p>レポート：学習内容を理解できているか。自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p>						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『新版 アパレル構成学』（朝倉書店、編著 富田明美） 必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学III (管理・衛生)						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	F73220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生理機能と外環境からの被服材料の汚れ除去について被服の衛生と管理から理解する						
授業の概要	人の皮膚や体温の生理的機能や外的な温度・湿度から快適で衛生的な衣生活のための被服衛生と被服管理について学習する。具体的には、普段の生活で行う洗濯について'なぜ、洗濯が必要か'という視点から被服の汚れや洗浄、それに用いる洗剤や洗濯機の機能について科学的に学ぶ。被服の衛生的条件、被服による気候調節を理解し被服の管理・衛生の知識を深める。						
到達目標	(1) 繊維製品の取り扱いに関する機能性や経済性、造形性や審美性と洗濯耐久性の関係、環境との関係性についての知識を修得する。 (2) 繊維製品の消費性能に関する専門の言葉を習得し、コミュニケーションする能力をもつ。 (3) 洗浄や染色の科学的知識をふまえたうえで、図、画像、文章、立体作品等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。						
授業計画	第1回 界面活性剤分子の性質と挙動 第2回 表面張力と接触角、界面活性剤の浸透作用 第3回 界面活性剤の可溶化、乳化、分散、再汚染防止作用 第4回 セッケンと合成界面活性剤 第5回 界面活性剤の分類 (1)陰イオン界面活性剤 (2)非イオン界面活性剤 (3)陽イオン界面活性剤 (4)両性界面活性剤 第6回 洗剤に含まれる助剤・添加剤 第7回 市販洗剤の発展の歴史と現状 第8回 漂白と蛍光増白 第9回 商業クリーニング、洗濯絵表示 第10回 洗濯機 第11回 柔軟剤と糊付け、アイロン 第12回 汚れ 第13回 洗浄性と損傷の評価、洗浄条件と汚れ落ちの関係 第14回 しみ抜き、防虫、防かび 第15回 衣類のリサイクル						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：配布テキストの次回授業範囲(授業中に予告する)の部分に一通り目を通す。(学習時間：90分間) 授業後学習：配布テキストの授業内に進んだ部分を再度読み直し、後から見直した際によりわかりやすくなるよう説明を書き加える。疑問やさらに知識を深めたいことは自分自身で調べるとともに、その成果や解決しなかった疑問点を次回授業のミニッツペーパーに記述する。(学習時間：90分間)						
授業方法	講義(従来型方法による深い学び)に加え、以下のアクティブラーニングを取り入れる。毎回のミニッツペーパーの記述を口頭で紹介し、簡単なディスカッションを行う。また、アパレル科学分野全般における社会(企業、研究等)の最新の動きや製品の動向などを逐次紹介する。						
評価基準と評価方法	ミニッツペーパー(毎回) 60点 配布テキストの完成度 40点						
履修上の注意	初回授業に配布するテキストは必ず毎回持参すること。						
教科書	初回授業時に配布する(B5、56頁)						
参考書	間瀬 清美、薩本 弥生(編)、新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ、アイ・ケイコーポレーション						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	コイケ アカリ					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる						
授業の概要	イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスを習熟、空間を演出するアイテム制作を行なう。図、画像、文章、立体作品を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することや、実際に制作することを通して“もの”や“素材”に対する想いを育むことを目的とする。						
到達目標	(1) イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (汎用的技能) (2) 伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (汎用的技能) (3) 想いを込めて制作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる (汎用的技能)						
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは ペーパークラフト制作</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ファッションショーテーマ告知・空間演出プランニング課題 (第4回にて発表)</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング/NYショーウィンドウレポート ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 ファッションショー空間演出プラン発表・投票</p> <p>第5回 ファッションショー空間演出プラン決定 空間デコレーション制作アイテムミーティング</p> <p>第6回 空間デコレーション制作アイテム・材料決定ミーティング</p> <p>第7回 制作アイテム材料調達 ※課外授業：三宮に集合 (現地への往復交通費は各自負担)</p> <p>第8回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第14回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第15回 発表：ファッションショー準備</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと						
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際						
評価基準と評価方法	平常点 50% (授業内での制作意欲や、取り組む姿勢、成果物、および到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認により評価する) レポート課題 10% 発表 40%						
履修上の注意	原則として授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は単位取得できないものとする 材料調達のための課外授業に関する交通費 (三宮) は学生各自が負担するものとする 空間デコレーションアイテム制作にあたり、学生がこだわりの材料を使用したい場合は、学生各自が費用を負担し用意するものとする						

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法とインテリアコーディネートの初歩的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	インテリア空間をデザインするための基本的な考え方と基礎表現としての各種図法を学ぶ。練習課題を通して平面図・展開図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソノメトリック、1消点パースなどのドローイングのスキルを身につける。そして最終的に、実践的なインテリアコーディネートの課題制作に取り組み、各自のイメージした空間を図面表現し、プレゼンテーションボードにまとめる。発表、講評する形式で授業をすすめる。 キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作						
到達目標	(1) 目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 (知識・理解+汎用的技能) (2) 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描くことができる。（汎用的技能） (3) プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 ガイダンスおよび「インテリアの表現」スライド解説。製図道具の使い方説明。 練習課題1 -家具の実測と図面表現1（三面図） 第2回 練習課題1 -家具の実測と図面表現2（アイソメトリック） 練習課題2 -デザイナーズチェアを描く1（模型の実測とアイソメトリック） 第3回 練習課題2 -デザイナーズチェアを描く2（アイソメトリックの仕上げと着色） 第4回 家具レイアウトの考え方、描き方解説 練習課題3 -インテリア図面のトレースと着色1（平面図） 第5回 練習課題3 - インテリア図面のトレースと着色2（展開図・アイソメトリック） 第6回 特別授業 「手描きパースの魅力と着色テクニック」 （ゲストスピーカーの宮後先生による指導） 第7回 練習課題4 - 1消点パースのトレースと着色 第8回 最終課題「9坪ハウスのライフスタイルとインテリア」課題説明 ライフスタイルと周辺環境のイメージ、インテリアの方向性の設定。 第9回 最終課題 レイアウト案エスキース、家具他インテリアエレメントの資料収集 第10回 最終課題 インテリア平面図作成 第11回 最終課題 インテリア断面展開図作成 第12回 最終課題 1消点パース作成。各図面の着色。 第13回 最終課題 各図面の仕上げ後、スキャナーで画像データ化 パソコンでレイアウト（Vectorworksを使用）。 第14回 最終課題 プレゼンテーションボードの作成 （説明文、インテリアエレメントの画像などを加え、全体のレイアウトを整えて仕上げる） 第15回 プレゼンテーションボードのプリントアウト 発表と講評および提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の進度に遅れないよう、各課題を進め、授業中に完成しなかった場合は、次回までに完成させておくこと。 特に欠席した場合は、早めに遅れを取り戻すように、時間外に進めること。 家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（スライドを用いた解説、手描き図面およびパソコンを用いた作品制作）						

評価基準と 評価方法	<p>練習課題 30% : 図面表現の的確性や表現内容の工夫を評価する。到達目標(1), (2)の到達度の確認。</p> <p>最終課題 40% : 設定したライフスタイルに対するインテリアコーディネートの的確性や工夫および図面表現の的確性を評価する。到達目標(1), (2), (3)の到達度の確認。</p> <p>平常点 30% : テーマに関する文献・WEB検索等資料収集や見学等の取り組み方や関心度を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。</p>
履修上の注意	<p>ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。</p> <p>また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。</p>
教科書	<p>プリントを配布する。</p>
参考書	<p>「はじめてのインテリア製図 合格する図面の描き方」第4版 著者： 星野智子 出版社： (株)ハウジングエージェンシー出版事業部 ISBNコード： 9784899902461</p> <p>「スケッチパース着色編」 著者／編集： 宮後浩, 山本勇氣 出版社： 秀和システム ISBNコード： 9784798040530</p> <p>その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。</p>

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアCAD実習I						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F72370
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア・プレゼンテーション (CAD入門)						
授業の概要	<p>パソコンを用いたCADによる製図は、建築、インテリア、土木、機械、プロダクト、芸術など多様な分野で主力として使われる。製図は、本来立体のものを多方向から見たと想定して、紙の上に概念的に平面で描く。製図について各分野共通の事項も多数存在し、本実習では、インテリアデザイン製図における平面図、断面図、立面図、展開図など本分野に不可欠の図面の描き方を教える。</p> <p>授業の前半では、パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作をオリジナルのテキストを使って実習しながら、建築家、難波和彦設計の「箱の家」をオリジナルテキストを用い、各自がCADを駆使し写生しながら作図する。「箱の家」を通して木造住宅の建築計画と内部のインテリアの作図方法を学ぶ。木曜日の授業「インテリアデザイン実習I」と連動して、「マンション居室のインテリアデザイン」の課題を行うことを通して、インテリアデザインの基本、考え方、表現法、CADによる作図、各種図面の描き方、模型、CADによるプレゼンテーション、パソコンやプリンターの使い方、各種道具の使い方を学ぶ。ここでは、RC造のマンションの内部を、各自が自由なインテリアデザインを発想し、各自のつくりたいものを平面図や展開図で描く方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図、画像、文章、模型（立体作品）等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる ・インテリアの平面図、断面図、立面図、展開図を描くことができ、自分で考えたものを図面化する技術を身につける。 ・パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作を他者にも説明することができる。 ・インテリア製図やプレゼンテーションがどのようなものなのか実践を通して理解し、その方法を習得することを通して、今後も自らインテリアデザインのプレゼンテーションを行う方策を身につける。 ・身近な生活におけるインテリアデザインの役割(造形性、機能性、審美性、経済性、関係性)に関する幅広い知識を身につける。 ・実習を通して、様々なインテリアデザインを調べる必要性を感じ、本や店舗などでインテリア製品を意識したり、良好なインテリアデザインの壁や床の素材を意識することができる。 						
授業計画	<p>第1回 : ガイダンス 良質なデザインの話 ／CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習A」</p> <p>第2回 : CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習B」 ／「箱の家」の平面図作図及び課題説明 手順1~3</p> <p>第3回 : CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習C」 ／配布資料「箱の家」の平面図作図 手順4~5</p> <p>第4回 : CADの基本操作習得 配布資料「基本操作演習D」 ／配布資料「箱の家」の平面図作図、断面図作図、完成、レイアウト、プリントアウト、提出</p> <p>第5回 : 展開図の描き方と作図実習 プリントアウト、提出</p> <p>第6回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン①」 趣旨説明、マンションの躯体トレース1（設定、通り芯など）</p> <p>第7回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン②」 マンションの躯体トレース2（主要部分の描写）</p> <p>第8回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン③」 マンションの躯体トレース3（予備日）、小課題</p> <p>第9回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン④」 課題詳細説明、周辺環境、家族像、ライフスタイルのコンセプト立案</p> <p>第10回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑤」 エスキス、コンセプトの考察</p> <p>第11回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑥」 エスキス、CAD図面（平面図）制作</p> <p>第12回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑦」 CAD図面（展開図）制作</p> <p>第13回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑧」 模型制作</p> <p>第14回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑨」 模型、図面、プレゼンテーションレイアウト完成、大型サイズプリントアウト、提出</p> <p>第15回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑩」 講評会 プレゼンテーション、口頭発表の実践</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業外における学習は特に必要ありませんが、良いインテリアデザインや製品、インテリアを美しくする素材や植物、照明などに関心を持つようにして下さい。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外の時間も費やさないと課題提出ができない状況もあります。</p> <p>課題の提出間際に多くの作業を残さないよう、授業内にできるだけ作業を進めましょう。自分で案を考える授業後半の課題では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。パソコンとプロジェクターを多用し、授業後半で、模型をつくるので、カッターやボンドも使用します。</p>						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	
授業方法	前期の前半は、パソコンでの操作説明と受講者各自のパソコン上での操作を交互に行い、各自の質問対応のため教員が巡回します。前期の後半では、各自が案を考えるため、細かな時間配分は受講者自身で行います。授業中は、お互いが授業内容のことを助け合う目的であれば、受講者同士で相談しても構いません。課題をすすめるために、全員に対して課題内容の相談を何度も繰り返します。優れたインテリアプレゼンテーションをデザインできるようになるため、デザインの見方や考え方、技術的なことについて、要所で解説を行います。
評価基準と評価方法	①課題「基本操作演習A～D」5% ②課題「箱の家」15% ③課題「展開図」10% ④インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン」30% 最終提出物は、A2プレゼンボードと模型。そこに含まれる全てを考慮する。アイデア、デザイン、計画、図面、模型、写真、レイアウト、プレゼンテーション力、口頭発表力など。 ⑤授業態度40%
履修上の注意	出席回数が10回に満たないものには、原則単位認定を行いません。授業では、毎回新しいCAD操作などを学ぶため、欠席すると次回の授業でわからないことが沢山できてしまいます。もし欠席した場合は、次の週までに各自で対策をとるよう心がけて下さい。教室の空き時間であれば、大学のパソコンを使用できます。
教科書	授業オリジナルのテキスト（プリント冊子）
参考書	自宅のパソコンでCADの作業をしたい場合、有料のVectorWorksの学生向けソフトが必要となります。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアCAD実習II						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバ-	F72380
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住空間のインテリア計画とその表現 —ライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考える—						
授業の概要	インテリアCAD実習Iで学んだCADによる作図表現を発展させ、3次元の図面表現を習得する。まず柱状体や回転体など、3Dの作図法の基本を学ぶ。次に簡単な家具などのモデリングを行い、シンボル図形等も利用しながら、練習課題としてマンション住戸のリノベーションに取り組む。次にテクスチャやライティングなど、質感や光の表現手法を習得し、よりリアルで詳細なレベルでの、インテリアの空間表現力を養う。またインテリアデザイン実習IIで制作する課題の図面表現にも応用する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD						
到達目標	(1)インテリアデザインの基本となる知識と計画手法を身につける。【知識・理解】 (2)住空間のデザイン事例について情報収集し、機能要素・イメージを整理、分析することができる。【汎用的技能】 (3)ハウジングデザインを専門の言葉で表現し、コミュニケーションすることができる。【汎用的技能】 (4)CAD・3Dによる表現手法を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なインテリアデザインを表現することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） CAD/3D基本操作解説、練習課題 簡易な3Dシンボルの作成</p> <p>第2回 旧山邑邸と課題敷地の見学</p> <p>第3回 第1課題 「マンション住戸のインテリアコーディネート」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第4回 第1課題 オリジナル3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成、3Dパースの作成、レイアウト、まとめ。</p> <p>第6回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 エスキースに基づく3Dモデルの作成。</p> <p>第7回 第2課題 インテリア計画（参考資料収集、エスキース）、3Dモデルの修正、つくりこみ。</p> <p>第8回 第2課題 インテリアエレメントの選択、ライティングのポイント解説、 3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第9回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第10回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第11回 第2課題 テクスチャ調整</p> <p>第12回 第2課題 ライティング調整、添景の作成</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）の レイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 最終チェック・手直し・追加事項のチェックおよび図面追加・修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 合同の発表講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習：CADを用いた練習課題の作品制作を行う。各回、課題に関連した簡単な解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。						
履修上の注意	課題に関連する見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。						
教科書	<p>図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2</p> <p>その他、プリントを配布。</p>						

参考書	<p>インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10: 4766117557</p> <p>コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版)</p> <p>その他、授業中に紹介する。</p>
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F72410
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアデザインの歴史						
授業の概要	<p>古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。</p> <p>ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。</p> <p>キーワード：インテリア、デザイン史、デザイナー</p>						
到達目標	<p>(1) インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。(知識・理解)</p> <p>(2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。(知識・理解)</p> <p>(3) 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。(知識・理解)</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の概要、進め方と学習目標など) 椅子とあかりの基礎知識</p> <p>第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代と中世のデザイン</p> <p>第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世のデザイン</p> <p>第4回 問題解説①ー西洋古典のインテリア、 日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代から中世へ</p> <p>第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世から近世へ</p> <p>第6回 学外研修ー身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学 (旧ハンター住宅と竹中大工道具館、土曜日に振替で行う予定)</p> <p>第7回 問題解説②ー日本伝統のインテリア 日本とヨーロッパの民家・町家</p> <p>第8回 モダンデザインの黎明ージャポニズム/万国博覧会 明治の日本</p> <p>第9回 アール・ヌーヴォー(新しい芸術)のデザイン</p> <p>第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント</p> <p>第11回 巨匠達の時代とデザイン</p> <p>第12回 北欧のモダンデザイン 問題解説③ー近代のインテリア</p> <p>第13回 ミッド・センチュリーのアメリカー・イタリア 日本の近代化</p> <p>第14回 ポスト・モダニズムの時代 問題解説④ーミッド・センチュリーデザインと日本の近代化</p> <p>第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：各回の授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。 (学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：各回の授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい(学習時間：2時間)。</p>						
授業方法	<p>講義(スライドレクチャー)、問題解説(インテリアコーディネーター試験過去問題など)を組み合わせて行う。毎回のミニレポートをチェックバックすることで、双方向型の授業とする。</p>						

評価基準と評価方法	毎回のミニレポート 50% : 講義内容についてのコメント・質問等、内容記述の的確性や関心の具体性を評価する。 到達目標(1), (2), (3)の到達度の確認。 期末試験50% : 講義内容についての理解度を評価する。到達目標(1), (2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。 学外研修で必要な入場料、交通費は学生各自の負担とする。
教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3
参考書	「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2019上巻」 発行：ハウジングエージェンシー 「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1 その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン基礎演習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F71310
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアデザイン入門（インテリア分野の魅力と学びを知る）						
授業の概要	<p>インテリアデザイン分野の導入科目として、次の3つのテーマに取り組む。</p> <p>①インテリアの学び方 インテリア分野を学ぶ意義や4年間のカリキュラム、文献検索や資料収集の方法を学ぶ。魅力的な事例に触れ、空間を評価し、写真や図、文章で表現する課題に取り組む。</p> <p>②インテリアコーディネーター資格対策入門 インテリア分野の社会的役割や、様々な仕事について学び、卒業後の進路や資格取得といった将来目標、学習目標を考える手掛りとする。インテリアコーディネーター試験の過去問題の一部にも取り組む。</p> <p>③インテリアコーディネーター入門 インテリアショップなどを実際に見学し、エレメントについてリサーチする。リサーチした資料からコーディネートを考える課題に取り組み、実践的、体験的に学ぶ方法を身につける。</p>						
到達目標	<p>(1) インテリアを学ぶ意義と4年間の学びの目標がイメージできる。（知識・理解）</p> <p>(2) インテリア空間を評価し、写真や図、文章で表現し、人に説明できる。（汎用的技能）</p> <p>(3) インテリアの様々な事例について、情報を収集し、写真や図、文章で説明できる。（汎用的技能）</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、「インテリア分野の学び」スライド解説 第1課題「魅力ある住宅のデザイン」説明</p> <p>第2回 「住空間を楽しむ」スライドレクチャー</p> <p>第3回 雑誌、WEB検索によるリサーチとレポート作成の方法解説</p> <p>第4回 リサーチ、レポート作成</p> <p>第5回 第1課題の発表と講評、第2課題の予告</p> <p>第6回 「インテリアコーディネーターの誕生とその背景」解説 インテリアコーディネーター資格試験 例題解説</p> <p>第7回 「インテリアコーディネーターの仕事」スライドレクチャーと例題解説（前半）</p> <p>第8回 「インテリアコーディネーターの仕事」スライドレクチャーと例題解説（後半）</p> <p>第9回 まとめと小テスト</p> <p>第10回 「インテリアデザインの考え方」スライドレクチャー 第2課題「インテリア空間の体験とインテリアエレメントのリサーチ」の説明と資料収集</p> <p>第11回 第2課題の資料収集、見学の計画（グループごとに見学を行う）</p> <p>第12回 インテリアの見学（インテリアショップに時間振替えて引率＋グループごとに選んだ場所1ヶ所以上）</p> <p>第13回 第2課題のレポート作成、中間報告、追加・手直しの指示</p> <p>第14回 第2課題のレポート表紙-インテリアコーディネートのイメージ・コラージュ作成</p> <p>第15回 第2課題の発表・講評と提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回の授業前に配布資料の該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、インテリアショップ等の事例見学など、自主的に行うこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	スライドレクチャーによる解説と関連テーマについての文献・WEB検索、見学によるリサーチを行い、実践的、体験的に学ぶ。レポートを作成し、発表、ディスカッションするといった双方向で学んでいく。前半では、インテリアコーディネーター試験の過去問第にも取り組み、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	<p>レポート第1課題 25%：テーマに関する文献・WEB検索等資料収集の取り組み方や関心度を評価する。空間の読み取りの的確性や文章、画像、図等による空間表現の的確性を評価する。到達目標(2)、(3)の到達度の確認。</p> <p>レポート第2課題 25%：テーマに関する資料収集、見学による空間体験の取り組み方や関心度を評価する。空間の読み取りの的確性や文章、画像、図等による空間表現の的確性を評価する。到達目標(2)、(3)の到達度の確認。</p>						

評価基準と評価方法	小テスト20%：インテリアコーディネーターの社会的役割や仕事に関する理解度を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。 平常点 30%：スライド解説に対するミニレポート（コメントや質問等）により、理解度、関心度を評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。
履修上の注意	学外見学・調査を行うが、その交通費などは学生の負担とする。 配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。
教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 （他のインテリア科目とも共用する） 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3
参考書	「超図解で全部わかるインテリアデザイン入門」 著者：Aiprah（アイブラフ） 監修：河村容治 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1876-4

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア基礎実習I/インテリア基礎実習						
担当教員	コイケ アカリ					科目ナンバー	F71320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる						
授業の概要	イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスを習熟、空間を演出するアイテム制作を行なう。図、画像、文章、立体作品を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することや、実際に制作することを通して“もの”や“素材”に対する想いを育むことを目的とする。						
到達目標	(1) イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (汎用的技能) (2) 伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (汎用的技能) (3) 想いを込めて制作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる (汎用的技能)						
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは ペーパークラフト制作</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ファッションショーテーマ告知・空間演出プランニング課題 (第4回にて発表)</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング/NYショーウィンドウレポート ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 ファッションショー空間演出プラン発表・投票</p> <p>第5回 ファッションショー空間演出プラン決定 空間デコレーション制作アイテムミーティング</p> <p>第6回 空間デコレーション制作アイテム・材料決定ミーティング</p> <p>第7回 制作アイテム材料調達 ※課外授業：三宮に集合 (現地への往復交通費は各自負担)</p> <p>第8回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第14回 空間デコレーションアイテム制作</p> <p>第15回 発表：ファッションショー準備</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと						
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際						
評価基準と評価方法	平常点 50% (授業内での制作意欲や、取り組む姿勢、成果物、および到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認により評価する) レポート課題 10% 発表 40%						
履修上の注意	原則として授業回数の3分の2以上の出席に満たない者は単位取得できないものとする 材料調達のための課外授業に関する交通費 (三宮) は学生各自が負担するものとする 空間デコレーションアイテム制作にあたり、学生がこだわりの材料を使用したい場合は、学生各自が費用を負担し用意するものとする						

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア基礎実習II/インテリアドローイング実習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F71330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法とインテリアコーディネートの初歩的な考え方を学ぶ。						
授業の概要	インテリア空間をデザインするための基本的な考え方と基礎表現としての各種図法を学ぶ。練習課題を通して平面図・展開図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソノメトリック、1消点パースなどのドローイングのスキルを身につける。そして最終的に、実践的なインテリアコーディネートの課題制作に取り組み、各自のイメージした空間を図面表現し、プレゼンテーションボードにまとめる。発表、講評する形式で授業をすすめる。 キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。(知識・理解+汎用的技能) (2) 手描きでインテリアの基礎的な図面(平面図、展開図、パース)を描くことができる。(汎用的技能) (3) プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。(汎用的技能) 						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび「インテリアの表現」スライド解説。製図道具の使い方説明。 練習課題1 -家具の実測と図面表現1 (三面図)</p> <p>第2回 練習課題1 -家具の実測と図面表現2 (アイソメトリック) 練習課題2 -デザイナーズチェアを描く1 (模型の実測とアイソメトリック)</p> <p>第3回 練習課題2 -デザイナーズチェアを描く2 (アイソメトリックの仕上げと着色)</p> <p>第4回 家具レイアウトの考え方、描き方解説 練習課題3 -インテリア図面のトレースと着色1 (平面図)</p> <p>第5回 練習課題3 - インテリア図面のトレースと着色2 (展開図・アイソメトリック)</p> <p>第6回 特別授業 「手描きパースの魅力と着色テクニック」 (ゲストスピーカーの宮後先生による指導)</p> <p>第7回 練習課題4 - 1消点パースのトレースと着色</p> <p>第8回 最終課題「9坪ハウスのライフスタイルとインテリア」課題説明 ライフスタイルと周辺環境のイメージ、インテリアの方向性の設定。</p> <p>第9回 最終課題 レイアウト案エスキース、家具他インテリアエレメントの資料収集</p> <p>第10回 最終課題 インテリア平面図作成</p> <p>第11回 最終課題 インテリア断面展開図作成</p> <p>第12回 最終課題 1消点パース作成。各図面の着色。</p> <p>第13回 最終課題 各図面の仕上げ後、スキャナーで画像データ化 パソコンでレイアウト(Vectorworksを使用)。</p> <p>第14回 最終課題 プレゼンテーションボードの作成 (説明文、インテリアエレメントの画像などを加え、全体のレイアウトを整えて仕上げる)</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのプリントアウト 発表と講評および提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業の進度に遅れないよう、各課題を進め、授業中に完成しなかった場合は、次回までに完成させておくこと。 特に欠席した場合は、早めに遅れを取り戻すように、時間外に進めること。</p> <p>家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。</p>						
授業方法	実習(スライドを用いた解説、手描き図面およびパソコンを用いた作品制作)						

評価基準と評価方法	練習課題 30% : 図面表現の的確性や表現内容の工夫を評価する。到達目標(1), (2)の到達度の確認。 最終課題 40% : 設定したライフスタイルに対するインテリアコーディネートの的確性や工夫および図面表現の的確性を評価する。到達目標(1), (2), (3)の到達度の確認。 平常点 30% : テーマに関する文献・WEB検索等資料収集や見学等の取り組み方や関心度を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。
履修上の注意	ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、製図用シャープペンシル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。 また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	「はじめてのインテリア製図 合格する図面の描き方」第4版 著者： 星野智子 出版社： (株)ハウジングエージェンシー出版事業部 ISBNコード： 9784899902461 「スケッチパース着色編」 著者／編集： 宮後浩, 山本勇氣 出版社： 秀和システム ISBNコード： 9784798040530 その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア計画学I						
担当教員	矢代 恵					科目ナンバ-	F72350
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	住まいのインテリア空間の基礎知識と各室計画の基礎を修得する						
授業の概要	住まいのインテリア空間は、住まい手のライフスタイルに適応し、様々な生活行為を機能的に行い、美しく安全、快適な住生活を実現させるものでなければならない。空間各部を適切な寸法、形、材料、工法によって構成し、全体として調和のとれた合理的なものになるように計画するため、人間工学や機能的な空間構成、モジュール及び各部基準寸法、造形原理や色彩計画、安全性能などの基礎知識と住宅各室のプランニングの基本を学ぶ。インテリアコーディネーター資格試験対策として、問題解説も行う。						
到達目標	[1]目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を習得し計画に生かすことが出来る。【知識・理解】 [2]カラーや造形の専門用語を説明することが出来る。【知識・理解】 [3]インテリアコーディネーター資格試験対策問題を理解し解答できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス、インテリアと人間1（ライフスタイルとライフステージ） 第2回 インテリアと人間2（人体寸法と動作寸法） 第3回 インテリアと人間3（感覚・知覚・心理・行動）・ミニテスト1 第4回 インテリアと人間4（家具・機器と人間工学） 第5回 空間配置と規模・寸法・ミニテスト2 第6回 造形原理 第7回 色彩1（色彩基礎） 第8回 色彩2（空間と色）・ミニワーク 第9回 安全健康のための計画 第10回 生活様式と生活場面（リビング・ダイニング・キッチン） 第11回 高齢者・バリアフリーのための計画・ミニテスト3 第12回 各室その他の計画 第13回 リフォームの計画・ミニテスト4 第14回 まとめと試験 第15回 総まとめ・試験解説と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】各回授業で行うテキストの該当部分に目を通しておく。（学習時間1時間） 【授業後学習】今後の参考資料となるよう、毎回授業の内容をまとめて整理しておく。 関連する建築やインテリア空間やショールームに行き、授業で学んだことを体感し理解する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義（スライドレクチャー）と小演習・ミニテスト、問題解説（インテリアコーディネーター資格試験対策問題など）を組み合わせで行う。ミニワークショップやプレゼンテーションを取り入れた双方向型授業とする。						
評価基準と評価方法	平常点、期末試験の総合評価とする。（平常点（ミニテスト・ミニワーク含む）60% 期末試験40%） 平常点には、講義内容へのコメントや質問、関心の具体性と取り組み態度を加え評価する。 提出期限を厳守すること（遅れた場合は減点）欠席の場合は減点。 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。						
履修上の注意	教科書必携の事。 出席が9回以下の者には、原則として単位を認めない。2回遅刻で1回欠席、30分以上遅刻の場合欠席とする。 欠席の場合、次回までに自己学習し遅れを取り戻し支障がないようにし、指示されている持参物を忘れないようにする。						
教科書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻 著:インテリア産業協会 配布プリント						
参考書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版下巻 著:インテリア産業協会 インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究2019 上巻 編集:HIPS合格対策プロジェクト						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア計画学II						
担当教員	村上 隆行					科目ナンバ-	F72360
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築という構造物の中にインテリア空間をつくるための構造、工法と仕上げ、ならびに各種法規、制度等						
授業の概要	<p>建築の主な構造（木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造）、床・壁・天井の工法、造作や開口部、建具、階段等の構成、および各部の仕上げ材料、詳細等について学習する。</p> <p>またインテリア関連の様々な法規、規格、制度についても要点を学習し、適切なインテリア計画を行えるようにする。</p> <p>キーワード：構造、工法、仕上げ、法規</p>						
到達目標	<p>建築構造や構法を学ぶ意義を理解し、自ら学ぶことができる。（知識・理解）</p> <p>主要構造に関する基礎知識を身に付けている。（知識・理解）</p> <p>さまざまな工法・仕上げについての知識を有し、インテリア計画に活用することができる。（知識・理解）</p> <p>インテリアに関わる法規を順守する必要性を理解し、関連条文を正しく読み取ることが出来る。（知識・理解）</p>						
授業計画	<p>第1回 木構造</p> <p>第2回 木材について</p> <p>第3回 鉄骨造</p> <p>第4回 鉄筋コンクリート造とコンクリート</p> <p>第5回 小テスト①→グループワーク①、発表と講評</p> <p>第6回 インテリアの構法～床・壁・天井</p> <p>第7回 造作と造作材</p> <p>第8回 機能材料と構法</p> <p>第9回 建具・ガラス</p> <p>第10回 仕上げ材と仕上げ</p> <p>第11回 小テスト②→グループワーク②、発表と講評</p> <p>第12回 インテリア関連の法規～建築基準法Ⅰ（用語の定義、形態の制限等）</p> <p>第13回 インテリア関連の法規～建築基準法Ⅱ（環境衛生関連、避難、内装制限等）</p> <p>第14回 インテリア関連の法規～その他の関連法、インテリア関連の制度</p> <p>第15回 小テスト③→グループワーク③、発表と講評</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：各回授業で扱った箇所に該当する、参考図書中の問題に取り組み、小テストに備えること。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義形式</p> <p>図表や写真等の資料、実物材料サンプル等を適宜提示しながら、教科書にもとづいて進めて行く。</p> <p>各分野（3つに区分）のまとめとして、与えられたテーマについてグループワークを行い、成果を発表し、それに対してディスカッション・講評を行う。</p> <p>毎回、授業の終わりに、その日の講義要旨、疑問点等を記入・提出してもらうためのカードを配布する。</p>						
評価基準と評価方法	平常点30%、小テスト30%、グループワークでの意見・発表内容40%の評価とする。						
履修上の注意	授業の終わりに配布するカードへの記入内容は評価に影響しないが、未記入・未提出は減点とする。						
教科書	インテリアコーディネーターハンドブック総合版（下）（公社）インテリア産業協会発行						
参考書	インテリアコーディネーター1次試験 一問一答徹底研究 第5版（徹底研究シリーズ） HIPS合格対策プロジェクト 編集 ハウジングエージェンシー発行 ISBN 978-4899903680						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアコーディネート演習						
担当教員	小山 明子					科目ナンバ-	F74450
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	サニタリー、キッチン・ダイニングの詳細デザインを考える						
授業の概要	住空間のインテリアについて、各部の様々なエレメントを具体的に選択し、コーディネートする方法を学び、課題作品を制作する。 様々な材料や工法、寸法や納まりについての理解を深めるため、建材・住宅設備関係のショールーム見学を行い、ドローイング（平面図、展開図、照明計画図、パースなど）およびサンプルボードを作成、プレゼンテーションボードにまとめる。						
到達目標	2年時に学んだインテリアの材料や工法、納まり等についての知識をさらに深めながら応用し、インテリアデザインをトータルに構成し、表現する力を養う。 サニタリー、キッチンに関する具体的な素材を選択し、プレゼンテーションができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、課題「サニタリーの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第2回 ヒアリングレポート（クライアントプロファイル）の作成 第3回 サニタリー関係ショールーム見学 第4回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第5回 「サニタリーの設計」ドローイングの作成 第6回 「サニタリーの設計」サンプルボードの作成 第7回 課題「キッチン・ダイニングの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第8回 キッチン関係・照明関係ショールーム見学 第9回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第10回 「キッチン・ダイニングの設計」ドローイングの作成 第11回 「キッチン・ダイニングの設計」サンプルボードの作成 第12回 照明計画のポイント解説、参考事例の紹介、デザイン提案の作成 第13回 照明計画図の作成、プレゼンテーションボードのまとめ 第14回 課題の発表・講評 第15回 課題の手直し・追加、最終チェック・提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回授業で指定したキーワードについてWEB、カタログ、ショールーム等で下調べをする。設定するクライアントにヒアリングを行う。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で配布するプリントの演習課題について、より内容を深め完成度を上げる。ドローイングについては次回授業までに各々作業を進めていく。（学習時間2時間） 実在する身近な人をクライアントに設定して課題を進めます。 サニタリー、キッチン、照明、建材等のショールームの見学に行ってみましょう。 身近なサニタリーやキッチンについて、具体的な寸法や使用勝手を把握してみる。 （自宅の洗面の寸法を測る、キッチンにある物についてまとめるなど）						
授業方法	演習、講義：各テーマについてリサーチした内容をもとにグループディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、解説し知識の共有を行う。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード＋発表50%、平常点＋演習プリント50% 演習プリント以外の自主作成資料も評価対象とします。積極的に提出しましょう。 課題図面を用意しますが、自宅など既存図から作成する場合は加点あり。						
履修上の注意	1. 履修の対象者 ハウジングデザイン実習1A、1Bを履修済みのこと。 2. 学外見学について ショールーム見学を2回予定しています。（現地集合・解散） 火曜日の午前、夕方などの時間に変更する可能性があります。最初の授業で連絡をします。 3. 履修上の注意 各回出席者にはプリントを配布する。欠席者は次週授業時に取りに来ること。						
教科書	プリントを配布						
参考書	最高の水廻りをデザインする方法 著者：連合設計社市谷建築事務所 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1203-8 リノベーションの教科書 著者：小池志保子 他 発行所：学芸出版社						

参考書	ISBN978-4-7615-2673-3
-----	-----------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリア史						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F71340
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアデザインの歴史						
授業の概要	<p>古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。</p> <p>ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。</p> <p>キーワード：インテリア、デザイン史、デザイナー</p>						
到達目標	<p>(1) インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。(知識・理解)</p> <p>(2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。(知識・理解)</p> <p>(3) 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。(知識・理解)</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (授業の概要、進め方と学習目標など) 椅子とあかりの基礎知識</p> <p>第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代と中世のデザイン</p> <p>第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世のデザイン</p> <p>第4回 問題解説①ー西洋古典のインテリア、 日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代から中世へ</p> <p>第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世から近世へ</p> <p>第6回 学外研修ー身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学 (旧ハンター住宅と竹中大工道具館、土曜日に振替で行う予定)</p> <p>第7回 問題解説②ー日本伝統のインテリア 日本とヨーロッパの民家・町家</p> <p>第8回 モダンデザインの黎明ージャポニズム/万国博覧会 明治の日本</p> <p>第9回 アール・ヌーヴォー (新しい芸術) のデザイン</p> <p>第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント</p> <p>第11回 巨匠達の時代とデザイン</p> <p>第12回 北欧のモダンデザイン 問題解説③ー近代のインテリア</p> <p>第13回 ミッド・センチュリーのアメリカー・イタリア 日本の近代化</p> <p>第14回 ポスト・モダニズムの時代 問題解説④ーミッド・センチュリーデザインのデザインと日本の近代化</p> <p>第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：各回の授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。 (学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：各回の授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい (学習時間：2時間)。</p>						
授業方法	<p>講義 (スライドレクチャー)、問題解説 (インテリアコーディネーター試験過去問題など) を組み合わせて行う。毎回のミニレポートをチェックバックすることで、双方向型の授業とする。</p>						

評価基準と評価方法	毎回のミニレポート 50% : 講義内容についてのコメント・質問等、内容記述の的確性や関心の具体性を評価する。 到達目標(1), (2), (3)の到達度の確認。 期末試験50% : 講義内容についての理解度を評価する。到達目標(1), (2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。 学外研修で必要な入場料、交通費は学生各自の負担とする。
教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行：公益社団法人 インテリア産業協会 発売：一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3
参考書	「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2019上巻」 発行：ハウジングエージェンシー 「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1 その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアスペース論						
担当教員	矢代 恵					科目ナンバ-	F72420
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	住まいのインテリア空間の基礎知識と各室計画の基礎を修得する						
授業の概要	住まいのインテリア空間は、住まい手のライフスタイルに適応し、様々な生活行為を機能的に行い、美しく安全、快適な住生活を実現させるものでなければならない。 空間各部を適切な寸法、形、材料、工法によって構成し、全体として調和のとれた合理的なものになるように計画するため、人間工学や機能的な空間構成、モジュール及び各部基準寸法、造形原理や色彩計画、安全性能などの基礎知識と住宅各室のプランニングの基本を学ぶ。 インテリアコーディネーター資格試験対策として、問題解説も行う。						
到達目標	[1]目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を習得し計画に生かすことが出来る。【知識・理解】 [2]カラーや造形の専門用語を説明することが出来る。【知識・理解】 [3]インテリアコーディネーター資格試験対策問題を理解し解答できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス、インテリアと人間1（ライフスタイルとライフステージ） 第2回 インテリアと人間2（人体寸法と動作寸法） 第3回 インテリアと人間3（感覚・知覚・心理・行動）・ミニテスト1 第4回 インテリアと人間4（家具・機器と人間工学） 第5回 空間配置と規模・寸法・ミニテスト2 第6回 造形原理 第7回 色彩1（色彩基礎） 第8回 色彩2（空間と色）・ミニワーク 第9回 安全健康のための計画 第10回 生活様式と生活場面（リビング・ダイニング・キッチン） 第11回 高齢者・バリアフリーのための計画・ミニテスト3 第12回 各室その他の計画 第13回 リフォームの計画・ミニテスト4 第14回 まとめと試験 第15回 総まとめ・試験解説と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】各回授業で行うテキストの該当部分に目を通しておく。（学習時間1時間） 【授業後学習】今後の参考資料となるよう、毎回授業の内容をまとめて整理しておく。 関連する建築やインテリア空間やショールームに行き、授業で学んだことを体感し理解する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義（スライドレクチャー）と小演習・ミニテスト、問題解説（インテリアコーディネーター資格試験対策問題など）を組み合わせて行う。ミニワークショップやプレゼンテーションを取り入れた双方向型授業とする。						
評価基準と評価方法	平常点、期末試験の総合評価とする。（平常点（ミニテスト・ミニワーク含む）60% 期末試験40%） 平常点には、講義内容へのコメントや質問、関心の具体性と取り組み態度を加え評価する。 提出期限を厳守すること（遅れた場合は減点）欠席の場合は減点。 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。						
履修上の注意	教科書必携の事。 出席が9回以下の者には、原則として単位を認めない。2回遅刻で1回欠席、30分以上遅刻の場合欠席とする。 欠席の場合、次回までに自己学習し遅れを取り戻し支障がないようにし、指示されている持参物を忘れないようにする。						
教科書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻 著:インテリア産業協会 配布プリント						
参考書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版下巻 著:インテリア産業協会 インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究2019 上巻 編集:HIPS合格対策プロジェクト						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習I						
担当教員	榊原 節子					科目ナンバ	F72390
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ハウジング設計の基礎知識の習得						
授業の概要	小住宅ならびに集合住宅・住戸について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。 一年次に学習した住居の基礎知識をベースに、建築図面やインテリア図面の基礎や模型製作を習得する。 その上で最終課題では、住まい手を想定し立地環境も踏まえながら、一住戸の設計を行う。またクラス全員の参加で講評会を行い、自ら考えたことを他者に伝えるプレゼンテーション能力も会得する。						
到達目標	住宅設計のコンセプトづくりから、図面作成・模型製作・写真撮影・プレゼンテーションと建築設計の一連の行程を実践することにより、建築設計の方法論を習得します。(知識・理解、汎用的技能)						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 (模型の作り方) 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 (小住宅の模型づくり) 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「集合住宅(マンション)一住戸の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション、及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要。 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習: 学んだことを整理し、ノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
履修上の注意	建築設計の初めての実践的な授業であり、建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し時間厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では、教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ■製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版 or T定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、 テンプレート(建築士受験用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、 製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレーシングペーパー、 キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス等 ■模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター、 スチレンボード、両面ケント1mm、バルサ、スプレーのり、 貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工用ボンド、軟粘着両面テープ、マスキングテープ等 ■授業内容に関する質問を受けるための連絡先 info[at]setsuko-sakakibara.com 「メールをする場合は[at]を@に置き換えること」						
教科書							

参考書	新しい建築の製図(出版：株式会社 学芸出版社)
-----	-------------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習II						
担当教員	荒谷 省午					科目ナンバ-	F72400
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいや商業空間のインテリアデザインを考え、そのプレゼンテーション術を学ぶ						
授業の概要	「マンション住戸のリノベーション」「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」を課題とする。具体的な計画地を見学し、場所を設定したのちにコンセプト計画・プランニングを行い図面表現（平面・立面・断面）またはパースや模型などを作成してA1サイズ2枚程度にまとめて完成させる。						
到達目標	コンセプト計画やプランニングの力をつけることができる。 パース・模型作成などのプレゼンテーション手法等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。						
授業計画	第01回 オリエンテーション（課題説明とすすめ方） 第02回 現場見学会（敷地の見方、読み方、計画地の選定） 第03回 プランニング（エスキース：現状スケルトンの読み込み） 第04回 プランニング（エスキース：躯体とインテリア） 第05回 プランニング（プランニングの発想・動線のチェック） 第06回 プランニング（詳細計画） 第07回 課題作成（図面作成・模型作成） 第08回 課題作成（3Dデータの立ち上げ） 第09回 課題作成（開口部の検討） 第10回 課題作成（パースの視点の検討） 第11回 課題作成（ディテールの検討） 第12回 プレゼンテーション（最終チェック・パネル作成） 第13回 プレゼンテーション（3Dデータ テクスチャ・添景作成） 第14回 プレゼンテーション（模型作成） 第15回 発表（提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題作成の為に各自で専門誌やインターネット検索など、調査や資料収集を行うこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行うこと。						
授業方法	PPT（パワーポイント）でプロジェクターを使用した講義および実習（CAD使用）						
評価基準と評価方法	作品の完成度の総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること（減点対象） 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。						
履修上の注意	遅刻は2回を1回の欠席とし、1時間以上の遅刻は欠席とする。出席が9回以下の者は原則として単位は認めない。 欠席した場合は次回までに遅れを取り戻し、実習に支障のないようにすること。 見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。						
教科書	授業中に資料配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	F72040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族について社会的な視点から考察する						
授業の概要	家族について、その成り立ちや時代とともに移り変わってきた価値観や形態の変化について知る。また、現代の家族観や生活様式がどのように形成されてきたかを知る。一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、家族を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 ・個人のライフコースや家族を取り巻く諸課題が説明できる【汎用的技能】 ・家族が抱える諸課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる。【知識・理解、汎用的技能】 						
授業計画	第1回 ガイダンス（シラバス確認 導入課題） 第2回 家族の出発 第3回 家族の定義 第4回 家族の歴史 第5回 子どもと家族 第6回 パートナー選択と価値観 第7回 結婚と離婚の現状 第8回 結婚と生活経営 第9回 生活時間とライフコース 第10回 ジェンダーと家族 第11回 芸術作品に描かれる家族 第12回 子どもと女性の貧困 第13回 高齢期の生活と家族 第14回 いのちと家族 第15回 試験と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること。(30分) 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理する。(20分)						
授業方法	講義はパワーポイントにそって進め、毎時間ワークシートに穴埋めをして要点を整理する。講義の最後には、「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、家族を取り巻く社会的問題についてふれ、各自の意見を整理する活動や、それをもってペアワークやグループディスカッションなどを行うことがある。						
評価基準と評価方法	試験(40%)、ワークシート記入状況、受講態度などの平常点(60%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	カラーデザイン論 / (色彩検定3級対応)						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F11050
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カラーの基礎を学びデザインに活用できる応用力を学ぶ。						
授業の概要	ウェブページを始め、人が得る情報のほとんどは視覚を入口として得られる。効果的で説得力のあるウェブページを作成するため、カラーの本質を理解するとともに、積極的にカラーをコーディネート、コントロールできるよう基礎的な知識を学ぶ。主な内容は、色とは何か、色の見え方、眼のしくみ、色の測定方法、照明、色の混合、色の表示、色彩心理、色彩調和、色彩計画などについて理解を深め、ウェブをデザインする上の基礎的な知識を習得する。						
到達目標	1) 色彩検定3級の過去問がとける【知識・理解】 2) 眼のしくみが説明できる【知識・理解】 3) ウェブ上において色の見え方の違いを身につける【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) : 色とは 2. 色はなぜ見えるのか。 3. 眼のしくみ 4. 色の測定方法や照明と色の見え方 5. 色の混色 6. 色の表示 (日本色研配色体系 (P.C.C.S.)) 7. 色の心理的効果 8. インテリアの配色 9. 色彩検定 過去問 10. 色彩調和1 : 色相を手がかりにして配色を考える 11. 色彩調和2 : トーンを手がかりにして配色を考える 12. 色彩調和3 : 配色の基本的な技法 13. 色のイメージと連想 14. 色彩効果 : 色彩と構成 15. 色彩計画、最後に試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 : 授業内で説明する。(学習時間60分) 授業後学習 : 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間60分)						
授業方法	講義 : ①教科書を中心に進める。 ②各回授業の内容に沿った練習問題や課題をする。 ③色彩検定3級の過去問を練習する。 ④テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	試験80% : 色彩検定3級のレベルの理解度を評価する。到達目標 (1) および (2) に関する到達度の確認。 提出物20% : 色のイメージデザインやウェブデザインの課題を評価する。到達目標 (3) に関する到達度の確認。 課題 (練習問題) に対するフィードバックの方法 : 採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする ③ 色彩検定3級を受験するのが望ましい。6月23日 (日) 実施。資格サポートセンターに申し込む (5月16日 (木) 締切) ④ 指定する課題は、締切までに必ず提出する。 ⑤ 購入した教科書は、「ライフカラーコーディネート演習」にも使用する。 ⑥ ファッションデザイン概論で『新配色カード199b』を購入した学生は、同じものを使用する。						
教科書	『文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト3級』、監修全国服飾教育者連合会 (A・F・T) 『新配色カード199b』 (日本色研事業株式会社) 尚、『新配色カード199b』を他の授業で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	からだの文化史						
担当教員	川井 ゆう					科目ナンバ-	F12080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	からだについての文化的なことからを学習する						
授業の概要	時代によって地域によって、ときには性別によっても、そして個人においてさえ、からだに対する考え方は多様です。からだをどう見せるのか。どうなりたいか。でも、知らないうちにからだが習得しているふるまいもあります。ヒトはこれまで、からだとさまざまなつきあい方をしてきました。この授業ではからだについてのいろいろな視点からお話します。関心のある方に、自分自身のからだについても文化的な興味を持ってもらうことを目指します。						
到達目標	(1)ファッションとハウジングデザインにおけるからだについての生活文化を理解することができる【知識・理解】 (2)ファッションとハウジングデザインにおけるからだに関する専門用語を理解し、表現することができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 授業内容の説明と取り組み方 第2回 「食」—しぐさとマナー 第3回 「食」—世界のタブー 第4回 「飾」—欧米の装い 第5回 「飾」—日本の装い 第6回 「飾」—日本の美意識 第7回 第1回から第6回までの授業のまとめと小テスト 第8回 「視覚」の作用 第9回 「視覚」の効果 第10回 欧米における死に対する考え方と医学、そして見世物 第11回 日本における自然とのかかわりと医術 第12回 からだとことば 第13回 からだと芸術 第14回 第8回から第13回までの授業のまとめと小テスト 第15回 全体の授業のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業前に提示されたテーマについて考え、実際の授業内容と比較し、考え方の違いを理解すること。授業後学習：ノートをとる訓練—授業中にとったノート(テイキングノート)は走り書きやひらがな書きがあり、まとまりがないことが多い。そのため、将来見かえしたときに授業内容がわかるようにノートをまとめておくこと(メイキングノート)。その際、知らなかったことばを辞書などで確かめ、疑問に思ったことや、わからなかったことなどもノートに記し、調べておくことも重要である。出された課題に取り組む—本授業では毎回課題が出される。それについて調べる、もしくは考えてノートにまとめておくこと。						
授業方法	講義：毎回異なった視点をふまえてからだについて講義する。必要に応じてディスカッションも行う						
評価基準と評価方法	授業内での小テスト(2回)50%、期末試験50% 小テストと期末テストでは、それぞれの授業内容についての設問と、授業で出される課題の成果が問われる。						
履修上の注意	授業内で提示する図版のなかには、医学的なものもあり、留意されたい。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次					科目ナンバ-	F73540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	庭づくり・ガーデニングは暮らしを彩り、楽しむためのもの。庭を楽しむための基礎的知識の習得とデザイン実習。						
授業の概要	質という面で住まいを考えると、建物としての「家」と「屋外環境」そして「インテリア」の3つは相互に関係している。単なる「外構(がいこう)」ではなく、楽しむための「庭あるいはガーデンを語れること」が住まいのデザインの幅を大きく広げることに繋がると考えている。この講義では、「屋外環境をいかにして形にしていくか」を、機能面だけではなく、デザインやテクニカルな要素だけでもなく、庭やバルコニーの「楽しみとは何か」といったことにも踏み込んで考えていきたい。						
到達目標	1、住宅産業や造園業の現場での実践的な基礎的デザインスキルを身につける。 2、基礎的な数十種の造園樹木や草花の知識を習得する。 3、イメージする庭のデザインをプレゼンテーションシートにまとめることができる。						
授業計画	次のトピックを扱う予定である。ただし、順序は必ずしもこの限りではない。 1、スタイル別に庭のデザインを整理する(日本) 2、スタイル別に庭のデザインを整理する(外国) 3、住まいの庭の居心地の良さや楽しみとはなにかを考える 4、住まいの庭の実例研究(失敗例に学ぶ) 5、街並みのデザインについて考える 6、外構・庭・エクステリアの構成要素を整理する 7、植栽デザインの基礎 8、ガーデニングにしたい植物(樹木) 9、ガーデニングにしたい植物(灌木) 10、ガーデニングにしたい植物(花やグランドカバー) 11、庭のデザイン手法(アプローチ編) 12、庭のデザイン手法(主庭編) 13、バルコニーガーデンを学ぶ 14、植栽の管理とメンテナンス 15、庭づくりに関する業種と現場のアラカルト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	1、下記をプレゼンシートとして提出を求める。 ・中間演習: キャンパス内の「庭」を考察し、デザインする。(学習時間: 約6時間以上) ・期末演習: ハウジングにおけるガーデニングデザイン。(学習時間: 約18時間以上) 2、授業後学習: 街には多くのガーデニング事例がある。これを常に気に留め、デザイナー及び住まい手のデザイン意図をくみ取り、レポートとして提出する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	・前半は主として、モニター(実際の庭やそれらの図面などの実例及び植物の写真等)を見ながらの講義とする。 ・後半は、実践としての簡単な庭のデザイン演習を取り入れた講義とする。 (演習10回程度を予定) デザイン演習においては、各回、テーマについて、2~3名でのグループディスカッションを行い、その結果発表を踏まえた講義・演習を実施する。 ・教科書を元に、庭づくり・ガーデニングのノウハウやポイントを解説する。 ・宿題を出すことがある。						
評価基準と評価方法	主として中間デザイン演習・期末デザイン演習をもとに評価するが、授業内の演習や授業態度も成績に加味する。配分は以下のとおり。 ・中間デザイン演習20%(授業で扱った景観構成計画・庭の楽しみを活かした計画となっているか、そしてそれを表現するにふさわしいプレゼンテーションとなっているかを評価する) ・期末デザイン演習50%(授業内演習によって学んだガーデン設計手法の理解度・植物の多様性・プレゼンテーションの的確性を評価する) ・授業内デザイン演習30%(デザイン手法の理解度を評価する) 中間デザイン演習及び期末デザイン演習の提出は必須である。						
履修上の注意	覚えるためだけでなく、デザインを考えるためのポイントをメモに取ってください。 教室外(大学構内)での講義も予定している。 場合によっては、教室外(学外)での講義を行うことがある。(大学周辺の街並み等の視察など)						
教科書	自分流に楽しむ「気まま」な庭づくり 第二版 著者: 清水光次 出版社: メタ・ブレーン ISBN4-944098-36-7						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。【汎用的技能】 2. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。【汎用的技能、知識・理解】 3. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。【汎用的技能】						
授業計画	1. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】 2. チームで考える——どこのくにでしょう + 美術史4区分【中林 浩】 3. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】 4. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】 5. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】 6. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】 7. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】 8. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】 9. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】 10. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】 11. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】 12. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】 13. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】 14. 「ファッション・イメージ」 トレンド・コーディネートMMと説明【中村 茂】 15. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。60分程度。						
授業方法	演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。【汎用的技能】 2. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。【汎用的技能、知識・理解】 3. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。【汎用的技能】						
授業計画	1. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】 2. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】 3. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】 4. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】 5. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】 6. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】 7. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】 8. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】 9. 「ファッション・イメージ」トレンド・コーディネートMMと説明【中村 茂】 10. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】 11. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】 12. チームで考える——どこのくいでしょう + 美術史4区分【中林 浩】 13. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】 14. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】 15. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。60分程度。						
授業方法	演習： 資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。【汎用的技能】 2. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。【汎用的技能、知識・理解】 3. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。【汎用的技能】						
授業計画	1. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】 2. チームで考える——どこのくにでしょう + 美術史4区分【中林 浩】 3. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】 4. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】 5. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】 6. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】 7. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】 8. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】 9. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】 10. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】 11. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】 12. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】 13. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】 14. 「ファッション・イメージ」 トレンド・コーディネートMMと説明【中村 茂】 15. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。60分程度。						
授業方法	演習：資料収集などのグループワークや相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子・中村 茂					科目ナンバ-	F0101A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー入門						
授業の概要	基礎演習Aでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの入門編について学ぶ。前期は3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、身近な生活空間である本学キャンパスの観察を通じた資料収集とグループによるまとめ、チームで話し合うことによる多様な意見、考え方の共有、デザインやプロジェクトの発想源となるイメージの表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	1. キャンパスを観察し、テーマに沿って資料収集や空間評価を行い、話し合いまとめられる。【汎用的技能】 2. 話しあいによって結論を得る練習。あわせて美術史を大きくとらえる第一歩。【汎用的技能、知識・理解】 3. マインド・マップを利用してアイデア探索、デザイン発想、プロジェクトを計画できる。【汎用的技能】						
授業計画	1. キャンパス・ウォッチング課題説明、コメントの記入、発表【米原 慶子】 2. 前回のコメントからテーマ抽出、グループ分け、グループディスカッション【米原 慶子】 3. グループごとにキャンパス調査、写真撮影など資料収集【米原 慶子】 4. 調査結果のまとめ(グループ別)【米原 慶子】 5. 発表およびディスカッション、ミニレポート作成、提出(個別)【米原 慶子】 6. マインドマップとは、作成ルール、応用例【中村 茂】 7. 「今日の私のファッション」 色彩やイラストの活用法【中村 茂】 8. 「文章・映像の要約」 文章・映像内容の構造をMMで表現し、要約文を作成【中村 茂】 9. 「ファッション・イメージ」トレンド・コーディネートMMと説明【中村 茂】 10. 「旅行計画」 MMの再編成とソフトの利用【中村 茂】 11. アイスブレイクをいくつか【中林 浩】 12. チームで考える——どこのくいでしょう + 美術史4区分【中林 浩】 13. チームで考える——迷宮のどこに宝物があるか【中林 浩】 14. チームで考える——どんな立体になるのだろう【中林 浩】 15. 4年間の目標をみんなで考える【中林 浩】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。60分程度。						
授業方法	演習： 資料収集などのグループワーク、相互理解のためのディスカッション、イメージ表現のプレゼンテーションなどを行う。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	(1) 町で見てきたものを図示する練習。(汎用的技術) (2) 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。(知識・理解)(汎用的技術) (3) 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。(汎用的技術)						
授業計画	1. 模写1【中林 浩】 2. 模写2【中林 浩】 3. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】 4. 絵に説明を入れる【中林 浩】 5. コラージュを作る【中林 浩】 6. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】 7. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】 8. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】 9. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】 10. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】 11. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】 12. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】 13. 整理する：考えるシート(マインド・マップ)を使って書こう【徳山 孝子】 14. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】 15. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。(1.5時間)						
授業方法	演習：描く、書く、発表するなど、各回で設定される表現方法で課題に取り組む。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	(1) 町で見てきたものを図示する練習。(汎用的技術) (2) 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。(知識・理解)(汎用的技術) (3) 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。(汎用的技術)						
授業計画	1. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】 2. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】 3. 整理する：考えるシート(マインド・マップ)を使って書こう【徳山 孝子】 4. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】 5. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】 6. 模写1【中林 浩】 7. 模写2【中林 浩】 8. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】 9. 絵に説明を入れる【中林 浩】 10. コラージュを作る【中林 浩】 11. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】 12. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】 13. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】 14. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】 15. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。(1.5時間)						
授業方法	演習：描く、書く、発表するなど、各回で設定される表現方法で課題に取り組む。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	(1) 町で見てきたものを図示する練習。(汎用的技術) (2) 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。(知識・理解)(汎用的技術) (3) 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。(汎用的技術)						
授業計画	1. 模写1【中林 浩】 2. 模写2【中林 浩】 3. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】 4. 絵に説明を入れる【中林 浩】 5. コラージュを作る【中林 浩】 6. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】 7. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】 8. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】 9. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】 10. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】 11. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】 12. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】 13. 整理する：考えるシート(マインド・マップ)を使って書こう【徳山 孝子】 14. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】 15. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。(1.5時間)						
授業方法	演習：描く、書く、発表するなど、各回で設定される表現方法で課題に取り組む。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	徳山 孝子・中林 浩・井上 裕之					科目ナンバ-	F0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーション・リテラシー基礎						
授業の概要	基礎演習Bでは4クラスに分かれ、大学4年間の学習の基盤となり、かつ2年次の地域貢献デザイン演習において必要となるコミュニケーション・リテラシーの基礎編について学ぶ。後期も3人の担当教員によるオムニバス形式で5回ずつ教室も交代しながら進行する。内容は、前期の入門編を踏まえ、本学キャンパスから身近な地域社会に広げた観察結果の写真や絵による活用法、話し合いから双方向のコミュニケーションを可能にする情報編集とプレゼンテーション、文章によるコミュニケーションの基礎となる表現スキルなどの習得が目的となる。詳細に関しては新入生ガイダンス時にオリエンテーションを実施する。						
到達目標	(1) 町で見てきたものを図示する練習。(汎用的技術) (2) 情報を他者に伝わりやすいよう編集し、プレゼンテーションすることができる。(知識・理解)(汎用的技術) (3) 聞く、読む、書く、伝えるなどの力が身に付き、レポートが書ける。(汎用的技術)						
授業計画	1. 読む・まとめる：要約して書こう【徳山 孝子】 2. 表現する：五感を使って書こう【徳山 孝子】 3. 整理する：考えるシート(マインド・マップ)を使って書こう【徳山 孝子】 4. 調べる：図表や文献を使って書こう【徳山 孝子】 5. 考え、伝える：レポートを書こう【徳山 孝子】 6. 模写1【中林 浩】 7. 模写2【中林 浩】 8. 自分で撮った写真を絵にする【中林 浩】 9. 絵に説明を入れる【中林 浩】 10. コラージュを作る【中林 浩】 11. 情報を伝えるということ。テーマの考案【井上 裕之】 12. リサーチ：情報収集の方法【井上 裕之】 13. 編集と構成：情報を編集し、プレゼンテーションの構成を考える【井上 裕之】 14. 資料作成：パワーポイント、原稿を作成する【井上 裕之】 15. プレゼンテーション：発表会形式でプレゼンテーションをおこなう【井上 裕之】						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。(1.5時間)						
授業方法	演習：描く、書く、発表するなど、各回で設定される表現方法で課題に取り組む。						
評価基準と評価方法	授業時の態度、積極性、小レポートなどの平常点(50%)、各5回の担当教員による主要課題の平均(50%)を合わせて評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位取得のためには10回以上の出席を必要とする。授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。授業に必要な用具・素材などの指示に注意すること。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	化粧品学演習						
担当教員	森元 亜希子					科目ナンバ-	F72100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	メイクアップテクニックの基礎を学ぶ。						
授業の概要	相モデルで基本的なメイク姿勢、接し方、テクニックを学び、メイクを通してコミュニケーション能力も身につける。						
到達目標	①顔型による印象の違い、メイクの仕方で変わる印象の違いなどを学ぶ【知識・理解】 ②一人一人の顔の特徴を理解し、正しい姿勢でメイクアップが出来る【汎用的技能】 ③実技を通じて、メイクへの興味をより具体的なものとして意識する事ができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 メイク姿勢、立ち位置、道具の並べ方 第2回 スキンケア、マッサージ 第3回 ベースメイク、ローライト、ハイライト 第4回 アイブロウの形、書き方 第5回 アイメイクの種類、しかた 第6回 チーク、リップ 第7回 ナチュラルメイク 第8回 イメージメイクsoft 第9回 イメージメイクsharp 第10回 カウンセリングのしかた 第11回 カウンセリングメイク 第12回 課題作成 第13回 課題作成 第14回 課題作成 第15回 まとめ、復習、実技テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	ペアごとに所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの結果をふまえて、各回設定のテーマについて、解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度40%：基本実技科目のため、実習への姿勢を重視する。 課題提出30%：1枚のレポートがあります。 実技テスト30%：フルメイクのテストを1回行う。						
履修上の注意	美容健康演習（履修者が望ましい） 相モデルでの実習のためケガ防止のため爪は短く切る。 5回以上欠席で原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 相モデルでの実習に参加しない人は、放棄とみなし欠席とする。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	日本化粧品検定2級、3級対策テキスト 主婦の友社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	化粧品演習						
担当教員	森元 亜希子					科目ナンバ-	F72100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	皮膚の構造やしくみを学び、化粧品の選び方を理解する						
授業の概要	私たちは、お肌を健やかに保つための補助として化粧品を使用します。しかし世の中には化粧品がありふれています。それは皆が同じ肌質ではなく、使用する化粧品も違うからです。ここでは皮膚の構造やしくみ、働きなどを学び、さまざまな肌質を理解し、化粧品選びが出来るようになる事、テクニックを学ぶ。						
到達目標	①皮膚の構造やしくみ、働きを知り、肌のタイプ別も化粧品を知る。【知識・理解】 ②肌の手入れのしかた、基本のメイクアップができる。【汎用的技能】 ③メイクに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・思考性】						
授業計画	第1回 道具の説明、美と健康について 第2回 皮膚の構造、しくみと働き。クレンジングのしかた 第3回 肌タイプと見分け方。スキンケアのしかた 第4回 紫外線対策について。 第5回 下地、ファンデーション 第6回 形態学。ローライト、ハイライト 第7回 アイブロウ 第8回 アイメイク 第9回 チーク 第10回 リップ 第11回 イメージメイク（浴衣編） 第12回 イメージメイク（オルチャン編） 第13回 イメージメイク（外人風編） 第14回トレンドメイク課題作成 第15回 復習、まとめ、筆記テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容と重点箇所を確認、整理をする。（学習時間2時間）						
授業方法	ペアで所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの仕上がりをふまえて、各回設定のテーマについて解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%：授業への姿勢、実技をしっかりと行なっているかで評価します。 課題提出40%：トレンドメイクを調べるレポート1枚あります。 筆記テスト30%：30点満点のテストが1回あります。						
履修上の注意	実習にはしっかり取り組む事。理由なく放棄した場合は欠席とみなす。 欠席が5回以上で、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	日本化粧品検定2級・3級対策テキスト 主婦の友社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバ-	F73570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住宅に関わる建築基準法および関連法規の基礎知識の習得						
授業の概要	住宅の企画・設計・販売およびインテリア関連の仕事に就くために最低限必要な建築基準法の基礎知識と建築関連法規の概要を、参考事例などを見ながら学ぶ。将来の実務で不可欠な基礎的内容および2級建築士やインテリアコーディネーターなどの資格試験の学習にも役立つ内容を中心に解説する。 キーワード：建築基準法、建築関連法規、住宅、インテリア						
到達目標	(1)建築基準法の基本的な事項の把握と現代の住宅に関する関連法規の概略が把握できる。【知識・理解】 (2)建築基準法および関連法規に関する基礎知識を解釈し、建築・インテリア計画に応用する知識を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス、「法の目的、用語の定義」 第2回 建築基準法の基礎1「面積、高さ」＋小テスト 第3回 建築基準法の基礎2「採光、換気、階段」 第4回 建築基準法の基礎3「建築設備と構造」＋小テスト 第5回 建築基準法の基礎4「防火、耐火1」 第6回 建築基準法の基礎5「防火、耐火2、内装制限」＋小テスト 第7回 建築基準法の基礎6「避難設備1」 第8回 建築基準法の基礎7「避難設備2」＋小テスト 第9回 建築基準法の基礎8「道路、用途地域」 第10回 建築基準法の基礎9「容積率と建ぺい率」＋小テスト 第11回 建築基準法の基礎10「高さ制限、日影規制」 第12回 建築基準法の基礎11「地区計画、建築協定」＋小テスト 第13回 関連法規1「建築士法、消防法」 第14回 関連法規2「宅建業法、バリアフリー法ほか」＋小テスト 第15回 講義のまとめ＋レポート						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点があれば小テストまでに質問できるよう準備しておく。（学習時間約1時間） 授業後学習：ノート、プリント、小テストをファイル等に整理し、疑問点をまとめる。（学習時間約1時間）						
授業方法	講義：テキストに基づき、各テーマについてポイントの解説・講義を行う。また、各テーマで学んだ知識の理解を深めるため、テーマに即し、資格試験過去問題などによる練習課題を行う。						
評価基準と評価方法	平常点30%、小テスト＋レポート70%とする。欠席した場合は減点対象。						
履修上の注意	履修対象者は、専門的な内容となるため、住宅およびインテリアの分野において専門的な仕事をを目指す人の受講が望ましい。 内容に関連する見学を指示する場合がある。 10回以上の出席がない場合は、原則として期末レポートの提出資格を失います。						

教科書	基礎教材『建築法規』 発行年月 2007年09月 ISBN:978-4-7530-1745-4 出版社：井上書院 その他、プリントを配布。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	清水 光次					科目ナンバ-	F72500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築・住宅・内装を構成する材料（建築材料＝コンクリート・木材・鋼材・ガラス・各種内装材など）に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・建築物は、骨組みである構造体と、内外壁、屋根、内部の間仕切りなどの造作や、建具、電気や衛生といった設備類から成り立ち、各々が多様な材料から作られている。</p> <p>住居やインテリアのデザインに際してのみならず、それらを考え、論じるときに、建築やインテリアを構成するものがどのような材料から作られており、それぞれどのような性質を持ち、どのような使い方をすればよいかを知っていることが大切である。それを知らなければ、建築や空間デザインはできないといっても過言ではない。この講義では、建築の構造体となる木材・コンクリート・鋼材を中心に、内部造作材や内装仕上げ材にいたるまで、建築材料全般について学習する。</p> <p>・仕事でなくとも、生活者の常識として知っておきたい建築材料の基礎を習得する。（マンション購入時や一戸建て住宅新築時に役立つように）</p> <p>《●将来、建築士資格取得を予定している者は必須》</p>						
到達目標	<p>1 ハウジング・インテリア関係の仕事（デザイン・設計・施工・監理など）に就く上で必要となる、主要な建築材料の分類や性質を理解する。</p> <p>2 建築士試験・建設現場で普遍的に使用されている物の名称や用語を知る。</p>						
授業計画	<p>次のトピックを扱う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、建築材料の概要（歴史・分類・性能） 2、木材（1）日本建築と木材、種類と特徴 3、木材（2）強度、構造、規格、等級 4、木材（3）その他使用方法など 5、コンクリート（1）コンクリートの性質・調合 6、コンクリート（2）種類、強度 7、コンクリート（3）破壊実験・強度試験 8、鋼材（1）鉄の歴史、性質、腐食、規格 9、鋼材（2）その他 10、焼成品（タイル、レンガ、瓦、衛生陶器など） 11、ガラス・石 12、地盤について 13、左官材料・ボード類・塗料 14、内装仕上げ材（クロス、カーペットなど） 15、機能性材料（断熱材や防水材ほか） <p>※ただし、順序、ボリュームは必ずしも上記の限りではない。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>1 教科書の予習と復習。（学習時間：1時間/週）</p> <p>2 常に身の回りの建築空間やインテリアを見て、部位別に使われている材料が何か、を興味を持って調べ、確認する。</p> <p>上記について、レポート提出を求める。（計4回）（学習時間：2時間/回）</p>						
授業方法	<p>主として、教科書を中心とした講義形式。</p> <p>できるだけ実物（材料サンプル）に触れて、理解を深める。</p> <p>※教室外授業：キャンパス内の建物を実例に、どんな材料が使われているか、及び施工方法を確認し、2～3名によるグループディスカッションを行う。</p> <p>※実験：学生自身による実際のコンクリートの破壊実験・強度測定実技を実施する予定である。（外部講師招聘予定）</p>						
評価基準と評価方法	<p>主要な单元ごとに小テストを実施する。（4回ないし5回を予定）</p> <p>レポートの提出を求める。（4回）</p> <p>評価の配分は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト合計50%（授業内容の理解度を評価） ・レポート合計40%（自らの興味・関心を強く持ち、それを満足させる行動を起こせるかどうかを評価する） ・平常点10%（校内学習時や実験に積極的に取り組むかどうかを評価する） 						
履修上の注意	<p>ひとつずつ、「知識として覚える」ことを意識して、受講してください。</p> <p>教科書に触れられていないことも多々講義するので、メモしてください。</p> <p>※場合によって教室外授業（学外）を行うことがある。（他の研究施設などの見学）</p>						
教科書	<p>やさしい建築材料 第二版 著者：松本進 出版社：学芸出版社 ISBN978-4-7615-2417-3</p>						

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築施工学						
担当教員	植田 道則					科目ナンバ-	F73560
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	設計及びデザインに必要な建築生産の基礎知識を習得する						
授業の概要	建築を設計したり、デザインするためには、建築施工の基礎知識を必要とします。建築材料ごとに細分化された工事や仕組み、施工から生産システムへの流れ、あるいは、最新木造建築、ストックのための耐震改修等、時代の要請に対応することが技術にも、それを習得しようとする人にも求められます。授業では、担当教員が実務で得た施工のエッセンスを織り交ぜた資料を提供*1、座学と建築生産の体験実習を通して、モノづくりとしての建築に、知的で豊かな関心をもつ視座を身に付けてもらいます。						
到達目標	基礎工事、躯体工事、仕上げ工事等の建築物生産各工程の仕組みや留意点等を学び、さらには設計や維持管理を含めた建築生産全体における施工の位置付け等を学ぶことにより、将来の二級建築士として取得のための資格と必要な知識を取得を目指します。						
授業計画	第1回目：オリエンテーション、建築生産とは 第2回目：着工準備～施工計画立案 第3回目：仮設工事・準備工事 第4回目：土工事・地業・基礎工事 第5回目：鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事1 第6回目：鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事2 第7回目：鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事3 第8回目：第1回から第7回までの復習、中間試験 第9回目：鉄骨工事（工場製作・溶接・現場施工） 第10回目：耐震改修工事・木工事 第11回目：【学外研修】：建築生産の体験型実習（※竹中技術実務研修センター「想」（川西市）） 第12回目：コンクリートブロック工事・屋根・防水工事 第13回目：仕上工事・設備工事1 第14回目：仕上工事・設備工事2 第15回目：第1回から第14回までのまとめ、期末試験・						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	復習として、各回の授業時に配布する資料の読み込み（30分から1時間程度） 予習として、授業時に提示する課題の回答、レポート作成（30分から1時間程度）						
授業方法	各回の授業の最後には、その日の演習課題を配布して、次の授業の最初に提出してもらい、答え合わせをします。各回の授業は、講義と講義に基づく課題演習・レポート作成で、対話しながら進めます。特にアクティブラーニングの一環として、第3回目の講義内容である仮設工事・準備工事に関し、“自らが考える仮設”をテーマにプレゼンボード作成と展示を行い、受講生を起点とした、相互的・能動的な意見の発信を行っていただきます。						
評価基準と評価方法	試験50%、各回の演習課題提出50%						
履修上の注意	1) 履修の対象者 建築の設計及び施工に興味を持つ人で、将来二級建築士資格の取得を目指す人を対象とします。 2) 課題の提出 授業で配布した課題（演習）に対する各自の解答を、次回の講義のときに提出のこと。解答の内容は評価の対象とします。 3) 出席 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4) 学外見学 第11回に建築生産の体験型実習を実施します。但し研修施設の都合等により日程等を変更することがあります。なお現地までの交通費等は各自が負担してください。 5) 質問は授業の前後、若しくは、下記連絡先メールアドレスでも受け付けます。						
教科書	教科書はありません。都度、講義中にプリントを配ります。						
参考書	①『2級建築士過去7年試験問題集』（成美堂出版）ISBN：978-4415206585 ②『初学者の建築講座 建築施工（改訂版）』大野隆司 監修 中澤明夫、角田誠 著 市ヶ谷出版社 ISBN：978-4-87071-121-1 ①、②ともに必ずしも、購入の必要はありません。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	構造力学						
担当教員	清水 光次					科目ナンバー	F73580
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	構造力学は、物体にかかる力を計算して安全な建築物・構造物を設計するための学問であるが、この授業では、その基礎的な約束事ともいえるいくつかの理論を取り上げる。						
授業の概要	安全な建築物を設計するためには、各種構造の基礎理論としての構造力学を理解することが不可欠である。そのために、建物に作用する様々な力を計算によって把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形の力学を学ぶ。将来、建築士資格試験の勉強を始めるにあたって、構造分野の学習がスムーズに行えるための力学の基礎知識を習得する。 《●建築士資格の取得を目指す者は必須》						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 外部から加えられた荷重や風力といった力が、建築物の各部材や支点にどのように伝わるかを理解する。 2 その力を合成・分解することによって整理できるようになる。 3 部材や支点に及ぼされた力を計算式によって数値化できるようになる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎知識（力の単位など） 2 基礎知識（建築構造のモデル化など） 3 力とモーメント 4 力の合成 5 力の分解 6 力学モデルと反力 7 力の釣り合いの式 8 静定構造物・反力の計算（単純梁） 9 制定構造物・反力の計算（片持ち梁） 10 静定構造物・反力の計算（静定ラーメン） 11 部材が受ける力（応力とは） 12 応力の計算方法（片持ち梁と単純梁） 13 応力の計算方法（静定ラーメン） 14 応力の計算方法（トラス構造） 15 応力度の理解 <p>※講義の順番及びボリュームは必ずしもこの限りではない</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で実施した演習問題を必ず見直し、理解を確実なものにした上で、次の授業に臨むこと。 （授業外での学習時間2時間/週程度）						
授業方法	講義＋演習。 1 授業中に数学的な計算問題を解く演習や図形を描く演習を毎回実施する。 各回の演習テーマに基づき、2～3名でのグループディスカッションを経て、構築物と力の関係のとらえ方、解答の導き方を発表する。その発表を踏まえて、演習を組み立てる。 2 宿題を出すことがある。						
評価基準と評価方法	中間試験・期末試験を実施する。 中間試験・期末試験の受験は必須である。 評価方法は以下の通り。 ・中間試験：30%（授業内容の理解度を評価する） ・期末試験：50%（同上） ・授業内演習・グループディスカッションの発表・宿題：20%（理解しようとして取り組んでいるかどうかを評価する）						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・持参するもの：三角定規、電卓（ルート計算機能付き程度のもの・携帯電話の電卓機能は認めない） ・授業は、Aの理解→A+Bの理解→A+B+Cの理解、というように段階的に積み上げて進んでいくため、連続して欠席すると、以降の講義内容が理解できなくなります。 欠席した場合は、必ずプリントを読むなど、講師に問うなど、授業内容について行く努力をしてください。 ・基礎的な数学の知識が必要である。 <p>※補講を行うことがある。</p>						
教科書	レジュメ配布。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	室内環境論						
担当教員	池田 久司					科目ナンバ-	F73550
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	室内環境の成り立ちと環境調整のための技術						
授業の概要	美しいこと、構造的に強いことに加え、人が快適に過ごすことができるということは建物にとって大切な要素です。室内環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々、これらからの影響を受け生活しています。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の身体や健康にどのように影響しているか、これらをどのようにコントロールすればより快適な環境を得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを学びます。						
到達目標	採光や照明、熱と空気、湿気の振る舞い、騒音や遮音について、その仕組みを理解し、身近な生活環境での現状分析・改善策の検討を通して、環境設計の考え方を身につけることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 室内環境の要素とその単位 2. 熱の性質 3. 建物の熱性能 4. 日照環境 5. 湿気と結露 6. 体感温度 7. 外界気象 8. 空気の質と流れ 9. 換気と通風 10. 音の性質・室内の音環境 11. 光の性質 12. 採光と照明計画概要 13. 照明計画 14. 給水・給湯・排水 15. 授業内容のまとめ・総復習 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次回の授業内容に関して、教科書の該当箇所を予習し用語や事例について下調べを行うこと（学習時間：1時間）</p> <p>授業後学習：講義内容を踏まえて、身の回りの環境を分析・評価し理解を深める。また授業内で行う小テストの問題を改めて解き直すこと（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	講義 ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業内で行う小テスト：30%、 課題レポート：70%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> (1) 毎回、教科書を持参すること。 (2) ほぼ毎回、授業の最後に小テストを行う。 						
教科書	『インテリアコーディネーターハンドブック 統合版 下』インテリア産業協会編、インテリア産業協会 ISBN 978-4-86374-143-0						
参考書	『設計のための建築環境学』日本建築学会編、彰国社 ISBN978-4-395-00894-0						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	身体表現実習						
担当教員	松田 優					科目ナンバ-	F12070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	舞台衣裳を通じて身体表現を学ぶ。						
授業の概要	舞台芸術における衣裳の視覚的要素は観客に多大な影響を与え、演者の役柄によって衣裳の色彩・素材・形状の表現方法が変わってきます。設定したテーマに基づき表現方法を学び具現化していきます。						
到達目標	(1) 役柄に合わせた衣裳の色彩・素材・形状の表現方法を習得する事ができる (汎用的技能2) (2) 衣裳の特性・構造などの特性を理解する事ができる (汎用的技能1) (3) 衣服・衣裳の知識を理解する事ができる (知識・理解2)						
授業計画	第1回目 ガイダンス 授業内容、方針について説明 第2回目 衣服と衣裳の比較 第3回目 表現するテーマを設定 第4回目 デザイン画を作成 第5回目 トルソーボディ製作 第6回目 トアル製作 パターン製図 第7回目 トアル製作 パターン製作 第8回目 トアル製作 生地のカット 第9回目 トアル製作 縫製 第10回目 衣裳製作 パターン調整 第11回目 衣裳製作 生地のカット 第12回目 衣裳製作 縫製 第13回目 衣裳製作 縫製・装飾 第14回目 衣裳製作 仕上げ 第15回目 まとめ (合表)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業内で完成しなかった課題について、自習時間を使って意欲的に製作に取り組み、次回の授業までに完成しておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業への参加態度 (積極的に課題に取り組んでいるか) 30% 作品提出 70%						
履修上の注意	意欲的に事業に参加し、授業計画スケジュールを厳守し、衣裳製作に取り組むこと。 材料費は各自負担。						
教科書	必要に応じて適時指示します。						
参考書	必要に応じて適時指示します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	身体論（健康）						
担当教員	上田 由美子					科目ナンバ-	F11040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大人の女性になるための健康知識を学ぶ。						
授業の概要	女性のからだについての理解を深め、健康な生活を送るためには、どのような食生活を送ればよいか、どのような病気に注意し、予防すればよいかを学んでもらう。また、いろいろな病気を理解し、関心をもってもらう。						
到達目標	(1) 人体の解剖生理について学ぶ（知識・理解） (2) 健康な生活を送るための知識を身につけ、それを実行する（汎用的技能） (3) 一般的な病気に関しての知識を身につけ、他者に啓蒙することができる（態度・志向性）						
授業計画	第1回 授業の概要説明、健康な生活を送るために必要な知識について 【女性のからだ】 第2回 女性ホルモンと月経 第3回 女性の体と妊娠、出産① 第4回 女性の体と妊娠、出産② 【知って予防できる病気】 第5回 女性の病気、乳がん、生殖器の病気 【健康寿命を延ばす知識と生活】 第6回 肥満と生活習慣病 第7回 感染症、アレルギー 第8回 睡眠 【女性と栄養】 第9回 健康維持のための食 第10回 病気の予防のための食 第11回 栄養素視点からの食、栄養素の働き 第12回 栄養素視点からの食、ビタミンミネラルの働き 【その他】 第13回 働く女性の健康管理、夜間労働の健康への影響 第14回 臓器移植 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前回授業で指示した内容について書物やウェブサイト等で自己学習し、疑問点をあげる。 授業後学習：授業で学んだことの確認と理解。授業中に配布するレポートの内容を確実に理解する。						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う） また、テーマごとに、グループワークをおこなう。 グループワークを通じて、倫理的な問題などについて話し合い、自分の意見を発表する。						
評価基準と評価方法	レポート80% 平常点20%（質疑応答など）						
履修上の注意	レポートは必ず提出のこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	身体論（美容）						
担当教員	小池 謙造					科目ナンバ-	F11030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美容の基礎を学ぶ。ここでいう美容とはヘアケア、スキンケア、メイクアップ、化粧品学である。						
授業の概要	美容（ヘアケア、スキンケア、メイクアップ等）について学び、基本的知識を学習する。自己の生活に応用する技術を身につける。						
到達目標	1.ヘアケアについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 2.スキンケアについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 3.メイクアップについて学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性) 4.化粧品全般について学び、理解する(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性)						
授業計画	第1回 授業全体のガイダンス。自己の振り返り。高校生までの意識・知識の確認。 第2回 ヘアケアの基礎1 ヘアケアの歴史、毛髪とは何か。 第3回 ヘアケアの基礎2 シャンプーについて 第4回 ヘアケアの基礎3 スタイリングについて 第5回 ヘアケアの基礎4 カラーリングについて 第6回 ヘアケアの基礎5 髪ダメージについて 第7回 振り返り 自分のヘアケア（ショートプレゼンを予定） 第8回 化粧品のマーケティング1 CM作成などのおはなし 第9回 化粧品の開発とは？ どのように化粧品は作られるか 第10回 スキンケアの基礎1 皮膚の話 第11回 スキンケアの基礎2 洗浄 第12回 スキンケアの基礎3 ケア 第13回 メイクアップの基礎1 メイクアップとは何か 第14回 メイクアップの基礎2 メイクアップ素材の話 第15回 振り返り 自分のスキンケア・メイクアップ（ショートプレゼンを予定）。最終レポート課題の発表 なお、スキンケア、メイクアップの授業においては、花王株式会社 早瀬基 主任研究員が授業をサポートする。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	特になし						
授業方法	基本的には、講義主体で授業を行う。学生にとって身近な課題であるので、積極的に学生の意見を聞く。講義の理解度の確認と意識・行動を知るため、ショートプレゼンを予定している。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 1.平常点（出席）30%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・提案）などによる評価。 2.ショートプレゼン2回の評価40%：授業の理解度、自己の気づき、提案など 3.レポート30%：授業の全体の理解度						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上の欠席は、最終レポート提出不可とし、不合格となる。						
教科書	ヘアケアってなに？ 繊維応用技術研究会編 2014 2018年度図書室に寄贈済み。 必要ページはプリントして配布する。						
参考書	化粧品を正しく使えばあなたはもっとキレイになれる 川島真 幻冬舎 2014 PHP新書 皮膚に聴くからだところ 川島真 PHP研究所 2013 ビューティアドバイザーのガイドブック 安田利顕ほか 中央書院 1981						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーとファッション／ファッションイメージ論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F14110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの視点からみるファッション						
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、日々更新され続けているテーマについてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用することによって歴史的に跡づけ、今日的な問題として捉えるための基本的な考え方への導入を図る。						
到達目標	(1)ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考え、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)ヒトと衣服の関係性をジェンダーの視点から捉え、具体的にわかりやすい文章で述べるができる【汎用性技能解】 (3)課題について討議、発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ジェンダーとは 3. メディアにみるジェンダーファッション 4. 発表 5. 『ボイススカート』を読む 6. 発表 7. ジェンダーと表象 8. ジェンダーと色 9. ジェンダーと制服 10. 発表 11. スカートとズボンの表象 12. ファッションにみるジェンダー シャネル 13. ファッションにみるジェンダー カルダンとサンローラン 14. ジェンダーフリーファッション 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：メディア（新聞、雑誌、映像、インターネット）などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「らしさ」を見つける。事前に指定されたキーワードに基づいて下調べを行う（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理する。要点をまとめる。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	<p>講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>提出物50%、発表30%、授業への参加度20%</p> <p>提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	笠原 一人					科目ナンバ-	F73530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住居の歴史を学ぶ						
授業の概要	住居は人類の誕生とともに存在する。世界中各地で、その地域で手軽に入手でき、容易に建築できる素材・部材によって、住居は作られてきた。しかし近代になると、科学技術が飛躍的に発展し、新たな部材・部品、建設技術が発展し、施工の管理も行き届き、世界中で同じような住居が供給されるようになった。そんな中で、これまでの住居の歴史を振り返り、それらを通じて今後のあり方を考えることは重要である。本講義では、西欧にも触れるが主に日本の住居の様式史を中心に講義する。住宅がどのような社会的背景の中で、どのように造られ、変容してきたかを理解することを目的とする。						
到達目標	住居の歴史や背景、時代ごとの建物の仕組みや空間構成などを理解できるようになる。その理解は、現代の新しい住居を生み出すための糧になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 原始時代の住宅 竪穴住居と高床住居 3. 古代の住宅 寝殿造とその変容 4. 中世・近世の住宅 1 書院造と数寄屋 5. 中世・近世の住宅 2 民家と町屋 6. 近代の住宅 1 洋風住宅 7. 近代の住宅 2 住宅改良運動 8. 近代の住宅 3 集合住宅と郊外住宅地 9. 近代の住宅 4 モダニズムの住宅 10. 近代の住宅 5 戦時下と戦後復興 11. 近代の住宅 6 戦後モダニズムの住宅1 1950年代 12. 近代の住宅 7 戦後モダニズムの住宅2 1960年代 13. 現代の住宅 1 ポストモダンの住宅1 1970年代 14. 現代の住宅 2 ポストモダンの住宅2 1980年代 15. 現代の住宅 3 多様化する住宅 1990-2000年代 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から雑誌や書籍などで、優れた住宅作品に親しむようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト100%						
履修上の注意	履修の対象者 高い関心を持って授業に参加できる学生を対象とする。私語は厳禁。 質問は kasahara[at]kit.ac.jp まで。（[at]を@に置き換える）						
教科書	なし						
参考書	【新版】図説・近代日本住宅史 内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 編著 鹿島出版会 ISBN: 978-4-306-04493-7						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住宅再生論						
担当教員	池田 裕彦					科目ナンバ-	F74600
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代の住環境デザインの主要課題である「住宅再生」「住宅地再生」について学ぶ。						
授業の概要	日本古来の木造家屋である農家住宅・町家などの多くは、忘れられ消滅しつつある。しかし近年、住文化の継承や環境共生の面から反省が生じ、できるだけ長く活用することが望ましいという傾向にあり、一般家屋を含めて、各地で住宅再生が展開しつつある。また、高度経済成長期には住宅を大量に生産・消費・廃棄してきた。大量に供給された公的賃貸集合住宅（団地）や分譲マンションについても建替えが進んでいる。このような背景で、大量のストック住宅をどのように再生すべきか、ハード・ソフト・法制度等、課題は山積している。これらの問題を踏まえつつ、DVD鑑賞や現地見学を通じて、現代の住宅再生の実情を掴みながら、その構造を理解し、今後のあり方を考えていく。						
到達目標	①住宅再生に関する興味・関心を、より具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】 ②現在実践されている住宅再生の特性を理解し、予備知識のない他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 ③住宅再生の特性を理解した上で、現在学生が住んでいる住宅の再生について、学生自身が具体的に考察し、説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：「住宅再生」を学ぶ目的（「再生」の意味と現状）…DVD、スライド 第2回：伝統的家屋の再生…DVD 第3回：公的賃貸集合住宅再生の現状再生と課題（UR千里青山台団地）…DVD、スライド 第4回：公的賃貸集合住宅の建替え（岡山県宮中庄団地1期、芦屋市宮若宮町住宅）…スライド 第5回：芦屋市宮若宮町住宅見学…後日、レポート提出 第6回：公的賃貸集合住宅団地の建替え再生（UR浜甲子園団地）…スライド 第7回：UR浜甲子園団地見学（さくら街・なぎさ街）…後日、レポート提出 第8回：公的賃貸集合住宅のリノベーション再生（住戸・住棟エントランス・住棟外装等・屋外）…スライド 第9回：公的賃貸集合住宅におけるコミュニティ再生①（UR男山団地）…スライド 第10回：公的賃貸集合住宅におけるコミュニティ再生②（UR南花台団地）…スライド 第11回：一般戸建住宅のリニューアル再生、別用途建物から住宅へのコンバージョン再生…DVD 第12回：分譲マンション住戸のリニューアル再生…DVD 第13回：分譲マンションの建替え実態と方法…DVD 第14回：自らの生活の問題として住宅再生を考える…レポート提出+発表 愛15回：授業のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で取り扱う参考図書等の該当箇所を予習し、キーワードについて下調べをする。（学習時間1時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間1時間）						
授業方法	・講義、見学、発表、討論。 ・第14回の授業については、自分の住んでいる住宅（実家）の物理的問題点を把握し、どこを改善して再生すれば良いかを具体的に考えた結果をレポートに事前にまとめてきた上で、各自が発表する。						
評価基準と評価方法	・レポート40点、期末試験60点とする。 ・各授業会のレポートの点数の内訳は、第5回と第7回が各10点、第14回は20点とする。						
履修上の注意	・第5回と第7回の見学については、実施曜日を土曜日とするためn日程を調整して履修すること。 ・第5回と第7回の見学については、現地集合・現地解散とし、交通費は学生負担とする。 ・第5回と第7回の見学については、後日レポートを提出する。レポートの提出日（期日）は授業時に指定する。						
教科書	・プリント						
参考書	・団地再生-公団住宅に住み続ける（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-009-0 C0036 ・UR団地の公的な再生と活用-高齢者と子育て支援をミッションに（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-101-1 ・マンション再生-二つの老いへの挑戦（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-117-2 ・場所の声を聞く・集まって住むカタチのデザイン（関西大学出版部）、江川直樹、1 ISBN978-4-87354-524-0 C3052						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり					科目ナンバ-	F73520
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の住文化・住まい方研究						
授業の概要	<p>目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に寄与する計画論的・技術論的発展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。</p> <p>概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。</p>						
到達目標	日本の住宅を議論検討する際の論点を学び、少なくとも複数の論点について説明できる。						
授業計画	<p>第1回：現代住生活の源流</p> <p>第2回：風土と住宅</p> <p>第3回：海外の住宅</p> <p>第4回：四季の暮らしと住まい</p> <p>第5回：戦後の住宅計画・設備の変遷</p> <p>第6回：ライフスタイルと住様式</p> <p>第7回：次世代の暮らしを描く</p> <p>第8回：次世代の住まいと居住実験（1）</p> <p>第9回：次世代の住まいと居住実験（2）</p> <p>第10回：環境保全と住宅・住宅設備</p> <p>第11回：環境共生住宅の事例・・・見学</p> <p>第12回：日本の住文化と中間領域</p> <p>第13回：住宅設備とエネルギーシステム</p> <p>第14回：授業内容のまとめ</p> <p>第15回：授業内容の総復習と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業で配布したプリントについて復習し、理解できていないと思う箇所・用語等についてリスト化し、自分でも調べた上で、次回授業時に提出のこと。						
授業方法	講義を中心とする。また、適宜小グループによるディスカッション・とりまとめを行った上で、各グループの結果についてのプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験点数50%、平常点50%とする。平常点には、授業への参加態度、質疑応答内容を含める。						
履修上の注意	<p>授業の一環として学外見学・講義を実施</p> <p>見学先：大阪ガス実験集合住宅NEXT21 （大阪市天王寺区清水谷町6-16、 阪急六甲駅より約1時間、阪急電鉄と大阪市営地下鉄を利用した場合片道540円）</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。 授業の順番は変更になる場合があります。</p>						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング演習						
担当教員	徳山 孝子・五十嵐 かほる					科目ナンバ-	F11010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	接客のための言語心理をはじめ、表現力も含めたコミュニケーション&プレゼンテーションスキルとコーディネート力の向上を図るプログラム。実践的なテキストを用い、論理的にコーディネートのメソッドを学ぶと共にファッションを通して教養を取得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① お客様との信頼関係を築くためのマナーを身につけ、使いこなすことができる【態度・志向】 ② 説得力を増すための知識や表現力を身につけ、使いこなすことができる【知識・理解】 ③ お客様の骨格や肌の色などの個性を把握し、魅力を引き立てるアイテムの提案ができる【汎用的技能】 ④ お客様のニーズを引き出し、立場や社会情勢を捉えることができる【態度・志向】 ⑤ お客様の心を掴むための言語心理を用いたカウンセリング手法、パーソナルブランディング手法の知識を学ぶことで、ファッションの映える魅力的な人間力を磨くことができる【知識・理解】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：五十嵐担当4/8 年間の授業内容について・ファッションのコンセプト発表の仕方・自己紹介など ②顔型・骨格の分析：徳山担当4/15 デコルテラインの分類・体型の分類と分析 ③リベラルアーツ（色にまつわる知識と色彩心理）Ⅰ 問題集&テキストを使って…：徳山担当4/22 素材と輝度・カラー分析とカラーマネジメント ④お客様・先輩や同僚と信頼関係を気付くための言語心理・心理テクニック：五十嵐担当5/6 褒め上手・褒められ上手のコツ・クッション言葉 気を付けたい表現・好感度を上げる一言・音声心理・敬語 ⑤リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅱ 問題集&テキストを使って…：徳山担当5/13 シルエット・スタイリングの判断基準 ⑥表現力の鍛え方①：五十嵐担当5/20 良い声の出し方・ハキハキ話すための滑舌練習・わかりやすい話し方のコツ・文章の書き方 心を掴むプレゼンテーション方法 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し ⑦リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って…：徳山担当5/27 色のバランスと素材の組み合わせ方・ファッションマナー ⑧《ホスピタリティ・おもてなしの心の育て方》：徳山担当6/3 接客の基本 席次と上座…他 ⑨表現力の鍛え方②：五十嵐担当6/10 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練・伝える力、聴く力 （伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す） ⑩リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅳ 問題集を使って…：徳山担当6/17 「美容・心理・ファッションビジネス」問題集より ⑪《スタイリング訓練》 基本①コーディネートは全体のバランスを考える：徳山担当6/24 アイテム同士のバランス・シルエットの作り方 ⑫表現力の鍛え方③：徳山担当7/1 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練 ・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える） ・言葉にならない思いを聞き出す ・報告書の書き方 ⑬《スタイリング訓練》 基本②：徳山担当7/8 コーディネートは素材感と色のバランスを考える ⑭期末試験・《ブランディングコンセプトの作り方》：徳山担当7/15 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法① ⑮《ブランディングコンセプトの作り方》五十嵐担当7/22 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法② 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。（学習時間60分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にてできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> ①講義とグループワーク ②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習 						

評価基準と評価方法	試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および⑤に関する到達度の確認。
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする。 ③ 教科書は、必ず購入する。
教科書	●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー
参考書	授業内にて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング実習						
担当教員	徳山 孝子・五十嵐 かほる					科目ナンバ-	F11020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	独りよがりのスタイリングや好みのコーディネート提案ばかりではなく、ファッションは誰のために存在するのか？を基準に捉えた「アパレル人として即戦力の人材」を目指す。現場でのリアルな事例をふんだんに取り入れながら自ら考えて答えを導き出し、前期で学んだ知識を実際にスタイリングの面でも接客の面からもアウトプット出来るようになること。また、自分自身を磨くためのコンセプト作りや見せ方などの基本を学ぶと同時に人の魅力の引き出し方と演出の仕方を学ぶ。						
到達目標	① 接客をはじめ、提案力も含めたコミュニケーションスキルとコーディネート力の向上を図ることができる【態度・志向】 ② グループワークや実技を中心に、即戦力の人材になるためにコーチングやカウンセリングの基礎ができる【知識・理解】 ③ また、自ら考えて行動できるためのメソッドを身に付けることができる【汎用的技能】						
授業計画	①オリエンテーション（課題テーマ・方針・進め方の説明）発表の仕方など：五十嵐担当9/30 《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法① イメージボード制作準備/グループ分けや留意点など ②《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法②：徳山担当10/7 イメージボード制作準備表現力の鍛え方 ③プレゼンテーション技法：徳山担当10/14 イメージボード制作準備と人前で話すスキル（発表準備） ④《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法③：五十嵐担当10/21 イメージボード製作発表/講評 ⑤《スタイリング訓練》実践①ショッピングツアー（ショッピング同行実践【神戸】）：徳山担当10/28 ⑥《スタイリング訓練》実践②ショッピングツアー（ショッピング同行実践【大阪】）：徳山担当11/4 ⑦《スタイリング訓練》発表③ショッピングツアー（ショッピング同行実践）発表：五十嵐担当11/11 表現力の鍛え方Ⅰ 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ① ⑧表現力の鍛え方Ⅱ：徳山担当11/18 文章での表現力 題材の探し方と感性&トレンドの磨き方 ⑨表現力の鍛え方Ⅲ：徳山担当11/25 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ② 《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞いⅠ 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し・コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情（ファイルの持ち方・指さし） ⑩《スタイリング訓練》応用①：徳山担当12/2 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートをみつけるか） ⑪《スタイリング訓練》応用②五十嵐担当12/9 ワードローブコーディネート（コーディネート撮影） 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法（いかにその人らしいコーディネートをみつけるか）発表 ⑫パーソナルスタイリスト検定受検対策講座：徳山担当12/16 ⑬表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当12/23 この一年間で学んだことのプレゼンテーションカウンセリング ⑭期末試験・表現力の鍛え方《まとめ》：徳山担当1/20 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表準備のためのワーク ⑮表現力の鍛え方《まとめ》：五十嵐担当1/27 この一年間で学んだことのプレゼンテーション発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にならなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	①講義とグループワーク ②実技（カウンセリングやコーディネート、話し方等）による演習						
評価基準と評価方法	試験60%：パーソナルスタイリストの理解度を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。 各回の積極的な授業参加40%：スタイリングのコンセプトと時事に関する情報を発表し、各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標①および③に関する到達度の確認。						

履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする。 ③ 教科書は、必ず購入する。 ④ 「ショッピング同行実践」への交通費は自己負担。 ⑤ 「ショッピング同行実践」は、土曜日の補講日とする。
教科書	●書名：『パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集』第3版 著者：五十嵐かほる 編集者：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー ●書名：『パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト』 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー
参考書	授業内にて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習I						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバ-	F74610
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業設計で様々な空間設計に取り組む準備として、住宅以外の建築空間を設計できる力を身につける。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I～IVを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。 各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。						
到達目標	(1)各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、建築設計の基本知識、計画手法を身につける。【知識・理解】 (2)各種建築計画に必要な知識を情報収集・分析し、得られた情報を自身の計画に反映・応用することができる。【汎用的技能】 (3)製図・模型・パース等の表現手法を用いて、独自の発想を建築計画として表現することができる。【汎用的技能】 (4)建築・インテリアデザインを専門の言葉、図、画像および立体作品で表現するためのプレゼンテーション技術を修得することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 : ガイダンスと各自制作テーマのレポート 第2回 : 敷地図作成、敷地環境分析 第3回 : 参考事例研究 第4回 : 敷地分析および事例研究に基づくコンセプト作成 第5回 : 研究成果発表用の図版作成 第6回 : 研究成果中間発表、基本構想作成 第7回 : 基本計画エスキス 第8回 : エスキスチェック、修正 第9回 : 基本計画図スタディチェック 第10回 : 基本計画図作成およびスタディ模型作成 第11回 : 基本計画図およびスタディ模型チェック、修正 第12回 : 基本計画図およびスタディ模型によるミニプレゼン 第13回 : プレゼンテーション図版作成 第14回 : プレゼンテーション図版チェック、修正 第15回 : 授業内プレゼン、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：各自の課題制作を進めるため、各回において自身の進行状況に応じた課題テーマに関する資料収集、現地調査、参考事例見学を行う。（学習時間約3時間） 授業後学習：授業内で指示した課題に関する検討事項を整理し、事前準備として行う事項の方法・スケジュールを検討・確認しておく。（学習時間約1時間）						
授業方法	演習：作品制作を中心とする。テーマ設定、事例研究、中間発表などの各段階において、ミニプレゼンおよびディスカッションを行う。また、制作の各段階に応じて、建築・インテリアの計画手法や制作テーマに関連した参考事例などの解説を行う。						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間提出物20%、最終プレゼン提出物の評価50%とする。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 自己スケジュール管理を行い、授業時間外においても、自主的に調査・研究・作図等を進めること。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習II						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバー	F74620
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	設計演習IIに引き続き、卒業研究で様々な空間設計に取り組むのに必要な設計力、特にパースや模型による立体表現などのプレゼンテーションスキルを高める。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I～IIIおよび設計演習Iを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。 キーワード：空間設計、図面表現、プレゼンテーション						
到達目標	(1)各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、図面・模型・パース等、目的に応じたプレゼンテーション表現ができるようになる。(汎用的技能)						
授業計画	<p>第1回 : ガイダンスと各自のテーマ、目標設定に関するレポート。</p> <p>第2回 : 設計演習Iの計画内容のブラッシュアップ、コンセプトの整理。</p> <p>第3回 : ダイアグラムの作成と基本設計図の修正。</p> <p>第4回 : 3Dモデルの作成。</p> <p>第5回 : 3Dモデルの作り込み。</p> <p>第6回 : 3Dモデルからパース数面の取り出し。</p> <p>第7回 : 3Dモデル、パースの追加、修正。</p> <p>第8回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(トリミング、明るさ・色調等)。</p> <p>第9回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(添景、背景等)。</p> <p>第10回 : プレゼンテーションボードの作成。</p> <p>第11回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(説明文など書込み)。</p> <p>第12回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(レイアウト調整等)。</p> <p>第13回 : プレゼンテーション用パワーポイントの作成。</p> <p>第14回 : パワーポイントデータの追加、修正。</p> <p>第15回 : プレゼンテーションボードとパワーポイントによる発表・講評。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習 : 進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回事前に資料をまとめておくこと(学習時間: 2時間)。</p> <p>授業後学習 : 課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連の建築や展覧会等の見学など、自主的に進めておくこと(学習時間: 2時間)。</p>						
授業方法	作品制作を中心とした演習。プレゼンテーション表現の参考作品の調査を各自が自主的に行うとともに、担当教員だけでなく、教室内のグループで相互に評価しあい、学び合うことでスキルアップにつなげていく。						
評価基準と評価方法	<p>平常点 30% : 図面表現の的確性と目的に応じた参考図面研究などへの取り組み方を評価する 到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>中間提出物 20% : 3Dモデルや模型など立体表現の的確性、デザイン性を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>最終プレゼン 50% : トータルなプレゼンテーションとしての完成度を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	自己スケジュール管理を行い、授業時間外においても、自主的に調査・研究・作図等を進めること。各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする。						

教科書	プリントを配布する
参考書	各自のテーマに応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子					科目ナンバ-	F72020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	快適な生活とエコロジー						
授業の概要	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジックな観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>						
到達目標	<p>(1) 地球環境が直面している問題について基本知識を身につけ、他者に説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) エコロジーかつ快適な暮らしを実践するための手法について、具体的に述べるができる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：環境共生・エコロジー 第3回：地球環境問題(1)地球温暖化 第4回：地球環境問題(2)オゾン層破壊ほか 第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費 第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物 第7回：快適な衣環境 第8回：快適な住環境 第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー 第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル 第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル 第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル 第13回：エコハウスの事例 第14回：エコプロダクツの事例 第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：授業計画にある各回のテーマに関連することから生活の中から見だし、書籍、インターネット等にて下調べをする。(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容について確認し、自らの暮らしや他の専門科目の学びに積極的に反映させる。(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>毎回の授業で、講義内容の重要箇所について小テストを行い、次回授業時にその確認をおこなう。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト40%、レポート30%、期末テスト30%</p> <p>小テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>レポート：講義によって得た知識を身近な生活に反映できる応用力を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p> <p>期末テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>なお、小テストの解答、解説は次回授業にておこない、レポート、期末テストについては最終授業中に講評する。</p>						
履修上の注意	<p>評価では授業への取り組みを重視する。やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。</p>						
教科書	プリント配布						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活福祉学						
担当教員	葛西 リサ					科目ナンバ-	F23050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	市民活動、NPO、身近な課題を社会問題として捉え、自ら福祉の担い手となる						
授業の概要	女性の社会進出による専業主婦の喪失は、家事労働の商品化の拡大を招き、それにより、福祉サービス化が急速に進んだ。無認可保育所の創設、更には、介護保険の導入などにより、サービスの対象は広く、一般に普遍化し続けている。本授業では、福祉サービスの受け手としてだけではなく、福祉サービスの担い手としての視点から、日々生じる生活課題を明確に捉え、それを解決するための知識とスキルの習得を目指す。						
到達目標	<p>1) 福祉とは何か、生活とは何かについて学習し、生活福祉という概念が、時代の流れとともに必要とされてきた軌跡をたどることで、生活福祉の基礎知識をみにつけることができる。</p> <p>2) ライフスタイルや世帯の多様化に伴い、生活課題や住まいの課題も多様化している事実を確認し、同時に、この多様化に対応する一つ的手段として、行政と住民の協働の在り方、非営利組織の役割について学習することができる。</p> <p>3) 1～2の学習をもとに、最終的には、受講者自身が日々感じている生活課題を抽出し、それへの具体策を提案する力をみにつけることができる。</p>						
授業計画	<p>1 ガイダンス 生活福祉とは何か</p> <p>2 コミュニティの変化と生活福祉の必要性</p> <p>3 人口減少社会の中の生活福祉学</p> <p>4 家族の変容と生活福祉</p> <p>4 高齢社会と生活福祉</p> <p>6 社会保障制度と生活福祉</p> <p>7 生活福祉と住まい 新たな住生活ニーズとそれへの対応</p> <p>8 市民活動の多様な事例から学ぶ</p> <p>9 生活福祉の中の非営利組織の役割</p> <p>10 市民の活動を支える非営利組織という存在</p> <p>11 非営利活動を実践するための条件</p> <p>12 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク① (テーマを設定する)</p> <p>13 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク② (課題の背景を探る)</p> <p>14 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク③ (課題解決のための方策を検討する)</p> <p>15 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	講義のテーマごとに、ふりかえりを配布し、キーワード等の復習の機会を設けます。また、授業の終わりに次の講義内容について予告します。そのための、予習復習の時間(週あたり90分)を確保してください。なお、後半では、講義と並行して、それぞれ気になる社会問題を題材として、市民活動の提案を行ってもらいます。授業内学習を取り入れますが、それで不足する場合には、授業外の時間を活用して、完成させてください。						
授業方法	スライドによる講義に加え、関連するDVDの鑑賞等を組み込みます。また、授業の後半では、市民活動を企画するワークを行ってもらいます。						
評価基準と評価方法	試験60%、ワーク30%、レポート等10%						
履修上の注意	授業内に行うワークは提出が必須です。必ず提出するようにしてください。授業内レポート等は、用紙の3分の2を埋めるようにしてください。ボリュームの足りないレポートについては、採点の対象とはしません。						
教科書	教科書は使用しません。						
参考書	一番ヶ瀬康子(1998)生活福祉の成立、生活学選書、一番ヶ瀬康子、尾崎新(1994)生活福祉論、光生館、雨森孝悦(2012)テキストブックNPO-非営利組織の制度、活動、マネジメント-東洋経済新報社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活文化論／生活文化概論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F03040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。						
授業の概要	本講は、生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。						
到達目標	1) 日本人の国民性が説明できる【知識・理解】 2) 日本独自の衣住文化の特徴を述べるもことができる【知識・理解】 3) 靴を脱ぐ習慣について、考えられることを列挙することができる【知識・理解】 4) 日本独自の間の文化を一つ例に挙げ、画像を使って説明することができる【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 日本人と生活文化①：日本人とは、どのような国民性なのか？ 3. 日本人と生活文化②：春夏秋冬と日本人の秩序感覚 4. 日本人と生活文化③：時代の移り変わりとともに変化してきた日本の色 5. 日本人と食①：箸や茶碗の高級道具 6. 日本人と食②：日本独自の食文化 7. 日本人と食③：日本と欧米の違い—食の文化— 8. インテリアの文化①：日本と欧米の違い 9. インテリアの文化②：畳と絨毯の違い 10. インテリアの文化③：靴の文化と裸足の文化 11. 日本人の「間」①：「間」の文化とは 12. 日本人の「間」②：「間」の文化—結界と気持ちのけじめ— 13. 日本人の「間」③：「礼」の文化 14. 日本人の「間」④：「着る」の文化 15. 今までのレジュメのまとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	試験70%：日本文化の理解度を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、レジュメ、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F04070
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	個々に設定したテーマに沿って衣装制作をおこなう。						
授業の概要	形態、素材、製作技術の追求や、舞台衣装、歴史、アートをベースとした発想、ユーザーを主体とした衣装設計など、さまざまな視点から独自のテーマを設定し、衣装制作をおこなう。 デザイン特別演習A、Bにおけるテーマ設定、資料・文献の調査、デザイン発想、デザイン画作成までの内容を基に、テーマにそった衣装設計・製作技術の向上、研究成果をまとめて発表するプレゼンテーション能力の向上を目的とし、4年間の学びを総括する。						
到達目標	(1) デザイン画を基に、衣装の設計ができる。(知識・理解) (2) 研究目的からテーマ設定、衣装デザイン、設計、製作、ファッションショーまでの一連の流れを文章とポートフォリオにまとめ、パワーポイントで簡潔に発表できる。(汎用的技能) (3) 作品をファッションショーやコンテストに意欲的に発表できる。(態度・志向性)						
授業計画	<p>○前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成) 2. 提出物について(実物製作、ポートフォリオ、レポート、ボード) 3. 作品製作指導「試作、デザインとパターンの決定」 4. 作品製作指導「本布製作1」 5. 作品製作指導「本布製作2」 6. 作品製作指導「本布製作3」 7. 作品製作指導「本布製作4」 8. 作品製作指導「本布製作5」 9. 作品製作指導「本布製作6」 10. 作品製作指導「本布製作7」 11. 作品製作指導「本布製作8」 12. 作品製作指導「本布製作9」 13. 中間発表に関する指導1 14. 中間発表に関する指導2 15. 中間発表に関する指導3/前期のまとめ <p>○後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション(進捗状況の確認、ポートフォリオ作成法、レポート、ボードの形式) 17. ショーの構成・音楽・ヘアメイクに関する指導 18. ポートフォリオ作成1 19. ポートフォリオ作成2 20. ポートフォリオ作成3 21. レポート作成に関する指導1 22. レポート作成に関する指導2 23. レポート作成に関する指導3 24. レポート作成に関する指導4 25. ボード作成に関する指導1 26. ボード作成に関する指導2 27. 卒業研究要旨作成に関する指導 28. 卒業研究発表に関する指導1 29. 卒業研究発表に関する指導2 30. 卒業研究発表に関する指導3/まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	研究計画にそって、資料収集や衣装制作を行う。(学習時間2時間)						
授業方法	演習形式: 研究テーマに沿って、各自衣装制作を進める。						
評価基準と評価方法	制作作品(50%)、ポートフォリオ・レポート・パネル(30%)、発表(20%) 制作作品、またそれを用いたファッションショーへの参加等を総合的に評価。到達目標(1)、(3)に関する到達度の確認。 制作作品についてのプレゼンテーション等を総合的に評価。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。						

教科書	
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ファッションに関わるテーマを一つ決め研究し、論文もしくは制作でまとめる方法を学ぶ。						
授業の概要	デザイン特別演習で学んだ知識をもとに、自らの研究を進めるための指導を行う。具体的には、研究計画、先行研究、資料・文献収集、実験する学生は実験方法、調査する学生は調査方法などを説明し、各自が研究を進める。進行状況に応じて個別指導をする。最後に論文もしくは制作（作品・ポートフォリオ）に仕上げ、パネルに要約したものを合わせて提出する。さらに、パネルの展示、発表プレゼンテーションする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマに基づき論理的に説明できる【知識・理解】 2) 研究方法や製作方法を列挙できる【汎用的技能】 3) 研究論文および作品を仕上げることができる【汎用的技能】 4) 研究論文および製作をパネルに要約できる【知識・理解】 5) 研究内容もしくは製作内容を口頭発表できる【態度・指向性】 						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと研究方法の説明 3) 各自の研究について発表Ⅰ 4) 各自の研究について発表Ⅱ 5) 各自の研究について発表Ⅲ 6) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅰ 7) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅱ 8) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅲ 9) 各自の研究および制作の方法について指導Ⅳ 10) 各自の中間発表について指導Ⅰ 11) 各自の中間発表について指導Ⅱ 12) 各自の中間発表について指導Ⅲ 13) 各自の中間発表について指導Ⅳ 14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ 15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17) 研究成果と卒論構成Ⅰ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 18) 研究成果と卒論構成Ⅱ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 19) 研究成果と考察・結論Ⅰ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 20) 研究成果と考察・結論Ⅱ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 21) 研究成果と考察・結論Ⅲ（制作の場合はレポートやポートフォリオⅢ） 22) 卒業論文や作品の最終チェック 23) 中間発表会のプレゼンテーションⅠ 24) 中間発表会のプレゼンテーションⅡ 25) 卒業研究および作品の表題集の書き方 26) 研究成果のパネル作成について指導Ⅰ 27) 研究成果のパネル作成について指導Ⅱ 28) 卒業研究発表について指導Ⅰ 29) 卒業研究発表について指導Ⅱ 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション） 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分）</p> <p>授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> ①研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ②研究内容によっては、個人指導する。 						
評価基準と評価方法	提出物100%：プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など総合的に評価する。						
履修上の注意	授業の参加が重要なため出席を重視する。調査、文献資料などにかかる入場料、交通費などの実費負担がある。制作の場合は、材料費などは自己負担である。						

教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。
参考書	そのつど紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	<p>本ゼミでの内容は都市計画・地域計画にかかわる研究・制作です。オリジナリティのある研究・制作であることがいっばん重要なことです。</p> <p>2011年度の卒業研究のテーマを掲げておきます。「日本におけるアウトレットの展開」「専用劇場をもつことによる劇団四季の魅力」「日本におけるグラフィティ・タギングの現況」「京都市域における洋風の風物」「ノスタルジックな町並み」(写真集)「都市における石畳道の意味——日本と他国の石畳の比較から」「なぜ動物園の入り口付近にフラミンゴがいるのか」「日本におけるマングローブという存在——マングローブの必要性」「アニメ・漫画による町おこし——聖地巡礼」「Anime Location Site」(パンフレット)「地域のまとまりの重要性——小学校と商店街を中心とする日常生活圏」「ライフスタイルの多様化による結婚昏に対する意識の変化——同棲は本当に結婚を遠ざけている?」。</p> <p>2012年度は研究写真帳というジャンルを開拓しようとして、自宅の改装の設計1点と、「おもしろい屋外広告と看板」「パン屋ののある風景」という作品を作ってもらいました。2013年度「ライトノベル「舞台探訪」」「アートのある町 研究写真帳」「舞台からジブリの魅力を考える 研究写真帳」「創造都市・東大阪 研究写真帳」「高架道路の撤去による都市再生 研究写真帳」「関西4水族館の比較 研究写真帳」「屋台いろいろ 研究写真帳」「京都高層建築の低層階 研究写真帳」「街の縁側——カフェのある住宅」。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。</p> <p>ゼミ旅行や研究のまとめるための合宿なども条件があればします。ちなみに2011年度はゼミ旅行として直島に行きました。2012年は福岡に行きました。</p> <p>研究写真帳という形式の卒業研究を勧めている。「研究写真帳」というのは、次のように考えました。①基本は自分で撮った写真を使う。家族などが撮った古い写真を使う場合もある。また指導教官の撮った写真は共同研究者として使う。インターネットや本からとった写真は、引用先を示して使う。②分量はA4で、裏表印刷20枚、40ページほどとする。③芸術写真集としての性格ももつが、テーマを設定して解説や分析の文章のあるものとする。</p> <p>次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているの、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。</p> <p>大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっしょにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p> <p>これは小学校からの勉強の集大成です。すぐに満足感が得られる場合もあるでしょうが、がんばった分いつか30歳・40歳になったとき役立つでしょう。</p>
--------	--

授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。
-------	-----------------

到達目標	<p>最低限のオリジナリティのある研究成果をまとめることができるようにする。</p> <p>後期は641でたむろして、研究をまとめられるような習慣を身につけることができる。641はコンピュータのたくさんある教室ですが、飲食してもいいし、授業中でもその邪魔をしないかぎり使えるようにしてきました。こうした空間のすばらしさを生かすことができる。</p>
------	--

授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において成り行きは美しいことでもあります。成り行きのなかに高度な思考が宿ります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。ゼミ員が各自のテーマにしたがって発表と討議をくりかえします。</p> <p>1 発表と討議1回め 2 発表と討議2回め 3 発表と討議3回め 4 発表と討議4回め 5 発表と討議5回め 6 発表と討議6回め 7 発表と討議7回め 8 発表と討議8回め 9 発表と討議9回め 10 発表と討議10回め 11 発表と討議11回め 12 発表と討議12回め 13 発表と討議13回め 14 発表と討議14回め 15 発表と討議15回め 16 発表と討議16回め 17 発表と討議17回め 18 発表と討議18回め 19 発表と討議19回め 20 発表と討議20回め 21 発表と討議21回め</p>
------	---

授業計画	22 発表と討議22回め 23 発表と討議23回め 24 発表と討議24回め 25 発表と討議25回め 26 発表と討議26回め 27 発表と討議27回め 28 発表と討議28回め 29 発表と討議29回め 30 発表と討議30回め
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。学外に出ることも多い。希望が多ければゼミ旅行もします。manabaを利用します。manabaのいいのがは学外から提出したり見たりできることです。LINEも多用します。
評価基準と評価方法	ほとんど最終的な提出物で評価します。
履修上の注意	ほかの授業とはちがいがかなりきびしく成果を追求します。上述のとおり、学外に出ることもある。学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り返られることも多い。
教科書	
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F04070
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	「4年間の学習の集大成としてのファッション・コミュニケーション」						
授業の概要	デザイン特別演習を踏まえて、制作系のテーマとしてはファッション領域を中心とするメディア・デザイン、例えばファッションブランドのプロモーション・ツールなどのグラフィック・デザインや、ファッション現象のリサーチ結果のエディトリアル・デザイン表現などをパンフレットにまとめる。こうした卒業研究を通じて、自身の将来の進路を明確にするとともに、積極的にデザインの在り方を提案し、社会貢献を果たすことを目的とする。						
到達目標	ファッション領域におけるコミュニケーションの現状に対する理解がある。【知識・理解】 説得力があり印象に残るコミュニケーションのためのメディア・デザインができる。【汎用的技能】 体験に基づいた独自の視点から、ファッション領域のコミュニケーションを観察できる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) テーマの再検討と確立 3) 縮約版パンフレットの構成を確認 4) 完成版パンフレット構成の検討 1 内容の流れとページ割付 5) 完成版パンフレット構成の検討 2 画像とテキストのバランス 6) 完成版パンフレット構成の検討 3 ページレイアウトの変化 7) 素材収集と取材の計画 8) デジタルカメラによる撮影方法 モデル撮影、モノ撮り 9) 画像素材・テキスト素材収集と整理 10) インタビュー取材 11) インタビュー取材結果の整理 12) イラストレータの操作 1 文字入力の詳細、フォントの種類 13) イラストレータの操作 2 テキストの段組と段落スタイル 14) イラストレータの操作 3 画像の配置・整列、トリミング 15) イラストレータの操作 4 A2/A1サイズのパネルレイアウト 16) A1/A2プリンターによる印刷方法 17) フォトショップの操作 1 画像補整 18) フォトショップの操作 2 画像の選択方法 19) フォトショップの操作 3 画像の切り抜きと合成 20) パンフレット関連ファイルの整理 21) 中間発表準備・リハーサル 22) 完成版パンフレット内容の確認 23) 完成版パンフレットの印刷・製本 24) 展示パネル (A2サイズ) 制作 25) 展示パネル印刷 26) 学科提出の準備 (研究テーマの確定、A3ファイル内容の確認) 27) 展示パネル (A1サイズ) の作成・印刷 28) 大学提出の準備 29) 最終プレゼンテーションの準備・リハーサル 30) 表題集原稿作成 						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	各自のテーマに基づく情報収集、取材。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点、論文または制作物の内容、完成度						
履修上の注意	各自のテーマに基づいて研究を進めるので、研究プロセスのスケジュールなどは責任をもって管理すること。						

教科書	特に無し。
参考書	必要に応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	生活に身近な空間デザインをテーマとする卒業作品制作（建築設計・インテリアデザイン等）						
授業の概要	デザイン特別演習A・Bを通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究／制作に取り組む。 ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な生活空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。 またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。 図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。 キーワード：住空間、卒業制作、プレゼンテーション						
到達目標	(1)各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、独自の有意義な提案ができるようになる。 (知識・理解+態度・志向性) (2)表現力を高めながら、まとまった建築設計またはインテリアデザイン作品に仕上げ、トータルなプレゼンテーションができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理 第2回 第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等 第3回 第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析 第4回 第1段階 基礎研究のまとめ 第5回 第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成 第6回 第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備 第7回 第2段階 「基本計画」 エスキース 第8回 第2段階 エスキースチェック、修正 第9回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 第10回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 第11回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 第12回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成 第13回 第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作 第14回 第2段階 パワーポイントのチェック、修正 第15回 第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画 第16回 第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画 第17回 第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備 第18回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作 第19回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作 第20回 第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作 第21回 第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導 第22回 最終段階 追加修正図面の作成 第23回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作 第24回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作 第25回 最終段階 プレゼンテーションボードのチェック 第26回 最終段階 制作ノートの整理、まとめ						

授業計画	<p>第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出</p> <p>第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正</p> <p>第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成</p> <p>第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成</p>
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p>
授業方法	<p>ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。</p>
評価基準と評価方法	<p>平常点 30% : 毎回のミニレポートにより、テーマへの取り組み方を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>中間提出物 20% : テーマについての中間段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 到達目標(1)、(2)の到達度の確認。</p> <p>最終作品 50% : テーマについての最終段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 トータルな空間デザイン提案としての作品を評価する。 到達目標(1)、(2)の到達度の確認。</p>
履修上の注意	<p>卒業作品の制作には、多大な時間とエネルギーが必要である。 自己責任でしっかりとスケジュール管理を行ない、十分な制作時間を確保すること。 各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする（各ゼミ共通）。</p>
教科書	
参考書	<p>各自のテーマに応じて紹介する。</p>

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	生活に身近な空間デザインをテーマとする卒業作品制作（建築設計・インテリアデザイン等）						
授業の概要	デザイン特別演習A・Bを通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究／制作に取り組む。 ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な生活空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。 またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。 図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。 キーワード：住空間、卒業制作、プレゼンテーション						
到達目標	(1) 各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、独自の有意義な提案ができるようになる。 (知識・理解＋態度・志向性) (2) 表現力を高めながら、まとまった建築設計またはインテリアデザイン作品に仕上げ、トータルなプレゼンテーションができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理</p> <p>第2回 第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等</p> <p>第3回 第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析</p> <p>第4回 第1段階 基礎研究のまとめ</p> <p>第5回 第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成</p> <p>第6回 第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備</p> <p>第7回 第2段階 「基本計画」 エスキース</p> <p>第8回 第2段階 エスキースチェック、修正</p> <p>第9回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第10回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第11回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第12回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第13回 第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第2段階 パワーポイントのチェック、修正</p> <p>第15回 第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画</p> <p>第16回 第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画</p> <p>第17回 第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備</p> <p>第18回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第19回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第20回 第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第21回 第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導</p> <p>第22回 最終段階 追加修正図面の作成</p> <p>第23回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第24回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第25回 最終段階 プレゼンテーションボードのチェック</p> <p>第26回 最終段階 制作ノートの整理、まとめ</p>						

授業計画	<p>第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出</p> <p>第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正</p> <p>第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成</p> <p>第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成</p>
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p>
授業方法	<p>ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。</p>
評価基準と評価方法	<p>平常点 30% : 毎回のミニレポートにより、テーマへの取り組み方を評価する。 到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>中間提出物 20% : テーマについての中間段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 到達目標(1)、(2)の到達度の確認。</p> <p>最終作品 50% : テーマについての最終段階での理解、問題意識、独自の有意義な提案内容を評価する。 トータルな空間デザイン提案としての作品を評価する。 到達目標(1)、(2)の到達度の確認。</p>
履修上の注意	<p>卒業作品の制作には、多大な時間とエネルギーが必要である。 自己責任でしっかりとスケジュール管理を行ない、十分な制作時間を確保すること。 各自のテーマ関連で、リサーチのための見学を指示する。 見学及び制作に要する費用は自己負担とする（各ゼミ共通）。</p>
教科書	
参考書	<p>各自のテーマに応じて紹介する。</p>

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F0202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸という地域を題材に、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養う。						
授業の概要	神戸タータンを通して産学官連携の地域貢献を肌で感じたいうえで、ファッション・ライフスタイルと地域社会の関係性を調査し、大学生や女性の目から見た神戸タータンのガイドブックを制作する。さらには、リサーチの結果を踏まえて、ビジネスを通じた地域貢献を行うべく、オリジナル商品の開発も提案する。						
到達目標	(1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・指向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 調査内容を他社に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションが行える。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(本学) マーケットリサーチ準備(本学) 神戸タータン会員企業でのマーケットリサーチ(神戸市内) 市内の神戸タータンの販売地点の調査(神戸市内) リサーチデータまとめ(本学) リサーチのプレゼンテーション(本学) 神戸タータン会員団体でのマーケットリサーチ(神戸市内) 市内の神戸タータン使用の現状の調査(神戸市内) リサーチデータまとめ(本学)(ゲストスピーカー招聘予定) リサーチのプレゼンテーション(本学) ガイドブックの制作準備(本学) ガイドブックの制作(本学) オリジナルグッズの制作準備(本学) オリジナルグッズの制作の決定(本学) 発表(本学) 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(1時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容を確認整理する。(60分)原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題について、プレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。						
教科書	特になし						
参考書	「文化立国論ー日本のソフトパワーの底力」 筑摩書房 青柳正規著 ISBN 978-4-480-06851-4 「タータン伝統と革新のデザイン」 青幻舎 ISBN 978-4-86152-692-3 「タータンとツイード 自分で織るデザインとアイデア」 誠文堂新光社 明石恵子著 ISBN 978-4-416-61583-6 「タータンチェックの文化史」 白水社 奥田実紀著 ISBN 978-4-560-02799-8						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F0202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸という地域を題材に、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養う。						
授業の概要	授業は神戸ファッション美術館と連携しておこなう。演習Aでは神戸ファッション美術館の広報として使用できるフリーペーパーを制作する。実地調査、収蔵品見学、学芸員へのインタビュー等を通じて、社会人として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ビジュアル資料を作成する能力を養う。神戸ファッション美術館を題材に、学びの場である神戸という地域へ目を向け、地域社会に対する視点を養うとともに、続く演習Bで取り組むべき課題の発見へと繋げていく。						
到達目標	(1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・志向性) (2) フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (3) 調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションがおこなえる。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(本学)：授業内容について、グループ分け 2. 調査準備(本学)：神戸ファッション美術館について、テーマ設定 3. 実地調査(神戸ファッション美術館)：施設の見学、調査 4. 調査まとめ(本学)：冊子内容考案 5. 実地調査(神戸ファッション美術館)：コレクション展見学、調査 6. 調査まとめ、課題制作(本学)：冊子内容考案、ページ分担 7. 課題制作①(本学)：掲載内容まとめ 8. 課題制作②(本学)：レイアウト考案 9. 中間チェック(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、冊子の概要説明、提案 10. 課題制作③(本学)：冊子内容修正、ページ作成 11. 課題制作④(本学)：各ページを冊子に集約 12. 課題制作⑤(本学)：表紙等作成 13. 制作物チェック(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、冊子をプレゼンテーション 14. 発表準備(本学)：活動内容のまとめ、プレゼンテーション資料作成 15. 発表(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、発表 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく(学習時間1時間) 原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は、次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	演習、実地調査をおこない、そこで得た情報を基に、課題制作をおこなう。制作した課題について、プレゼンテーションをおこなう。						
評価基準と評価方法	授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度、実地調査等への取り組みグループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作、指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 プレゼンテーション、制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	実地調査等にかかる交通費、入場料などは自己負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習A/地域貢献デザイン演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F0202A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸という地域を題材に、神戸の地場産業を盛り上げるファッションイベント、特に神戸コレクション・神戸ファッションウィークが目指す地域の活性化の現状に対する視点を養う。						
授業の概要	地域貢献デザイン演習Aでは、ファッション、ライフスタイルと地域社会の関係性という枠組みの中で、設定されたテーマに基づき、課題制作をおこなう。成果物はテーマに応じて異なるが、課題制作のためインタビューや実地調査を用いたリサーチをおこなう。学びの場である神戸という地域へ目を向け、現在のデザインにおいて必要とされる地域社会に対する視点を養っていくことで、続く演習Bで取り組むべき課題の発見へと繋げていく。また、インタビュー等学外の人々との交流を通じて、社会人として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸のファッションに関わる地場産業やイベントについて基本的な理解がある。【知識・理解】 ・地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【汎用的技能】 ・フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 ・調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションがおこなえる。【汎用的技能】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本学 ファッション都市神戸と神戸コレクション・ファッションウィーク 2. 調査準備：本学 ファッションに関わる神戸の地場産業 3. チーム編成&取材項目など決定・作成 4. 地場産業実地調査：真珠関連企業 5. 地場産業実地調査：神戸シューズ関連企業 6. 調査まとめ、課題制作：本学 7. 神戸アパレルに関する取材項目など決定・作成：本学 8. 地場産業実地調査：アパレル関連企業1 9. 地場産業実地調査：アパレル関連企業2 10. 調査まとめ、課題制作：本学 11. 神戸コレクションの歴史について：本学 12. 課題制作：本学 13. 制作物チェック：本学 14. 発表準備：本学 15. 発表：本学 <p>※(株)ぜんまい担当者来校：2、10、15</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(1時間)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。(60分)原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。</p>						
授業方法	演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30%</p> <p>授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)、(4)に関する到達度の確認。</p> <p>プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(4)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。						
教科書	特に無し						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習B						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F0202B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。						
授業の概要	神戸タータンを通して神戸の地域貢献を考察する。前期の演習Aの学びを発展させ、神戸タータンの調査を深めることにより、地域貢献活動を成功に導く要素を導き出し、大学生や女性から見たオリジナルグッズの制作を進める。また、神戸タータンと言う地域貢献における「コーディネーター」の理解をさらに深め、2022年の本学創立130周年に向けて大学としての第二のコーディネーターの制作を進める。						
到達目標	(1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・指向性) (2) 問題に対して、デザインを用いた創造的な解決方法を提案できる。(汎用的技能) (3) アイデアの具体化に必要な、PC操作やスケッチ等の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (4) 提案内容を他社に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションが行える。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神戸タータンのデザイン的、色彩的特徴の把握 (本学) 2. 神戸タータンのマーケティング観点からの特徴の把握 (本学) 3. 展開商品のマーケティング調査 (神戸市内) 4. 展開商品のマーケティング調査 (神戸市内) 5. 調査の報告、まとめ (本学) 6. 本学オリジナルグッズの検討 (本学) (ゲストスピーカー招聘予定) 7. 本学オリジナルグッズの検討 (本学) 8. 本学オリジナルグッズの具体的落とし込み (本学) 9. 本学オリジナルグッズの決定 (本学) 10. 大学と学生を結ぶ第二のコーディネーター推進の検討準備 (本学) 11. 大学と学生を結ぶ第二のコーディネーター推進の検討 (本学) 12. 第二のコーディネーターの具体的検討 (本学) 13. 第二のコーディネーターの具体的落とし込み (本学) 14. 第二のコーディネーターの決定 (本学) 15. 発表 (本学) 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(1時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。(60分)原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)、(4)に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。						
教科書	特になし						
参考書	「タータン伝統と革新のデザイン」青幻舎 ISBN 978-4-86152-692-3 「タータンとツイード 自分で織るデザインとアイデア」誠文堂新光社 明石恵子著 ISBN 978-4-416-61583-6 「タータンチェックの文化史」白水社 奥田実紀著 ISBN 978-4-560-02799-8 「文化立国論—日本のソフトパワーの底力」筑摩書房 青柳正規著 ISBN 978-4-480-06851-4						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習B						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F0202B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。						
授業の概要	授業は神戸ファッション美術館と連携しておこなう。演習Bでは、Aに引き続き神戸ファッション美術館の広報をテーマにする。演習Aで気づいた視点や、改めておこなう実地調査を基に課題を設定し、取り組んでいく。例としてはSNSを用いた情報発信の方法や、神戸ファッション美術館内で販売するグッズの提案をおこなう。より対外的な活動をおこなっていく中で、スケジュールの管理や他者との協同、デザイン、アイデアの構想など、様々なプロジェクトに対応できる実践的な能力を身につけていき、それらを他者にプレゼンテーションするための手法を習得する。						
到達目標	(1) 地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。(態度・志向性) (2) 問題に対して、デザインを用いた創造的な解決方法を提案できる。(汎用的技能) (3) アイデアの具体化に必要な、PC操作やスケッチ等の基礎的なスキルを習得する。(汎用的技能) (4) 提案内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションがおこなえる。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(本学)：授業内容について 調査準備(本学)：テーマ設定 実地調査(神戸ファッション美術館)：施設の見学、調査 調査まとめ(本学)：課題の発見、整理 課題制作①(本学)：提案内容考案 課題制作②(本学)：リサーチ 課題制作③(本学)：提案内容まとめ 中間チェック(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、提案内容のプレゼンテーション 課題制作④(本学)：提案内容修正、決定 実地調査(神戸ファッション美術館)：提案内容に沿ったリサーチ 課題制作⑤(本学)：デザイン等ビジュアル資料作成 課題制作⑥(本学)：デザイン等ビジュアル資料まとめ 制作物チェック(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、制作物をプレゼンテーション 発表準備(本学)：活動内容のまとめ、プレゼンテーション資料作成 発表(本学)：ゲストスピーカー次六尚子(神戸ファッション美術館学芸員)、発表 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく(学習時間1時間) 原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	演習、実地調査をおこない、そこで得た情報を基に、課題制作をおこなう。制作した課題について、プレゼンテーションをおこなう。						
評価基準と評価方法	授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度、実地調査等への取り組みグループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作、指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)、(4)に関する到達度の確認。 プレゼンテーション、制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。到達目標(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	実地調査等にかかる交通費、入場料などは自己負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習B						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F0202B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	演習Aでの学びを発展させ、地域の要望、問題点などに対する解決方法を提案する。						
授業の概要	地域貢献デザイン演習Bでは、演習Aでの学びを発展させ、課題制作時に学生が関心を抱いた事柄について調査を深め、成果物としてまとめていく。より対外的な活動をおこなっていく中で、スケジュールの管理や他者との協同、デザイン、アイデアの構想など、様々なプロジェクトに対応できる実践的な能力を身につけていき、それらを他者にプレゼンテーションするための手法を修得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸のファッションに関わる地場産業やイベントについて基本的な理解がある。【知識・理解】 ・地域社会に目を向け、取り組むべき問題点を発見することができる。【汎用的技能】 ・フィールドワークを中心とした情報収集を通して、リサーチ、分析、編集の基礎的なスキルを習得する。【汎用的技能】 ・調査内容を他者に伝達するために、視覚的にわかりやすい形で成果物としてまとめ、プレゼンテーションがおこなえる。【汎用的技能】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本学 パンフレットデザインの概要：本学 2. 前期でリサーチした情報の整理：本学 3. 地域情報表現：マップ、ダイアグラム、リーフレットの表現：本学 4. PCソフトの連携：Excel、Word、Illustratorなど：本学 5. 地場産業実地調査：食関連企業 6. 調査まとめ、課題制作：本学 7. 課題制作1 パンフレット構成：本学 8. 課題制作2 ページ割付：本学 9. 中間チェック：本学 10. 課題制作3 画像配置：本学 11. 課題制作4 テキスト構成：本学 12. 課題制作5 ページレイアウト：本学 13. 制作物チェック：本学 14. 発表準備：本学 15. 発表：本学 ※(株)ぜんまい担当者来校：2、9、15						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(1時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認整理する。(60分)原則として現地調査、課題制作等は授業内でおこなうが、授業内で指定の進捗まで完成しなかった場合は次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	演習、実地調査を行い、そこで得た情報をもとに、課題制作を行う。制作した課題についてプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(課題への取り組み)30%、課題制作40%、プレゼンテーション30% 授業態度は実地調査等への取り組み、グループでの課題制作への参加度などを総合的に評価。また、到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題制作は指定された課題への評価。到達目標(2)、(3)、(4)に関する到達度の確認。 プレゼンテーションは制作した課題についてのプレゼンテーションを評価。また、到達目標(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	数回の学外見学、市場調査を行う。場所は原則、神戸市内となり、入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担となる。						
教科書	特に無し						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習II (CAD) / ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F73290
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイル専門デザインソフトを用いてテキスタイルデザインに挑戦する。						
授業の概要	衣服の素材としてのテキスタイルの基礎知識（組織、構造、性質、生産、染色、加工技法など）を学ぶ。この知識に基づき、テキスタイル専門CADソフトを用いて受講生各自がオリジナルのプリント柄や織物のデザイン作品を制作する。						
到達目標	(1) デザインソフト4Dboxを用いてテキスタイルデザインを行うことができる。【汎用的技術】 (2) テキスタイルに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使ってみようテキスタイルCAD (4DBox) 3. テキスタイルCAD (4DBox) の基礎 4. 先染めデザイン1 ドット 5. 先染めデザイン2 ストライプ、ボーダー 6. 先染めデザイン3 チェック 7. 糸のデザイン 8. プリンティング 花柄 9. 刺繍のデザイン 10. ニットデザイン1 編み 11. ニットデザイン2 透かし 12. テキスタイル柄の3Dマッピング 13. 作品制作1 デザイン 14. 作品制作2 配色 15. 作品発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：専門性の高いソフトを用いる演習科目であるため、原則として授業時間内に行う。 授業後学習：授業で取り上げた内容の操作方法を復習する。完成に至らなかった作品は次回までに完成させておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、作品制作を行う。完成した作品は、授業時間内に発表し講評を行う。						
評価基準と評価方法	作品50%、発表20%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）30% 作品：学習内容を把握し、自分の興味や関心に基づいた創造を作品へ的確に反映できているか。制作物の完成度を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：作品の特徴を捉え自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。 授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン概論H/ハウジングデザイン概論						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F01070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>前半は日本の住宅の歴史です。農家・町家・長屋の流れは、現代日本の住宅の出発点です。寝殿造から書院造りへの発展の話もします。基本は庶民の住宅の歴史を話しているんだけど、天皇の別荘である桂離宮の話にも及ぶのだけど、この桂離宮を知らないひとが多いのがショック、日本の建築でもっとも有名なものなのに、前は20歳にならないと入れなかったのだが、18歳になった、ここで桂離宮へ行くことをすすめます。</p> <p>後半は都市計画・まちづくりの歴史、都市のあり方の新しい理論を学びます。その歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおけるパリ大改造の話を中心とします。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学びます。わたしはほかの授業でも強調しているのですが、19世紀を重視しています。都市計画とは直接関係しないようですが、美術史のなかでも燦然と輝く印象派マネとカルノワールとか、ポスト印象派のゴッホとかの時代です。それと、北斎もね。歴史を大づかみにして、産業革命後つまり近代の出発点である19世紀（イギリスではヴィクトリアン）をしっかり頭の中に入れてほしいのです。が、これがなかなかむずかしい。</p> <p>まちづくりの新しい理論では日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦点となります。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学びます。法律の説明で終始するような授業をしている大学もあると思いますが、わたしはむしろ法にもとづいた都市計画行政が都市を悪くしたという点を強調します。</p> <p>そして、それ対抗して、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をしていることを学んでいただけたらと願っています。</p> <p>こういうことも考えてもらいたい。各地で路上喫煙防止条例ができています。自動車の排ガスに比べて格段に毒性の弱いタバコをどうしてとりしまりたいのでしょうか。これはファシズムです。人びとの日常生活に権力をふるおうとする勢力の作戦なのです。ほんとうに人びとの健康をねがってやっているのでしょうか。</p> <p>この授業では政府・自治体の行政の批判がずいぶん出てきます。乱開発に対する反対運動にいつか立ちあがるようなひとになってください。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	<p>「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらという教員の願いを理解することができる。</p> <p>すこし具体的に補足すると、もっと初歩的には中世が古代と近世のあいだにあるとか、戦後といえば1945年以降であることなど、あまりにも基本的なことはわかるようにします。さらにいえば、歴史を学ぶことの意義をわずかながらでもわかり、都市づくりにも深い歴史があることをあたまの片隅にでも残せるようにします。そして、行政というのは悪いことをいっぱいするので、行政に従順になってはいけないことも理解できるようにします。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本住宅の系譜 2 農家・町家・長屋 3 現代住宅の分類 4 小住宅における秩序 5 2DKや3LDK ここからまちづくり 6ユートピアン社会主義者の実験村 7パリ大改造 8田園都市論 9日本の都市計画のしくみ——ほんとうに日本の行政は悪いことばかりしてきた、すっかりクルマ社会にしてみました 12新しいまちづくりの考え方——それでも前進していることもある、とくに海外では 13人間的な交通・景観 14地球環境問題 15まとめとテスト <p>ビデオは最後の30分ほどに毎回見せます。最初はヤオトン、前半はNHKの「ふれあい街歩き」が多くなります後半は以下のようなラインナップ。</p> <ol style="list-style-type: none"> A 団地の誕生（1960ころの団地） B アニメ貧困史 格差都市ロンドン C アフガニスタン女性刑務所 D フィラデルフィアの衰退、バーミンガムの成功 E 新長田の再開発、悲惨な失敗 F ソウルの快挙（高架道路の撤去） G トランジットモール（新型路面電車） H 自転車の都市グローニンゲン 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。こういう問題に関しては学外に素晴らしい教材があります。話を聞いてほしいひとたくさんあります。ゲストスピーカーという制度があって、呼んだらいいのですが、手続きが煩雑で。なかなか呼べません。この場をかりておわびします。ついでに言うておきますが、こういうわけですから、ゲストスピーカーを呼んでいる教員はとて熱心な教員なので、みなさんもそう思ってください。拍手を送りたいと思います。したがって、わたしは町の活動家を呼びませんが、学習の準備として新聞などでまちづくり運動の記事などをよく読んでください。</p>						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです。 わたしの評価は甘いといわれている。つまりこの点では優しい。「優しい教師はいい加減な教師である」（「マーフィの法則」より）。
履修上の注意	すくなくとも人類の歴史に興味をもつこと。 学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。 履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。
教科書	図解住居学編集委員会編（彰国社）『図解住居学1 住まいと生活』
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン企画論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F14050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションとデザインを考える						
授業の概要	ファッションを企画する際のアイディア・ソース（発想の源泉）となる文化的知識を身につける。トップモードに影響を与えた伝統的技術について染織を中心に概観し、伝統が新しさを生み出してきた事実を確認する。また、布地や衣服の生産、流通の歴史をひも解き、環境を軸に産業としてのファッションの未来について考える。						
到達目標	(1)ファッションの多面性を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)人と環境と生活とファッションの関係に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ 3. テキスタイルにみる日本の文様 4. KATAGAMIとデザイン 5. 染織の美1 染めの歴史と技法 6. 染織の美2 織りの歴史と技法 7. 染色の美 8. ファッションにおけるデザインのカ 9. ラグジュアリーブランドの文化貢献 10. ファッション産業の歴史とグローバル化 11. 環境とファッション 12. エシカルファッション 13. サステイナブルファッション 14. 発表 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習し、事前に指定するキーワードについて指定された方法で下調べする。（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：90分）						
授業方法	講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を積極的に活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。						
評価基準と評価方法	提出物50%、発表30%、授業への参加度20% 提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。 授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『デザインの力』（晃洋書房、永井隆則 編著）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IA/ハウジングデザイン実習IA						
担当教員	榊原 節子					科目ナンバ-	F7246A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ハウジング設計の基礎知識の習得						
授業の概要	小住宅ならびに集合住宅・住戸について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。 一年次に学習した住居の基礎知識をベースに、建築図面やインテリア図面の基礎や模型製作を習得する。 その上で最終課題では、住まい手を想定し立地環境も踏まえながら、一住戸の設計を行う。またクラス全員の参加で講評会を行い、自ら考えたことを他者に伝えるプレゼンテーション能力も会得する。						
到達目標	住宅設計のコンセプトづくりから、図面作成・模型製作・写真撮影・プレゼンテーションと建築設計の一連の行程を実践することにより、建築設計の方法論を習得します。						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 (模型の作り方) 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 (小住宅の模型づくり) 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「集合住宅(マンション)一住戸の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション、及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要。 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習: 学んだことを整理し、ノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
履修上の注意	建築設計の初めての実践的な授業であり、建築製図の基礎を学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し時間厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとして以下の道具を購入する必要があります。大学での実習では、教室備え付けの備品がある程度利用できますが、自宅での制作や他のハウジング系実習授業、更には卒業後の二級建築士受験の際にも必要です。詳細については授業中に説明します。 ■製図に必要な道具 平行定規簡易式A2版 or T定規、三角定規30cm型、勾配定規22cm型、三角スケール(15cm及び30cm)、 テンプレート(建築士受験用)、製図用シャープペンシル0.5・0.3各1本、字消板、消しゴム、 製図用ブラシ、ドラフティングテープ、ケント紙A2版、トレーシングペーパー、 キャリングケース(A3ノビサイズ)、コンベックス等 ■模型制作に必要な道具と材料 カッターナイフ、カッティングボード、スチール定規、スチール曲尺、ヒートカッター、 スチレンボード、両面ケント1mm、バルサ、スプレーのり、 貼ってはがせるスプレーのり、スチのり、木工用ボンド、軟粘着両面テープ、マスキングテープ等 ■授業内容に関する質問を受けるための連絡先 info[at]setsuko-sakakibara.com 「メールをする場合は[at]を@に置き換えること」						
教科書							

参考書	新しい建築の製図(出版：株式会社 学芸出版社)
-----	-------------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IB/ハウジングデザイン実習IB						
担当教員	蔵田 優美					科目ナンバ-	F7246B
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア・プレゼンテーション (CAD入門)						
授業の概要	<p>パソコンを用いたCADによる製図は、建築、インテリア、土木、機械、プロダクト、芸術など多様な分野で主力として使われる。製図は、本来立体のものを多方向から見たと想定して、紙の上に概念的に平面で描く。製図について各分野共通の事項も多数存在し、本実習では、インテリアデザイン製図における平面図、断面図、立面図、展開図など本分野に不可欠の図面の描き方を教える。</p> <p>授業の前半では、パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作をオリジナルのテキストを使って実習しながら、建築家、難波和彦設計の「箱の家」をオリジナルテキストを用い、各自がCADを駆使し写しながら作図する。課題「箱の家」を通して木造住宅の建築計画と内部のインテリアの作図方法を学ぶ。木曜日の授業「インテリアデザイン実習I」と連動する「マンション居室のインテリアデザイン」課題を行うことを通して、インテリアデザインの基本、考え方、表現法、CADによる作図、各種図面の描き方、模型、CADによるプレゼンテーション、パソコンやプリンターの使い方、各種道具の使い方を学ぶ。ここでは、RC造のマンションの内部を、各自が自由なインテリアデザインを発想し、考えだしたデザインを平面図や展開図で描く方法を学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア実習を通して、様々なインテリアデザインを調べる必要性を感じ、本や店舗などでインテリア製品を意識したり、良好なインテリアデザインの壁や床の素材を意識することができる。 ・インテリア製図やプレゼンテーションがどのようなものなのか実践を通して理解できる。 ・パソコン及びCADソフトVector Worksの基本操作を他者にも説明することができる。 ・建築家、難波和彦設計の「箱の家」を資料を見ながらCADで作図できる。 ・平面図、断面図、立面図、展開図を描くことができ、自分で考えたものを図面化する技術を身につける。 ・インテリアデザインのプレゼンテーション方法を習得し、今後も自らインテリアデザインのプレゼンテーションを行う方策を身につける。 						
授業計画	<p>第1回 : ガイダンス 良質なデザインの話 ／CADの基本操作説明 配布資料「基本操作演習A」</p> <p>第2回 : CADの基本操作説明 配布資料「基本操作演習B」 ／「箱の家」の平面図作図及び課題説明 手順1~3</p> <p>第3回 : CADの基本操作説明 配布資料「基本操作演習C」 ／配布資料「箱の家」の平面図作図 手順4~5</p> <p>第4回 : CADの基本操作説明 配布資料「基本操作演習D」 ／配布資料「箱の家」の平面図作図、断面図作図、完成、レイアウト、プリントアウト、提出</p> <p>第5回 : 展開図の描き方と作図実習 プリントアウト、提出</p> <p>第6回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン①」 趣旨説明、マンションの躯体トレース1(設定、通り芯など)</p> <p>第7回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン②」 マンションの躯体トレース2(主要部分の描写)</p> <p>第8回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン③」 マンションの躯体トレース3(予備日)、小課題</p> <p>第9回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン④」 課題詳細説明、周辺環境、家族像、ライフスタイルのコンセプト立案</p> <p>第10回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑤」 エスキス、コンセプトの考察</p> <p>第11回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑥」 エスキス、CAD図面(平面図)制作</p> <p>第12回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑦」 CAD図面(展開図)制作</p> <p>第13回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑧」 模型制作</p> <p>第14回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑨」 模型、図面、プレゼンテーションレイアウト完成、大型サイズプリントアウト、提出</p> <p>第15回 : インテリア・プレゼンテーション課題「マンション居室のインテリアデザイン⑩」 講評会 プレゼンテーション、口頭発表の実践</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業外における学習は特に必要ありませんが、良いインテリアデザインや製品、インテリアを美しくする素材や植物、照明などに関心を持つようにして下さい。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外の時間も費やさないと課題提出ができない状況もあります。</p> <p>課題の提出間際に多くの作業を残さないよう、授業内にできるだけ作業を進めましょう。自分で案を考える授業後半の課題では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。</p>						
授業方法	<p>前期の前半は、パソコンでの操作説明と受講者各自のパソコン上での操作を交互に行い、各自の質問対応のため教員が巡回します。パソコンとプロジェクターを多用し、前期の後半は、模型をつくるので、カッターやボンドも使用します。前期の後半のインテリア・プレゼンテーション課題では、各自が案を考えるため、細かな時間配分は受講者自身で行います。授業中は、お互いが授業内容を助け合う目的であれば、受講者同士で相談しても構いません。課題をすすめるために、全員に対して課題内容の相談を何度も繰り返します。</p>						

授業方法	優れたインテリアプレゼンテーションをデザインできるようになるため、デザインの見方や考え方、技術的なことについて、要所で解説を行います。
評価基準と評価方法	①課題「基本操作演習A～D」5% ②課題「箱の家」15% ③課題「展開図」10% ④インテリア・プレゼンテーション課題 「マンション居室のインテリアデザイン」30% 最終提出物は、A2プレゼンボードと模型。そこに含まれる全てを考慮する。アイデア、デザイン、計画、図面、模型、写真、レイアウト、プレゼンテーション力、口頭発表力など。 ⑤授業態度40%
履修上の注意	出席回数が10回に満たないものには、原則単位認定を行いません。 授業では、毎回新しいCAD操作などを学ぶため、欠席すると次回の授業でわからないことが沢山できてしまいます。もし欠席した場合は、次の週までに各自で対策をとるよう心がけて下さい。教室の空き時間であれば、大学のパソコンを使用できます。
教科書	授業オリジナルのテキスト（プリント冊子）
参考書	自宅のパソコンでCADの作業をしたい場合、有料のVectorWorksの学生向けソフトが必要となります。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIA/ハウジングデザイン実習IIA						
担当教員	長瀬 りか					科目ナンバ-	F7247A
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住空間のインテリア計画とその表現 —ライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考える—						
授業の概要	インテリアCAD実習Iで学んだCADによる作図表現を発展させ、3次元の図面表現を習得する。まず柱状体や回転体など、3Dの作図法の基本を学ぶ。次に簡単な家具などのモデリングを行い、シンボル図形等も利用しながら、練習課題としてマンション住戸のリノベーションに取り組む。次にテクスチャやライティングなど、質感や光の表現手法を習得し、よりリアルで詳細なレベルでの、インテリアの空間表現力を養う。またインテリアデザイン実習IIで制作する課題の図面表現にも応用する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD						
到達目標	(1)インテリアデザインの基本となる知識と計画手法を身につける。【知識・理解】 (2)住空間のデザイン事例について情報収集し、機能要素・イメージを整理、分析することができる。【汎用的技能】 (3)ハウジングデザインを専門の言葉で表現し、コミュニケーションすることができる。【汎用的技能】 (4)CAD・3Dによる表現手法を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なインテリアデザインを表現することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） CAD/3D基本操作解説、練習課題 簡易な3Dシンボルの作成</p> <p>第2回 旧山邑邸と課題敷地の見学</p> <p>第3回 第1課題 「マンション住戸のインテリアコーディネート」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第4回 第1課題 オリジナル3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成、3Dパースの作成、レイアウト、まとめ。</p> <p>第6回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 エスキースに基づく3Dモデルの作成。</p> <p>第7回 第2課題 インテリア計画（参考資料収集、エスキース）、3Dモデルの修正、つくりこみ。</p> <p>第8回 第2課題 インテリアエレメントの選択、ライティングのポイント解説、 3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第9回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第10回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第11回 第2課題 テクスチャ調整</p> <p>第12回 第2課題 ライティング調整、添景の作成</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）の レイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 最終チェック・手直し・追加事項のチェックおよび図面追加・修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 合同の発表講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習：CADを用いた練習課題の作品制作を行う。各回、課題に関連した簡単な解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。						
履修上の注意	課題に関連する見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。						
教科書	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。						

参考書	<p>インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10: 4766117557</p> <p>コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版)</p> <p>その他、授業中に紹介する。</p>
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIB/ハウジングデザイン実習IIB						
担当教員	荒谷 省午					科目ナンバ-	F7247B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいや商業空間のインテリアデザインを考え、そのプレゼンテーション術を学ぶ						
授業の概要	「マンション住戸のリノベーション」「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」を課題とする。具体的な計画地を見学し、場所を設定したのちにコンセプト計画・プランニングを行い図面表現（平面・立面・断面）またはパースや模型などを作成してA1サイズ2枚程度にまとめて完成させる。						
到達目標	コンセプト計画やプランニングの力をつけることができる。 パース・模型作成などのプレゼンテーション能力や相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけることができる。						
授業計画	第01回 オリエンテーション（課題説明とすすめ方） 第02回 現場見学会（敷地の見方、読み方、計画地の選定） 第03回 プランニング（エスキース：現状スケルトンの読み込み） 第04回 プランニング（エスキース：躯体とインテリア） 第05回 プランニング（プランニングの発想・動線のチェック） 第06回 プランニング（詳細計画） 第07回 課題作成（図面作成・模型作成） 第08回 課題作成（3Dデータの立ち上げ） 第09回 課題作成（開口部の検討） 第10回 課題作成（パースの視点の検討） 第11回 課題作成（ディテールの検討） 第12回 プレゼンテーション（最終チェック・パネル作成） 第13回 プレゼンテーション（3Dデータ テクスチャ・添景作成） 第14回 プレゼンテーション（模型作成） 第15回 発表（提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題作成の為に各自で専門誌やインターネット検索など、調査や資料収集を行うこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行うこと。						
授業方法	PPT（パワーポイント）でプロジェクターを使用した講義および実習（CAD使用）						
評価基準と評価方法	作品の完成度の総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること（減点対象） 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。						
履修上の注意	遅刻は2回を1回の欠席とし、1時間以上の遅刻は欠席とする。出席が9回以下の者は原則として単位は認めない。 欠席した場合は次回までに遅れを取り戻し、実習に支障のないようにすること。 見学1回あり（ヨドコウ迎賓館他、敷地、芦屋方面）。 見学に要する交通費、入館料は自己負担とする。 受講希望者は「インテリアCAD実習I」と「インテリアデザイン実習I」を履修していることが望ましい。						
教科書	授業中に資料配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIIA/ハウジングデザイン実習IIIA						
担当教員	植田 道則					科目ナンバ-	F7348A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいの設計を、ライフスタイルの一部としてとらえる商業デザインとともに学んでいく。						
授業の概要	<p>デザインの感性を豊かにする題材として、商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップを数例レポートしその店が街を魅力的にしている部分について考えます。商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②①で学んだことを展開し、課題敷地の中で店舗付き住宅のデザインを行います。</p>						
到達目標	<p>第一目標：コンセプト立案（自分でデザインする楽しさを実感できる。）</p> <p>第二目標：デザインの展開（デザインの基礎知識を習得することができる。）</p> <p>第三目標：プレゼンテーション（相手に自分のイメージを伝えることの手ごたえを実感できる。）</p>						
授業計画	<p>第1回 【課題発表とオリエンテーション】</p> <p>◆課題発表・課題敷地見学 六甲八幡神社付近で、具体的な敷地を設定し、店舗付き住宅（約100~150㎡）の設計を行う。住宅をメインにします。サブとしての店舗は雑貨屋、服屋、カフェ、レストランを想定しています。</p> <p>◆ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介 海外の先端商業施設事例を音と映像により紹介</p> <p>第2回 【「ボリューム把握」】 課題敷地を見てその特性について考え、コンセプトを醸成します。</p> <p>第3回 【部分と全体】ユニットプランと配置計画</p> <p>第4回 【平面エスキース1】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第5回 【平面エスキース2】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第6回前半のまとめ</p> <p>第7回 【中間チェック】平面プランを中心に、作品作りの中間レビューを行います。</p> <p>第8回 【断面計画1】断面計画をステップを踏みながら書いていきます。</p> <p>第9回 【断面計画2】断面計画の骨格を考えます。</p> <p>第10回 【断面計画3】平面・断面計画から空間や立体の構成を考えます。</p> <p>第11回 【学外研修】（フィールドワーク2）：重森三玲美術館「住居と庭の関係」 住居と庭の関係について、実作を見て考える。</p> <p>第12回 【模型作製1】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第13回 【模型作製2】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第14回 【模型作製2】模型に対して、色や光の演出を行います。</p> <p>第15回 【まとめ】プレゼンテーション講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	イメージを伝えるのは図面だけではありません。言葉、模型、スケッチ、イメージ写真等、自分にあつた表現方法を、授業以外でも模索し、この機会を通して身につけるようにしてください。						
授業方法	<p>第1回：データスライド等を用いた講義</p> <p>第1回、第11回：フィールドワーク</p> <p>第3回：グループ学習他</p> <p>第4-14回：実技演習、プレゼ資料作成（パワーポイント資料作成）</p> <p>第15回：全体デザインレビュー+プレゼ指導</p>						
評価基準と評価方法	授業の出席率75%（レポート有）、成果物評価15%、最終発表10%として、一旦評価をし授業の取り組みを加えて、総合評価する。						
履修上の注意	<p>学外研修を行う。</p> <p>第1回【学外研修（フィールドワーク）：課題敷地見学】 六甲八幡宮、阪急六甲近く</p> <p>第11回【学外研修（フィールドワーク）：「重森三玲庭園美術館」】 前庭や茶庭、坪庭がつくられている新旧融合の特殊な場所として文化的価値も高い重森三玲庭園美術館を見て、住居と庭の関係を実作を通して学ぶ。 （交通費等自己負担）</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。 受講希望者は「ハウジングデザイン実習IIA」と「ハウジングデザイン実習IIB」を履修していることが望ましい。</p>						

教科書	特になし
参考書	特になし（授業の中でプリントを配ります。）

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習IIIB/ハウジングデザイン実習IIIB						
担当教員	村上 隆行					科目ナンバ-	F7348B
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	「集まって住む」～小規模集合住宅のデザイン 家族構成・社会生活の多様化を背景とし「住まい」のあり方が大きく変化している今日において、「集まって住む」ことの課題や意義を学び、そこにどのような空間が必要であるのかを考察し、提案する。						
授業の概要	一つの住戸に一つの家族が住むだけではない、多様な「集まって住む」かたちを学ぶ。 身近に実在する敷地に、どのような人がどのように「集まって住む」か、を自ら設定し、そのための建築をデザインする。自分の考えたことを適切に人に伝えられるよう、図面と模型やCGなどによって、プレゼンテーションする。 キーワード：家族、建築、地域、空間、デザイン、図面、模型、CG、プレゼンテーション						
到達目標	人や社会との関わりを熟考した空間の提案が出来る。 独自の発想や感性に基づくデザインを図面やCGで的確に表現できる。 模型を早く美しく製作できる。						
授業計画	第1回 授業の説明、課題の説明 事例説明 第2回 敷地調査（六甲八幡神社周辺） 第3回 コンセプトレポート作成、発表、講評 ～どのような人がどのように「集まって住む」か～ 第4回 エスキスチェック（1） ※規模・配置 第5回 エスキスチェック（2） ※住棟のデザイン 第6回 エスキスチェック（3） ※住戸プラン 第7回 中間発表会（エスキス発表、講評） 第8回 最終エスキスチェック、製図レイアウト検討 第9回 製図（1） ※配置図が仕上がる事 第10回 製図（2） ※平面図が仕上がる事 第11回 製図（3） ※立面図・断面図が仕上がる事 第12回 模型制作（1） パーツの製図、切り出し 第13回 模型制作（2） 組み立て、仕上げ 第14回 プレゼンテーション仕上げ 第15回 作品発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	インターネットや専門誌などから、できるだけ多くの事例に触れること。 授業の時間内だけで考えるのではなく、授業外でもコンセプトやエスキスを練り、授業中に先生のチェックを受けられるように準備しておく。 図面・模型制作も授業外に積極的に取り組み、完成度を高めるよう努めること。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間発表時エスキスの評価20%、提出作品の評価50%とする。						
履修上の注意	学外見学（第2回時）六甲八幡宮、阪急六甲近く 受講希望者は「ハウジングデザイン実習IIA」と「ハウジングデザイン実習IIB」を履修していることが望ましい。						
教科書	特になし						
参考書	現代集合住宅のり・デザイン 事例で読む“ひと・時間・空間”の計画 / 日本建築学会編/彰国社/ 978-4-395-00809-4 眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう / 居住空間デザイン講師室編著/彰国社/ 978-4-395-00891-9 建築設計テキスト集合住宅/建築設計テキスト編集委員会編/彰国社/978-4-395-21132-6						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン実習III F / ファッションデザイン実習III						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F73250
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインから衣服設計、縫製までの衣服制作工程の理解と制作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIIでは、ジャケット制作、パンツの縫製、写真から製図をおこなすデザインコピー、立体裁断の基本的な手法を学び、ファッションデザイン実習I・IIを総括し、「デザイン特別演習」や「卒業研究」へ繋がる衣装制作の土台作りを行う。						
到達目標	(1) ジャケット製図、パーツ構成を理解できる。(知識・理解) (2) ジャケットの縫製をおこなえる。(汎用的技術) (3) 衣服の写真からデザインを理解し、パターンにおこなうことができる。(汎用的技術)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ジャケット製図「身頃①」：前後身頃の製図。 2. ジャケット製図「身頃②」：衿、袖の製図。 3. ジャケット「裁断、印つけ①」：本布の裁断、印つけ。 4. ジャケット「裁断、印つけ②」：裏布の裁断、印つけ。 5. ジャケット「縫製①」：身頃の縫製。 6. ジャケット「縫製②」：衿ぐりの縫製。 7. ジャケット「縫製③」：裏身頃の縫製。 8. ジャケット「縫製④」：袖の縫製。 9. ジャケット「縫製⑤」：袖つけ。仕上げ。 10. パンツ：パンツの縫製。 11. デザインコピー①：製図。 12. デザインコピー②：トフル（半身）の制作。 13. 立体裁断法①：シャツワンピース、前身頃の制作。 14. 立体裁断法②：シャツワンピース、後ろ身頃、袖の制作。 15. 立体裁断法③：シャツワンピース、衿の制作、まとめ。 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（ジャケット50%、デザインコピー20%、立体裁断30%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服デザインの習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Aでは、各自でテーマを設定し、そのテーマについての資料、文献を主とした調査方法や考察の仕方を学び、自分の考えを論として展開していく。そして調査結果を基に衣服デザインを考案し、プレゼンテーションをおこなう。						
到達目標	(1) テーマにそった文献・ビジュアル資料を収集し、衣装デザインに繋げることができる。(知識・理解) (2) イメージボード、スタイルマップを作成し、イメージをデザイン画で表現することができる。(汎用的技能) (3) 図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：文献収集法の説明、テーマ設定 2. テーマ設定①：テーマの設定とキーワードの抽出 3. テーマ設定②：文献収集 4. テーマ設定③：文献の読解と情報の収集 5. テーマ設定④：「研究目的」をまとめる 6. テーマ設定⑤：「研究方法」を決める 7. 発表①：発表準備 8. 発表②：研究目的・研究方法、テーマ内容について発表する 9. 制作①：デザイン構想1 10. 制作②：デザイン構想2 11. 制作③：デザイン画作成法と実践 12. 制作④：デザイン画作成 13. 制作⑤：デザイン画決定 14. 制作②：発表原稿とパワーポイント作成 15. 制作③：発表・講演会 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回において必要となる情報を収集しておく。(学習時間2時間)						
授業方法	演習形式：研究テーマに沿って、各自衣装デザインを進める。						
評価基準と評価方法	課題提出 (50%)、課題発表 (50%) で評価する。 デザイン画等の課題を総合的に評価する。到達目標 (2)、(3) に関する到達度の確認。 制作した課題についての発表を評価する。到達目標 (1) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「着る・装う・飾る」という行為を様々な方法から学び、プレゼンテーションを演習する。						
授業の概要	2年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、カラーデザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る・装う・飾る」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、図像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるように演習を通して学ぶ。						
到達目標	1) 研究テーマを決めることができる【知識・理解】 2) 文献を収集し、説明することができる【知識・理解】 3) インタビューの内容をまとめることができる【汎用的技能】 4) 研究内容を具体的なものとして意識することができる【態度・指向性】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 研究テーマの決め方①：「着る・装う・飾る」をキーワードにして、疑問に思うことを抽出する。 3. 研究テーマの決め方②：疑問に思ったことを図式化して、テーマを決定 4. 研究の進め方①：図書館の利用の仕方と文献収集 5. 研究の進め方②：文献収集のまとめと発表（プレゼンテーション） 6. 研究の進め方③：論文の書き方の説明、練習 7. 研究の進め方④：発表、添削 8. 研究方法①：実験方法と文献調査の違いを説明する 9. 研究方法②：テーマに沿って研究方法を実施する 10. 研究方法③：研究を発表（プレゼンテーション） 11. 研究方法③：インタビューの練習 12. 研究方法④：インタビュー調査の発表（プレゼンテーション） 13. まとめ①：論文のロジックを作る 14. まとめ②：論文をまとめる 15. まとめ③：論文を発表する（プレゼンテーション）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）						
授業方法	①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。						
評価基準と評価方法	発表70%：研究した内容を発表する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標（1）～（5）に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題を締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究・制作に向けて興味あるテーマをみつける。						
授業の概要	3年次までのファッションやデザインに関連する基礎科目や実習での学習に基づいて、興味のある事柄に注目し、自分がそのどこに魅力を感じ、何をより深く知りたいのか、何を表現したいのかについて考えをまとめ、卒業研究・制作につながるテーマをみつける。また、計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。						
到達目標	(1)自分の興味あるテーマをみつけ、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)自分の興味あるテーマを具体的にわかりやすい文章で述べる【汎用性技能解】 (3)自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定1 学習内容と興味ある事柄の検討 3. テーマの設定2 キーワードの抽出 4. テーマの設定3 研究目的、対象の検討 5. 研究方法1 図書館の利用と文献収集 6. 研究方法2 調査資料の収集と方法 7. 研究方法3 研究計画 8. テーマの発表 9. テーマに沿った研究の実施 10. 研究資料の調査 11. 研究資料の分析 12. 研究資料の整理 13. 調査結果のまとめ 14. パワーポイント制作 15. 成果の発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べする。（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。（学習時間：90分）						
授業方法	演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。配布プリントや視聴覚教材（DVD、パワーポイント）を用いて、内容を確認しながら進める。						
評価基準と評価方法	提出物50%、発表50%、 提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（研究についてのレポート・質問）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	特に定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。自分の設定したテーマをどうプレゼンテーションするのかも重視します。</p> <p>やはり、前期は各自がポートフォリオを作るかなあ。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのが基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。水曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているので、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっきにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	<p>「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願うという教員に応えることができる。</p> <p>ゼミ員どおし話しあいによってものごとをより深く理解できるようになるのだということを知るようになる。</p>						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	おおむね参加の積極性で採点します						
履修上の注意	<p>ところで「素晴らしいシラバス」（すばらしいしらばす）は回文（上から読んでも下から読んでも……）ですよ。こういう遊びがちりばめられているシラバスにしたいのですが、なかなか余裕がありません。というようなこともしたいですね。クイズもしたい。</p> <p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。</p>						
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。						

参考書	授業中にたくさん紹介します。
-----	----------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバー	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究につながる基礎研究と制作						
授業の概要	<p>ポートフォリオやプロジェクト課題（学外のコンペやイベントなどに参加）の制作により、デザイン力、表現力を高めながら、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。</p> <p>近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、また身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。</p> <p>関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。</p> <p>発表、ディスカッションを積み重ね、後期のデザイン特別演習Bにつなげていく。</p> <p>キーワード：住空間、問題意識、デザイン表現</p>						
到達目標	<p>(1)ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。（汎用的技能）</p> <p>(2)各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究／制作のテーマについて方向性を考えることができる。（知識・理解＋態度・志向性）</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1課題 ポートフォリオの作り方解説</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオ制作 これまでの作品の見直し</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ制作 作品の手直し</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ制作 ページ構成、レイアウト</p> <p>第5回 第1課題 ポートフォリオの仕上げ、提出 チェック、追加修正の指示</p> <p>第6回 第2課題 デザイナー／テーマ研究 課題説明</p> <p>第7回 第2課題 参考資料検索、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 中間発表とディスカッション、第3課題（小課題）について説明</p> <p>第9回 第3課題 課題設定</p> <p>第10回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第11回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第12回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第13回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第14回 各課題のまとめ、発表講評、追加修正の指示</p> <p>第15回 各課題の修正後、提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回授業前に資料をまとめておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連の建築や展覧会等の見学など、自主的に進めておくこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	演習および実習（CADも使用）						
評価基準と評価方法	<p>第1課題 20%：ポートフォリオの構成や表現の的確性を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>第2課題 20%：テーマに関する文献研究、資料収集の取り組み方や関心度を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。</p> <p>第3課題 30%：設定したプロジェクト課題の的確性や意義、空間デザインとして総合的に作品を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>平常点 30%：毎回のミニレポート（コメントや質問等）により、各課題の取り組みに対する関心度や工夫を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p>						

履修上の注意	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習IA, 1B」を履修済の人に限る。 「ハウジングデザイン実習IIA, IIB」および3年前期の「ハウジングデザイン実習IIIA, IIIB」もあわせて履修することがのぞましい。 課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担) 3つの課題の順番は、プロジェクト課題の都合等により入れ替わることもある。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F0306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究につながる基礎研究と制作						
授業の概要	<p>ポートフォリオやプロジェクト課題（学外のコンペやイベントなどに参加）の制作により、デザイン力、表現力を高めながら、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。</p> <p>近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、また身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。</p> <p>関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。</p> <p>発表、ディスカッションを積み重ね、後期のデザイン特別演習Bにつなげていく。</p> <p>キーワード：住空間、問題意識、デザイン表現</p>						
到達目標	<p>(1)ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。（汎用的技能）</p> <p>(2)各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究／制作のテーマについて方向性を考えることができる。（知識・理解＋態度・志向性）</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1課題 ポートフォリオの作り方解説</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオ制作 これまでの作品の見直し</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ制作 作品の手直し</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ制作 ページ構成、レイアウト</p> <p>第5回 第1課題 ポートフォリオの仕上げ、提出 チェック、追加修正の指示</p> <p>第6回 第2課題 デザイナー／テーマ研究 課題説明</p> <p>第7回 第2課題 参考資料検索、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 中間発表とディスカッション、第3課題（小課題）について説明</p> <p>第9回 第3課題 課題設定</p> <p>第10回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第11回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第12回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第13回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第14回 各課題のまとめ、発表講評、追加修正の指示</p> <p>第15回 各課題の修正後、提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回授業前に資料をまとめておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連の建築や展覧会等の見学など、自主的に進めておくこと（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	演習および実習（CADも使用）						
評価基準と評価方法	<p>第1課題 20%：ポートフォリオの構成や表現の的確性を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>第2課題 20%：テーマに関する文献研究、資料収集の取り組み方や関心度を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。</p> <p>第3課題 30%：設定したプロジェクト課題の的確性や意義、空間デザインとして総合的に作品を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>平常点 30%：毎回のミニレポート（コメントや質問等）により、各課題の取り組みに対する関心度や工夫を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。</p>						

履修上の注意	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習IA, 1B」を履修済の人に限る。 「ハウジングデザイン実習IIA, IIB」および3年前期の「ハウジングデザイン実習IIIA, IIIB」もあわせて履修することがのぞましい。 課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担) 3つの課題の順番は、プロジェクト課題の都合等により入れ替わることもある。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造形法の習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Bでは、デザイン特別演習Aで考案したデザインを基に、平面製図法や立体的断法によるパターン作成をおこない、デザインを衣服として立体化していく。またテーマに対する調査も継続しておこない、ポートフォリオへと順次まとめていき、卒業研究のための基盤づくりをおこなう。						
到達目標	(1) デザイン画を基に、衣装の設計ができる。(知識・理解) (2) 文献・ビジュアル資料調査の結果を、立体としての衣服に効果的に反映できる。(汎用的技術) (3) 図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：テーマ調査の進捗状況確認 2. 制作①：ポートフォリオ作成法 3. 制作②：ポートフォリオ作成 4. 制作③：パターン理論の説明とパターン作成の検討 5. 制作④：パターン作成1 6. 制作⑤：パターン作成2 7. 制作⑥：パターン作成3 8. 制作⑦：トワルによる試作1 9. 制作⑧：トワルによる試作2 10. 制作⑨：トワルによる試作3 11. 制作⑩：トワルによる試作4 12. 制作⑪：素材等、必要資材の検討 13. 発表①：発表原稿とパワーポイント作成1 14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成2 15. 発表③：発表・講評会 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回において必要となる情報、素材を収集しておく。(学習時間2時間)						
授業方法	演習形式：研究テーマに沿って、各自衣装制作を進める。						
評価基準と評価方法	課題提出（50%）、課題発表（50%）で評価する。 パターン、トワル等の課題を総合的に評価する。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。 制作した課題についての発表を評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル、ボード等)、調査や資料収集にかかる費用は自己負担とする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究の先行研究をまとめる。						
授業の概要	3年前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを考え、論文の読み解く力を養う。文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。さらに、学んだ知識をもとに、これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解する。						
到達目標	1) 先行研究を説明することができる【知識・理解】 2) 研究方法を列挙することができる【知識・理解】 3) 研究テーマに基づき目次を作ることができる【汎用的技能】 4) 研究内容を発表することができる【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. テーマと研究方法の説明 3. 各自の先行研究について発表Ⅰ 4. 各自の先行研究について発表Ⅱ 5. 各自の先行研究について発表Ⅲ 6. 各自の研究方法について指導Ⅰ 7. 各自の研究方法について指導Ⅱ 8. 各自の研究方法について指導Ⅲ 9. 各自の研究方法について指導Ⅳ 10. 各自の発表について指導Ⅰ 11. 各自の発表について指導Ⅱ 12. 各自の発表について指導Ⅲ 13. 各自の発表について指導Ⅳ 14. 発表のプレゼンテーションⅠ 15. 発表のプレゼンテーションⅡ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間90分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間90分）						
授業方法	①プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②研究した内容を発表し、グループ討議への参加を求める。 ③研究内容によっては、個人指導する。						
評価基準と評価方法	発表70%：研究した内容を発表する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：レポートは、研究内容を論文形式でまとめているかどうかを評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 レポートは、添削して返却する。その時に個人指導する。卒業論文に繋げる。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	演習中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業・制作研究に向けて興味あるテーマを絞り込み、これにかかわる事柄をまとめる。						
授業の概要	3年次前期までに学んだ事柄に基づき、研究・制作テーマを考える。各自のテーマを実践するうえで必要となる方法論を学び、先行研究や作例を分析、考察する。論文作成においては、その結果を論理的にまとめる。作品制作においては、カタチとして表現するための基盤づくりを行う。計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。						
到達目標	(1)自分の興味あるテーマに適切な研究論文や作例を検索し、研究・制作内容を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)自分の興味あるテーマを具体的にわかりやすい文章で述べるができる【汎用性技能解】 (3)自分の興味あるテーマについて討議、発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定 3. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 1 4. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 2 5. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 3 6. 方法の検討 1 各自の研究・制作に対する指導 7. 方法の検討 2 各自の研究・制作に対する指導 8. 方法の検討 3 各自の研究・制作に対する指導 9. 方法の検討 4 各自の発表に対する指導 10. 方法の検討 5 各自の発表に対する指導 11. 方法の検討 6 各自の発表に対する指導 12. 方法の検討 7 各自の発表に対する指導 13. 発表に向けてのまとめ 1 原稿作成 14. 発表に向けてのまとめ 2 パワーポイント作成 15. 発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各自のテーマに基づいた資料を収集し、下調べする。（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：各自が学んだ内容を確認、整理し、要点をまとめる。課題は次の授業までに完成させること。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	演習：毎回、授業テーマについての解説・講義を受けた後、各自、研究テーマに向き合う。内容を確認しながら進める。						
評価基準と評価方法	<p>提出物50%、発表50%、</p> <p>提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（研究についてのレポート・質問）の内容、自らの興味・関心の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	特に定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>4年生での卒業研究へと続く都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成します。パワーポイントで20枚でいどがいいかなと考えています。</p> <p>。各ゼミ員がレジユメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどよっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているので、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっきにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。ゼミ員どおしの話しあいの重要性を理解できる。						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p> <p>「ゼミ」以外のものが2つ隠れています。なにとなにでしょう。このゼミでは言葉の遊びも大歓迎。 ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	かなりの部分を提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。かなりの部分というのは6割から8割でいどといったような意味です。「参加の積極性」とは議論をいっしょうけんめいやるかどうかです。あるいはテーマをほんとうに興味をもって設定しているかどうかということです。						

履修上の注意	学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。 履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。
参考書	授業中にたくさん紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子					科目ナンバ-	F0306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究/制作につながる基礎研究とテーマ設定						
授業の概要	<p>デザイン特別演習Aに引き続き、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。</p> <p>近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、またコンペや学外イベントなど様々なプロジェクトに参加したり、身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。</p> <p>関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。</p> <p>またポートフォリオや小課題の制作により、表現力を高める。</p> <p>発表、デスカッションを積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行なっていく。</p> <p>キーワード：住空間、問題意識、テーマ設定</p>						
到達目標	<p>(1)ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。(汎用的技能)</p> <p>(2)各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマについて方向性を考えることができる。(知識・理解+態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について(前期の取り組みを振り返って)</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオの追加、再構成</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)のチェック、追加修正の指示 第2課題 プロジェクト課題(後期)の計画</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の仕上げ、提出 第2課題 プロジェクト課題の制作1</p> <p>第5回 第2課題 プロジェクト課題の制作2</p> <p>第6回 第2課題 プロジェクト課題の制作3</p> <p>第7回 第2課題 プロジェクト課題の制作4</p> <p>第8回 第2課題 プロジェクト課題の完成、ミニレポート</p> <p>第9回 第3課題 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論</p> <p>第10回 第3課題 卒業制作のテーマ設定に関する文献研究、資料収集</p> <p>第11回 第3課題 卒業制作のテーマ設定に関する資料のまとめ1(スライド作成)</p> <p>第12回 第3課題 卒業制作のテーマ設定に関する資料のまとめ2(スライド作成)</p> <p>第13回 第3課題 卒業制作のテーマについて 発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第3課題 パワーポイントによる発表(ゼミ内)、講評</p> <p>第15回 第3課題 パワーポイントの追加、修正</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：進行中の課題について、報告・連絡・相談ができるよう、毎回授業前に資料をまとめておくこと。 (学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：課題制作を進めるための文献・WEBによるリサーチ、テーマ関連の建築や展覧会等の見学など、 自主的に進めておくこと(学習時間：2時間)。</p>						
授業方法	演習および実習(CADも使用)						
評価基準と評価方法	<p>第1課題 20%：ポートフォリオの追加、全体構成や表現の的確性を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。</p> <p>第2課題 30%：設定したプロジェクト課題の的確性や意義、空間デザインとして総合的に作品を評価する。 到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>第3課題 20%：テーマに関する文献研究、資料収集の取り組み方や関心度を評価する。 到達目標(2)の到達度の確認。</p> <p>平常点 30%：毎回のミニレポート(コメントや質問等)により、各課題の取り組みに対する</p>						

評価基準と 評価方法	関心度や工夫を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担)
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインの仕事						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・ハウジングデザイン領域におけるキャリア形成への動機付け						
授業の概要	近年キャリア教育の必要性が高まり、本学でも授業科目のなかにキャリア・ビジネス系列として組み込まれている。ただ、これらは全学的な共通科目である。本授業は専門教育分野での基礎的キャリア科目として設定し、企業の第一線で働く先輩たちの専門的な仕事の実態を、ゲストスピーカーとしてオムニバス形式で話をしてもらう。						
到達目標	(1)多様なジャンルで活躍するゲストスピーカーによる授業を受けることで、各仕事の現場・現実について知識を習得する。(知識・理解) (2)卒業後の進路について、展望を持つことができる。(態度・志向性) (3)様々な職種について理解し、レポートとしてまとめることができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回ガイダンス(井上裕之・FHD教員) 第2回ファッションデザインの世界(ゲストスピーカー:矢野海児・オフィス矢野・元大丸本社GIVENCHY部門部長) 第3回ファッションデザイナーの仕事(ゲストスピーカー:森朱希子・フリーランス衣裳デザイナー) 第4回スポーツウェアの仕事(ゲストスピーカー:藤原一彦・(株)デザート企画開発部) 第5回ブランドプロデュース(ゲストスピーカー:増田幾子・(株)マジョリティアンドマイノリティ) 第6回インナーウェアの仕事(ゲストスピーカー:大塚結郁・(株)ワコール企画開発課) 第7回バイヤーの仕事(ゲストスピーカー:岩高要子・(有)マトッティ) 第8回マーチャンダイジングの仕事(ゲストスピーカー:岸本慈子・(株)ぜんまい) 第9回 インテリアの仕事(ゲストスピーカー:新治照美・インテリアコーディネーター協会) 第10回インテリアコーディネーターの役割(ゲストスピーカー:新治照美・インテリアコーディネーター協会) 第11回工務店の仕事(ゲストスピーカー:橋本育子・株式会社橋本工務店) 第12回建築設計事務所の仕事(ゲストスピーカー:細田真規子・細田設計室) 第13回家具関係の仕事(ゲストスピーカー:能口仁宏・株式会社大彌リビング) 第14回照明の仕事(ゲストスピーカー:斉藤珠美・パナソニック照明事業部) 第15回クリエイティブディレクターの仕事(ゲストスピーカー:コイケアカリ・篠原伯母野山デザイン)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回のゲストスピーカーの仕事について、ウェブなどで前もってリサーチしておく。(学習時間1時間)						
授業方法	講義 : 毎回ゲストスピーカーを招いておこなう。						
評価基準と評価方法	毎回のレポート(授業終了時に回収)(70%)、授業態度(30%) 授業ごとのレポートを評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	講師の都合により、講師や講義順序の入れ替わりがある。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン実習						
担当教員	坂田 岳彦					科目ナンバ-	F73300
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美しいウェブデザインを制作する						
授業の概要	ウェブデザイン制作ソフト「Adobe Dreamweaver」を使って、ウェブデザインの基本的習得を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Dreamweaverの基本操作の習得 ・ Adobe Illustratorを使ったデザイン制作とウェブページのための適切な画像変換 ・ Adobe Photoshopを使った画像処理とウェブページのための適切な画像変換 ・ 情報の整理とわかりやすい情報伝達の考察 ・ ウェブページの効率的な編集方法 ・ ユーザビリティとアクセシビリティに配慮したレイアウトデザイン 						
到達目標	HTMLとCSSを理解し、美しく、また分かりやすいウェブデザインを制作することができます。【汎用的技能】音楽アーティストやショップのサイトを制作することにより、消費者目線に立った、魅力あるサイトを制作することができます。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 HTMLの基本、文字入力と文字設定、リンク設定 第3回 GIFファイルとJPEGファイルの作成、リンクボタンの作成 第4回 ページのレイアウト、別ウィンドウの作成 第5回 ロールオーバーイメージの作成、サイトの再構築 第6回 課題1：デザイン計画と文字入力 第7回 課題1：色彩計画と画像処理 第8回 課題1：レイアウト処理、講評 第9回 HTMLとCSSの作成 第10回 ページの編集 第11回 課題2：デザイン計画と文字入力 第12回 課題2：色彩計画と画像処理 第13回 課題2：レイアウト処理 第14回 課題2：ページの編集 第15回 講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努力してください。						
授業方法	実習：Windowsコンピュータを使って進めます。前半（1-8回目）と後半（9-15回目）に分けて行い、前半では音楽アーティストのサイトを、後半ではショップのサイトを制作します。						
評価基準と評価方法	平常点50% 提出物50%						
履修上の注意	USBメモリを準備しておいてください（詳しくは授業内で説明します）。						
教科書	毎回、レジュメを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン論						
担当教員	坂田 岳彦					科目ナンバ-	F72280
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	デジタル技術とウェブデザインについて						
授業の概要	前半：デジタル技術の発達により私たちの生活がどのように変革したのか、身の回りの生活用品からネットワーク環境、ロボット技術まで幅広く取り上げ、その功罪を含めて考察します。また、著作権の問題についても深く考察します。 後半：インターネットの仕組みを知り、ウェブデザインがどのような仕組みで作られているのかを学びます。美しく読みやすいページレイアウト、ユーザビリティ、アクセシビリティについて考察し、また、これからのウェブマーケティングの方策について考えます。						
到達目標	デジタル技術およびウェブデザインの仕組みを理解できるようになります。【知識・理解】 デジタル技術およびウェブデザインが私たちの生活にもたらす影響について理解できるようになります。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス～デザインの定義と領域 第2回 アナログ技術とデジタル技術の違いについて学ぶ 第3回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ 第4回 身の回りのデジタル技術とその功罪について考察する 第5回 デジタル技術と著作権の問題について考察する 第6回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する 第7回 前半のまとめと試験 第8回 ウェブサイトについての基本知識を学ぶ 第9回 ウェブデザインについて学ぶ (1) 文字のデザイン 第10回 ウェブデザインについて学ぶ (2) 画像と著作物利用について 第11回 ウェブデザインについて学ぶ (3) 色の持つ意味 第12回 ウェブデザインについて学ぶ (4) 美しいページレイアウト 第13回 ウェブデザインについて学ぶ (5) ユーザビリティとアクセシビリティについて考察する 第14回 これからのウェブマーケティングについて考察する 第15回 後半のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前回までの学習内容をよく理解し、復習に努めてください。(1時間) 授業後学習：普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努めてください。(3時間)						
授業方法	講義：スクリーンに画像を投影しながら進めます。前半(1-7回目)と後半(8-15回目)に分けて行い、前半ではデジタル社会について、後半ではウェブデザインについて学びます。それぞれのまとめとして「デジタル社会の今後」について、また「インターネットが私たちの生活の中で果たしている役割」について考察・記述してもらい、主だったものを紹介しながら解説を行います。						
評価基準と評価方法	平常点50% 試験50%						
履修上の注意	前半と後半に1回ずつテストを実施しますので、復習に努めてください。						
教科書	毎回、レジュメを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングインターンシップ						
担当教員	単位認定者：中林 浩					科目ナンバー	F73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターンシップにより建築設計実務の実態を知る。						
授業の概要	兵庫県建築設計監理協会などが実施する夏期インターンシップ（ワークスタディ）に参加して、10日間程度建築設計事務所にて実務研修を受ける実習科目である。そのことにより、社会現場から実践的かつ実務の仕事実態と設計スキルを学び、かつ、事務所所属員などと人的交流することで、自分のキャリアイメージ形成にも役立たせる。						
到達目標	建築設計の実務実態を大まかに把握し、その内容を自分なりに自分の言葉で語れるようにする。						
授業計画	<p>設計事務所での10日間実習内容（モデル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長による設計事務所の業務内容の説明、10日間のガイダンス ・着工前現場説明と現地見学・・・着工前のマンション（A） ・工事中現場説明と現地見学・・・工事中の戸建住宅（B） ・（A）についての設計図面類の解説 ・（A）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（B）についての設計図面類の解説 ・（B）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（A）についての模型制作 ・（B）についての仕上げ部材色彩計画 <p>前後の説明会・報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学内での担当教員からのインターンシップ内容説明と実習後の報告会の2回の事前と事後の授業には必ず参加すること ・10日間の実習まとめと事務所内会議での成果発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	インターンシップ先の企業について、事前によく調べておくこと。						
授業方法	上のとおり。						
評価基準と評価方法	<p>成績評価の基準：研修日報とレポート提出（10月上旬）</p> <p>成績評価者：FHDのハウジング領域担当教員</p>						
履修上の注意	<p>設計事務所側の受け入れ人数が少ない場合、人数制限することもある。このことから、履修できないこともある。</p> <p>履修者は、受け入れ先設計事務所との間で契約書を個別に締結する。</p> <p>履修者は、本学学生全員加入の「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）の他に、「学研災付帯賠償責任保険Bコース」に加入すること。</p> <p>オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p> <p>教員の連絡先：baya[at]js6.so-net</p>						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる【汎用的技能】 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べるができる【知識・理解】 3) 神戸のファッション文化を説明することができる【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧品 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ビジネスリサーチ演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F73190
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者調査法の知識と技術を学び、消費者心理を数字で分析する。						
授業の概要	消費者調査の方法を理解し、消費者調査法の知識と技術を習得する。具体的な課題に対して、アンケート形式を中心とした消費者調査の演習をグループ単位で実施する。任意に設定したテーマを基に、企画、実施、集計、分析というプロセスを経て、成果をまとめる。						
到達目標	(1)消費者の行動の実態や意識を把握し、消費者調査を正しく行うことができる。【汎用的技術】 (2)調査データ解釈に対する関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 消費者調査の必要性と目的 3. 調査の種類と方法 4. 調査用紙の作成方法 5. 調査テーマの検討 6. 調査計画の作成 7. 予備調査（プリテスト）の作成 8. 予備調査（プリテスト）の集計と分析 9. 調査票（アンケート）の作成 ①対象者の選定 10. 調査票（アンケート）の作成 ②質問項目の設定 11. アンケート集計 単純集計 12. アンケート集計 クロス集計 13. 調査結果の分析 14. 報告書の作成 15. まとめと発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の下調べを行う。（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の調査方法を確認・復習し、演習問題で理解度確かめる。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	演習。事前に予習を済ませた内容の解説に基づいた演習を行う。学習内容によって、グループ・ワークやディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>提出物50%、発表30%、授業への参加度20%</p> <p>提出物：学習内容を的確に反映できているか。提出物の完成度やリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容などを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>発表：具体的な課題に対して自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	(社)日本衣料管理協会／新版消費者調査法／(社)日本衣料管理協会						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	美容・健康演習						
担当教員	森元 亜希子					科目ナンバ-	F72090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	皮膚の構造やしくみを学び、化粧品の選び方を理解する						
授業の概要	私たちは、お肌を健やかに保つための補助として化粧品を使用します。しかし世の中には化粧品がありふれています。それは皆が同じ肌質ではなく、使用する化粧品も違うからです。ここでは皮膚の構造やしくみ、働きなどを学び、さまざまな肌質を理解し、化粧品選びが出来るようになる事、テクニックを学ぶ。						
到達目標	①皮膚の構造やしくみ、働きを知り、肌のタイプ別も化粧品を知る。【知識・理解】 ②肌の手入れのしかた、基本のメイクアップができる。【汎用的技能】 ③メイクに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・思考性】						
授業計画	第1回 道具の説明、美と健康について 第2回 皮膚の構造、しくみと働き。クレンジングのしかた 第3回 肌タイプと見分け方。スキンケアのしかた 第4回 紫外線対策について。 第5回 下地、ファンデーション 第6回 形態学。ローライト、ハイライト 第7回 アイブロウ 第8回 アイメイク 第9回 チーク 第10回 リップ 第11回 イメージメイク（浴衣編） 第12回 イメージメイク（オルチャン編） 第13回 イメージメイク（外人風編） 第14回トレンドメイク課題作成 第15回 復習、まとめ、筆記テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容と重点箇所を確認、整理をする。（学習時間2時間）						
授業方法	ペアで所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの仕上がりをもまえて、各回設定のテーマについて解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%：授業への姿勢、実技をしっかりと行なっているかで評価します。 課題提出40%：トレンドメイクを調べるレポート1枚あります。 筆記テスト30%：30点満点のテストが1回あります。						
履修上の注意	実習にはしっかり取り組む事。理由なく放棄した場合は欠席とみなす。 欠席が5回以上で、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	日本化粧品検定2級・3級対策テキスト 主婦の友社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	美容・健康演習						
担当教員	森元 亜希子					科目ナンバ-	F72090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	皮膚の構造やしくみを学び、化粧品の選び方を理解する						
授業の概要	私たちは、お肌を健やかに保つための補助として化粧品を使用します。しかし世の中には化粧品がありふれています。それは皆が同じ肌質ではなく、使用する化粧品も違うからです。ここでは皮膚の構造やしくみ、働きなどを学び、さまざまな肌質を理解し、化粧品選びが出来るようになる事、テクニックを学ぶ。						
到達目標	①皮膚の構造やしくみ、働きを知り、肌のタイプ別も化粧品を知る。【知識・理解】 ②肌の手入れのしかた、基本のメイクアップができる。【汎用的技能】 ③メイクに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・思考性】						
授業計画	第1回 道具の説明、美と健康について 第2回 皮膚の構造、しくみと働き。クレンジングのしかた 第3回 肌タイプと見分け方。スキンケアのしかた 第4回 紫外線対策について。 第5回 下地、ファンデーション 第6回 形態学。ローライト、ハイライト 第7回 アイブロウ 第8回 アイメイク 第9回 チーク 第10回 リップ 第11回 イメージメイク（浴衣編） 第12回 イメージメイク（オルチャン編） 第13回 イメージメイク（外人風編） 第14回トレンドメイク課題作成 第15回 復習、まとめ、筆記テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業の事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書などで下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容と重点箇所を確認、整理をする。（学習時間2時間）						
授業方法	ペアで所定の実習を行い、ペアで仕上がりについてディスカッションを行う。ペアワークの仕上がりをもまえて、各回設定のテーマについて解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度30%：授業への姿勢、実技をしっかりと行なっているかで評価します。 課題提出40%：トレンドメイクを調べるレポート1枚あります。 筆記テスト30%：30点満点のテストが1回あります。						
履修上の注意	実習にはしっかり取り組む事。理由なく放棄した場合は欠席とみなす。 欠席が5回以上で、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	日本化粧品検定2級・3級対策テキスト 主婦の友社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	F72260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。実習では衣服の型紙を作成するパターンメイキングを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の習得と活用の有効性を考えます。						
到達目標	衣服の構成を理解してCADを操作し 実際に作品の制作に少しでも役立てるようにする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作 第2回 原型、ポケット作成、実寸出力 第3回 スカート原型のデザイン展開 第4回 スカート工業用パターン作成 第5回 ブラウスパターン実寸入力 第6回 ブラウス工業用パターン作成、マーキング 第7回 パンツ原型作成 第8回 パンツ原型デザイン展開 第11回 ワンピース囲み製図 第9回 ワンピース工業用パターン作成、マーキング 第10回 原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成 第14回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成、マーキング 第15回 レポート作成 提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察し型紙作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
履修上の注意	履修上の注意:10回以上の出席がないと受講資格を失います(遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	足立 ともみ					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。実習Iでは原型を使ったパターンの展開を中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産の流れやCADの活用方法を理解して活用できるよう演習します。						
到達目標	アパレル生産に有効なCADの活用を理解して実際に作品の制作に少しでも役立てるように練習する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作 第2回 原型、ポケット作成、実寸出力 第3回 スカート原型のデザイン展開 第4回 スカート工業用パターン作成 第5回 ブラウスパターン実寸入力 第6回 ブラウス工業用パターン作成、マーキング 第7回 パンツ原型作成 第8回 パンツ原型デザイン展開 第11回 ワンピース囲み製図 第9回 ワンピース工業用パターン作成、マーキング 第10回 原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成 第14回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成、マーキング 第15回 レポート作成 提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察し型紙作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
履修上の注意	履修上の注意:10回以上の出席がないと受講資格を失います(遅刻厳禁) データ保存のため、各自でUSBメモリを購入し毎回持参してください。 (他教科との兼用可)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCG演習／ファッションCGスタイル画演習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピューターデザインソフトを使ってファッションデザイン画を描く。						
授業の概要	デザインアイデアの展開方法を学び、フォトフォリオの制作技法とファッションデザイン画を描く際のテクニックを習得する。 コンピューターのデザインソフト（IllustratorやPhotoshop）の使い方を学び、コンピューターグラフィックでファッションデザイン画を完成させる。						
到達目標	(1)コンピューターデザインソフトを用いてファッションデザイン画を描くことができる。【汎用的技術】 (2)デザインアイデアを展開させ、自分の関心に基づいたフォトフォリオを制作することができる。【汎用的技術】 (3)コンピューターデザインソフト（IllustratorやPhotoshop）の操作方法を理解し、ファッションCGへの興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. フォトフォリオ制作とは 3. ファッションデザイン画とは 4. ハンガーイラストとは 5. Illustrator CSの使い方とペンツールの基本操作 6. Illustrator CS 3パスや色の編集 7. Illustrator CS テキスタイル（柄）の作成と合成（クリッピングマスク方法） 8. Illustrator CS レイヤー 9. Illustrator CS 作品制作 1 10. Photoshop 基本操作説明 11. Photoshop テキスタイル（柄）の合成 12. Photoshop レイヤーマスク、画像モードを使った合成 13. Photoshop 素材感の描き方 14. Photoshop 作品製作 2 15. 作品発表、評価 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：専門性の高いソフトを用いる演習科目であるため、原則として授業時間内に行う。操作方法の難易度によるが、場合によっては授業で取り上げる該当箇所の下調べ。（詳細は授業内に指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で行ったIllustrator CS またはPhotoshopの操作方法を復習する。完成に至らなかった作品は次回までに完成させておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	パソコンを使用した演習。						
評価基準と評価方法	作品70%、発表15%、授業への参加度15% 作品：学習内容を把握し、自分の興味や関心に基づいた創造を作品への確に反映できているか。制作物の完成度を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認 発表：作品の特徴を捉え自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(2)(3)の到達度の確認。 授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。						
履修上の注意	演習授業のため、原則として欠席や遅刻は認めない（やむを得ない場合は、10回以上の出席とする）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション・ライティング演習						
担当教員	坪井 兵輔					科目ナンバ-	F22060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	様々な視点からファッションを捉え、文章で表現する。						
授業の概要	ファッションをテーマにした記事やエッセイ、脚本などの作成を通して論理的な思考を鍛え、感受性を養い、文章表現能力の向上を図る。本授業では放送局で実務経験のある教員がファッションに関わる業界や広告・PR現場での20年以上の取材を踏まえてファッションの「使用価値」はもとより、より豊かな生活に資する「付加価値」を創造するライティングについて解説する。受講者はファッション関係を進路とする人に限らず、文章によるコミュニケーション能力の向上を目指す人も対象に、ファッション・ライティングの実践により言語表現の可能性を考察する。						
到達目標	(1) ファッションに関する明晰で、説得力のある文章表現技能を身につける【汎用性技能】 (2) MEDIAとしてのファッションに込められたメッセージを読み解き、言語化できる【汎用性技能】 (3) ファッションに関する多面的な理解に基づいたライティングにより価値を創造できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ファッションとは何か～MEDIAとしてのファッション概論 第2回 価値とは何か～価値創造のための言語表現 第3回 コミュニケーション手段としてのファッション・ライティング～物語性の考察 第4回 省略と強調～表現対象の言語的解析と文章表現技法 第5回 ファッションを「感じる」～五感を駆使した文章表現 第6回 MEDIAリテラシーとしてのファッション・ライティング～メッセージ抽出 第7回 時代を映し出すファッション～ファッションの歴史的系譜分析 第8回 社会を変えたファッション考察～価値の転換と言語表現 第9回 記事①～記事の書き方 第10回 記事②～ファッションショー 第11回 脚本①～脚本（物語）の書き方 第12回 脚本②～「豊かさ」を創造するファッションについて 第13回 エッセイ①～エッセイの書き方 第14回 エッセイ②～神戸、大学、ローカルを掘り下げ、グローバルに問う 第15回 プレス・リリース～企画書・メディア向けPR文章の書き方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内で文章作成に関する学習を行う。 ただし、授業時間内で完成できなかった場合は次回までに完成させておくこと。 授業前学習：毎回、次回授業テーマに関する参考文献を指定する。受講者は精読し下調べを行う（1時間） 授業後学習：各回授業で取り組んだワークの要点整理とキーワード抽出を行い、文章作成に関するレポートを作成する（1時間）						
授業方法	講義とライティング：授業テーマに対し、教員が概要、背景、文章表現上の要点を講義し、受講者はペア、またはグループでディスカッションを行った上で文章を執筆・報告する。教員は報告を講評し、文章を完成させる。						
評価基準と評価方法	受講態度50%、授業での提出文章50% （授業態度）は積極的なディスカッションへの参加、文章作成への準備により総合的に評価。 （提出文章）到達目標（1）（2）（3）への目標達成度合いで評価。						
履修上の注意	ファッションは社会情勢を色濃く反映するため、日々、ニュースに触れること。 また、文章表現の向上において読書は欠かせない。 多くの書物を読み、語彙を増やすよう意識すること。 出席回数が開講日程の2/3に満たない場合、原則単位認定を行わない。 特別な事情が認められない場合、10分以上の遅刻は欠席とする。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	日本経済新聞 神戸新聞など						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション・ライティング演習						
担当教員	坪井 兵輔					科目ナンバ-	F22060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	様々な視点からファッションを捉え、文章で表現する。						
授業の概要	ファッションをテーマにした記事やエッセイ、脚本などの作成を通して論理的な思考を鍛え、感受性を養い、文章表現能力の向上を図る。本授業では放送局で実務経験のある教員がファッションに関わる業界や広告・PR現場での20年以上の取材を踏まえてファッションの「使用価値」はもとより、より豊かな生活に資する「付加価値」を創造するライティングについて解説する。受講者はファッション関係を進路とする人に限らず、文章によるコミュニケーション能力の向上を目指す人も対象に、ファッション・ライティングの実践により言語表現の可能性を考察する。						
到達目標	(1) ファッションに関する明晰で、説得力のある文章表現技能を身につける【汎用性技能】 (2) MEDIAとしてのファッションに込められたメッセージを読み解き、言語化できる【汎用性技能】 (3) ファッションに関する多面的な理解に基づいたライティングにより価値を創造できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ファッションとは何か～MEDIAとしてのファッション概論 第2回 価値とは何か～価値創造のための言語表現 第3回 コミュニケーション手段としてのファッション・ライティング～物語性の考察 第4回 省略と強調～表現対象の言語的解析と文章表現技法 第5回 ファッションを「感じる」～五感を駆使した文章表現 第6回 MEDIAリテラシーとしてのファッション・ライティング～メッセージ抽出 第7回 時代を映し出すファッション～ファッションの歴史的系譜分析 第8回 社会を変えたファッション考察～価値の転換と言語表現 第9回 記事①～記事の書き方 第10回 記事②～ファッションショー 第11回 脚本①～脚本（物語）の書き方 第12回 脚本②～「豊かさ」を創造するファッションについて 第13回 エッセイ①～エッセイの書き方 第14回 エッセイ②～神戸、大学、ローカルを掘り下げ、グローバルに問う 第15回 プレス・リリース～企画書・メディア向けPR文章の書き方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内で文章作成に関する学習を行う。 ただし、授業時間内で完成できなかった場合は次回までに完成させておくこと。 授業前学習：毎回、次回授業テーマに関する参考文献を指定する。受講者は精読し調べを行う（1時間） 授業後学習：各回授業で取り組んだワークの要点整理とキーワード抽出を行い、文章作成に関するレポートを作成する（1時間）						
授業方法	講義とライティング：授業テーマに対し、教員が概要、背景、文章表現上の要点を講義し、受講者はペア、またはグループでディスカッションを行った上で文章を執筆・報告する。教員は報告を講評し、文章を完成させる。						
評価基準と評価方法	受講態度50%、授業での提出文章50% （授業態度）は積極的なディスカッションへの参加、文章作成への準備により総合的に評価。 （提出文章）到達目標（1）（2）（3）への目標達成度合いで評価。						
履修上の注意	ファッションは社会情勢を色濃く反映するため、日々、ニュースに触れること。 また、文章表現の向上において読書は欠かせない。 多くの書物を読み、語彙を増やすよう意識すること。 出席回数が開講日程の2/3に満たない場合、原則単位認定を行わない。 特別な事情が認められない場合、10分以上の遅刻は欠席とする。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	日本経済新聞 神戸新聞など						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージと写真						
担当教員	吉川 直哉					科目ナンバ-	F22050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	光をイメージとしてとらえるメディアである写真とは何かについて学び、ポートレートやファッションデザインなどを記録・撮影することへの理解を深める。						
授業の概要	光の原理から学び、写真を「撮る」から「写る」までのプロセスの意味を講義と実習の両面から進める。						
到達目標	(1) メディアとしての写真への関心を持つことができる。 (2) 光の性質と写真の機能を他者に説明できる。(知識・理解) (3) 光の特徴を使い、写真撮影の基本的な技術を使うことができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 授業ガイダンス(講師紹介と授業の課題、受講などについての諸注意)+写真とは何か 第2回 光の採取:とにかく撮る 第3回 「光の採取」成果物批評~光の採取:考えて撮る 第4回 写真の読み方:広告写真や報道写真などから学ぶ 第5回 セルフポートレートとセルフイーの撮影 第6回 ポートレートの撮影 第7回 セルフポートレートとセルフイー:成果物の研究と再撮影 第8回 複数の写真の組み合わせ:作業説明~撮影 第9回 複数の写真の組み合わせ:撮影実習 第10回 写真作品鑑賞と研究:国内の写真家の作品から 第11回 理想のプロファイルの制作への挑戦 第12回 写真作品鑑賞と研究:海外の写真家の作品から 第13回 理想のプロファイルの制作の完成 第14回 写真表現の可能性:撮影と制作 第15回 制作発表と合評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備:事前告知する毎回の授業のキーワードについて、下調べをするなどして予備知識を増やす。 授業後学習:授業で学んだ知識や技術について要点をまとめ、整理する。						
授業方法	原則として、授業内で全ての制作を行う。ただし、授業時間内で完成できなかった者は、次週までに完成させておくこと。15週のうち、開講時間に代えて展覧会での作品鑑賞のために学外授業を行う場合がある。その前週までに内容を伝え、それについての授業前学習(予習)を授業内で告知するので、図書館などを利用して下調べをして学外授業に臨むこと。また、その授業後学習(復習)として作品についての所感をまとめた小レポートの提出を求める。なお、学外授業の場合は、交通費、入館料は各自負担とする。						
評価基準と評価方法	授業態度(授業への取り組み)30%、授業内の成果物評価70%。 成果物は、授業で説明した知識の理解、授業で取り組んだ汎用的技術が習得できているか評価する。						
履修上の注意	15週のうち10週以上の出席がないと、原則として単位認定を行わない。 遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	プリントを授業内で配布する。						
参考書	写真のなかの「わたし」、鳥原 学、ちくまプリマー新書251、筑摩書房、ISBN978-4-480-68955-9						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージと写真						
担当教員	吉川 直哉					科目ナンバ-	F22050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	光をイメージとしてとらえるメディアである写真とは何かについて学び、ポートレートやファッションデザインなどを記録・撮影することへの理解を深める。						
授業の概要	光の原理から学び、写真を「撮る」から「写る」までのプロセスの意味を講義と実習の両面から進める。						
到達目標	(1) メディアとしての写真への関心を持つことができる。 (2) 光の性質と写真の機能を他者に説明できる。(知識・理解) (3) 光の特徴を使い、写真撮影の基本的な技術を使うことができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 授業ガイダンス(講師紹介と授業の課題、受講などについての諸注意) + 写真とは何か 第2回 光の採取: とにかく撮る 第3回 「光の採取」成果物批評～光の採取: 考えて撮る 第4回 写真の読み方: 広告写真や報道写真などから学ぶ 第5回 セルフポートレートとセルフイーの撮影 第6回 ポートレートの撮影 第7回 セルフポートレートとセルフイー: 成果物の研究と再撮影 第8回 複数の写真の組み合わせ: 作業説明～撮影 第9回 複数の写真の組み合わせ: 撮影実習 第10回 写真作品鑑賞と研究: 国内の写真家の作品から 第11回 理想のプロファイルの制作への挑戦 第12回 写真作品鑑賞と研究: 海外の写真家の作品から 第13回 理想のプロファイルの制作の完成 第14回 写真表現の可能性: 撮影と制作 第15回 制作発表と合評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備: 事前告知する毎回の授業のキーワードについて、下調べをするなどして予備知識を増やす。 授業後学習: 授業で学んだ知識や技術について要点をまとめ、整理する。						
授業方法	原則として、授業内で全ての制作を行う。ただし、授業時間内で完成できなかった者は、次週までに完成させておくこと。15週のうち、開講時間に代えて展覧会での作品鑑賞のために学外授業を行う場合がある。その前週までに内容を伝え、それについての授業前学習(予習)を授業内で告知するので、図書館などを利用して下調べをして学外授業に臨むこと。また、その授業後学習(復習)として作品についての所感をまとめた小レポートの提出を求める。なお、学外授業の場合は、交通費、入館料は各自負担とする。						
評価基準と評価方法	授業態度(授業への取り組み)30%、授業内の成果物評価70%。 成果物は、授業で説明した知識の理解、授業で取り組んだ汎用的技術が習得できているか評価する。						
履修上の注意	15週のうち10週以上の出席がないと、原則として単位認定を行わない。 遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	プリントを授業内で配布する。						
参考書	写真のなかの「わたし」、鳥原 学、ちくまプリマー新書251、筑摩書房、ISBN978-4-480-68955-9						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションカルチャー論						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F24110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションは私たちの日常に多大な影響力を持っている。ファッションのさまざまなトピックを取り上げながら、現代社会におけるファッションの文化的役割について考える。						
授業の概要	私たちの身体を覆う衣服は実用品であると同時に装飾品であり、これまで民族固有の服飾文化が形成されてきた。しかしファッションのグローバル化に伴い、世界各地の人々の装いは均質化の傾向を見せつつある。このように多大な影響力をもつ西洋発のファッションを、神戸・メディア・アート・色彩・身体といったキーワードに基づき、多角的な視点から考察することによって、現代のファッション文化に対する理解を深める。						
到達目標	1) 広い視野からファッション現象に関する理解ができる。【知識・理解】 2) ファッションと密接に関連する様々なカルチャーとの相互作用に関心を深める。【態度・志向性】 3) ファッションの文化的意味に対する多様で複合的な観点を獲得している。【態度・志向性】						
授業計画	1) 04/10 オリエンテーション（授業の目的、概要、進行に関する説明） 2) 04/17 ファッションとカルチャー、ファッションに関わる周辺カルチャーについて 3) 04/24 神戸とファッション KOBE FASHIONの推進 4) 05/08 ファッションとメディア（1）ファッション雑誌 5) 05/15 ファッションとメディア（2）雑誌ができるまで 6) 05/22 ファッションとメディア（3）ブランドとSNS 7) 05/29 ファッションとアイコン（1）A・ヘプバーンと映画 8) 06/0 ファッションとアイコン（2）A・ヘプバーンとスタイル 9) 06/12 ファッションとアイコン（3）A・ヘプバーンとU・ジバンシー 10) 06/19 ファッションと色彩（1）COLORS展 11) 06/26 ファッションと色彩（2）リトル・ブラック・ドレス 12) 07/03 ファッションと色彩（3）ファッションにおける黒 13) 07/10 ファッションと身体（1）身体加工と素材加工 14) 07/17 ファッションと身体（2）男らしさと女らしさ 15) 07/25 講義の振り返りとまとめテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業ノート、配布プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。30分程度。 授業中に紹介する参考書を用いて、授業内容に対する見識を広めること。30分程度。						
授業方法	講義。毎回DVDやスライド資料を使用する。各テーマのまとめの回には、授業内容に関する理解について各自の視点からのプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業中の小レポート（50%）とまとめテスト（50%）を実施する。						
履修上の注意	私語には厳しく対処する。※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	教科書は特に指定しないが、適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション企画演習I/ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析（マーケティング）を行う方法を学び、課題に取り組む						
授業の概要	ファッション企画演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品の企画・生産・販売の流れについて学び、具体的な職種や実務を想定した演習を通じて技能を修得し役割についての理解を深める 演習Iではファッション商品の企画・生産・販売のプロセスを理解する 消費者や市場の動向を的確に捉えるための「マーケティング」手法について学び、市場調査や情報収集の具体的な課題に取り組む またそれらの情報や調査結果を分析した結果を基にした商品企画の仕方を学び、具体的な課題に取り組む						
到達目標	<p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる職種（専門職）についての解説 2. アパレル業界の最新市場① 2019年春夏小売市場全般の動向とレディス・メンズ・キッズウエアのトレンドの解説 3. アパレル業界の最新市場② 2019年春夏のファッション雑貨全般・インナーウエア・テキスタイルのトレンドの解説 4. ファッション市場の顧客世代分析 ファッション業界で使われている世代分析資料を基にファッションと消費志向を解説 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う顧客世代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III IIの分析結果を分かりやすくレポートに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループごとに着装調査のテーマ（カラー、スタイル、デザイン）と手順を考える 9. ファッション着装調査II あらかじめ用意された街頭写真をグループのテーマに基づき分析する 10. ファッション着装調査III IIの着想調査の分析結果をグループで考察し、レポートに仕上げる 11. ファッション着装調査IV IIIで作成したレポートを基に、着装調査の結果をグループごとに発表する 12. 生活及びファッション調査I 生活及びファッションを調査する方法を学び、調査シートを作成する 13. 生活及びファッション調査II グループごとに調査を実施し、調査した結果を項目ごとに分析する 14. 生活及びファッション調査III IIの分析結果を基にグループで考察し、レポートを作成する レポートの結果を基に各自で新しい商品の企画書を作成する 15. 生活及びファッション調査IV グループごとにIIIのレポート分析内容と各自の商品企画書を発表する 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>ファッション市場（百貨店、専門店）の顧客調査（4時間）</p> <p>生活及びファッションのアンケート調査（1時間）</p> <p>具体的な商品開発の課題レポート（3時間）</p>						
授業方法	ファッション商品開発のベースになるファッション市場及び生活者の調査分析の仕方を学ぶ グループに分かれて課題に沿った調査や分析をし、考察した内容をレポートにまとめる その結果をグループごとにクラス内で発表する						
評価基準と評価方法	市場調査の分析レポート80% 分析レポートを基にした商品企画書20% で評価						

履修上の注意	① 5回以上欠席すると受講資格失う ② 遅刻や早引きは、欠席扱いとする ③ 指定する課題を必ず提出する ④ グループワークに積極的に参画する
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション企画演習I/ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析（マーケティング）を行う方法を学び、課題に取り組む						
授業の概要	ファッション企画演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品の企画・生産・販売の流れについて学び、具体的な職種や実務を想定した演習を通じて技能を修得し役割についての理解を深める 演習Iではファッション商品の企画・生産・販売のプロセスを理解する 消費者や市場の動向を的確に捉えるための「マーケティング」手法について学び、市場調査や情報収集の具体的な課題に取り組む またそれらの情報や調査結果を分析した結果を基にした商品企画の仕方を学び、具体的な課題に取り組む						
到達目標	<p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる職種（専門職）についての解説 2. アパレル業界の最新市場① 2019年春夏小売市場全般の動向とレディス・メンズ・キッズウエアのトレンドの解説 3. アパレル業界の最新市場② 2019年春夏のファッション雑貨全般・インナーウエア・テキスタイルのトレンドの解説 4. ファッション市場の顧客世代分析 ファッション業界で使われている世代分析資料を基にファッションと消費志向を解説 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う顧客世代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III IIの分析結果を分かりやすくレポートに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループごとに着装調査のテーマ（カラー、スタイル、デザイン）と手順を考える 9. ファッション着装調査II あらかじめ用意された街頭写真をグループのテーマに基づき分析する 10. ファッション着装調査III IIの着想調査の分析結果をグループで考察し、レポートに仕上げる 11. ファッション着装調査IV IIIで作成したレポートを基に、着装調査の結果をグループごとに発表する 12. 生活及びファッション調査I 生活及びファッションを調査する方法を学び、調査シートを作成する 13. 生活及びファッション調査II グループごとに調査を実施し、調査した結果を項目ごとに分析する 14. 生活及びファッション調査III IIの分析結果を基にグループで考察し、レポートを作成する レポートの結果を基に各自で新しい商品の企画書を作成する 15. 生活及びファッション調査IV グループごとにIIIのレポート分析内容と各自の商品企画書を発表する 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>ファッション市場（百貨店、専門店）の顧客調査（4時間）</p> <p>生活及びファッションのアンケート調査（1時間）</p> <p>具体的な商品開発の課題レポート（3時間）</p>						
授業方法	ファッション商品開発のベースになるファッション市場及び生活者の調査分析の仕方を学ぶ グループに分かれて課題に沿った調査や分析をし、考察した内容をレポートにまとめる その結果をグループごとにクラス内で発表する						
評価基準と評価方法	市場調査の分析レポート80% 分析レポートを基にした商品企画書20% で評価						

履修上の注意	① 5回以上欠席すると受講資格失う ② 遅刻や早引きは、欠席扱いとする ③ 指定する課題を必ず提出する ④ グループワークに積極的に参画する
教科書	オリジナルテキスト
参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション企画演習II/ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案の演習。						
授業の概要	ファッション商品の製品開発や仕入販売の基本となるコンセプト作りを演習する授業。具体的には、対象となる消費者イメージ(ターゲット)を設定し、そのライフスタイルやファッションの特性を分析する。そしてその分析をもとにした商品(製品)や売り場(品揃え)に落とし込んだ企画書を作成し提案する手法と技術を理解し学ぶ。 ファッション業界において消費者向けの的確に訴求できる商品を企画、販売する基本となる「ファッションマーチャライジング」の一連の過程を修得することを目的とする。						
到達目標	<p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション企画「マーチャライジング」とは ファッション企画「マーチャライジング」の具体的な手法や活用法の解説。 2. ファッション企画I ターゲットの設定 「マーチャライジング」の対象となる消費者イメージの設定をする 3. ファッション企画II ライフスタイル分析1 ターゲットの生活スタイルを言葉(マインドマップ使用)で分析する 4. ファッション企画III ライフスタイル分析2 ターゲットのライフスタイルイメージを雑誌(切り取る)で分析する 5. ファッション企画IV スタイリング分析 生活シーン別に洋服の着こなしの特徴を雑誌(切り取る)で分析する 6. ファッション企画V 商品イメージの分析 スタイリング分析をもとに具体的に企画したい商品の特徴を分析する 7. ファッション企画VI ターゲットイメージマップ PCを使ってターゲットの設定マップを作成する 8. ファッション企画VII ライフスタイル分析マップ PCを使ってライフスタイル(言葉)分析マップを作成する 9. ファッション企画VIII ライフスタイルイメージマップ PCを使ってライフスタイル(写真)分析マップを作成する 10. ファッション企画IX スタイリングイメージマップ PCを使ってスタイリングのイメージマップを作成する 11. ファッション企画X 5 2週のマーチャライジング 5 2周(1年間)のライフスタイルとファッションの特性を分析する 12. ファッション企画XI コンセプトマップ I からXの内容をもとにファッション企画のコンセプトをまとめる 13. ファッション企画XII 商品企画マップ 展開したい商品または売り場イメージをマップに作成をする 14. ファッション企画まとめ これまでに作成した企画書を確認しプレゼンテーションの準備をする 15. プレゼンテーション プレゼンテーションと講評 各自、作成した商品企画書(マップ)を使ってプレゼンテーションする(成果物提出) 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内で各自が設定するターゲットの生活特性やファッションの特性を知るための情報収集をする。 具体的には、書店で雑誌を見たり街を歩いて情報収集する。(2~3時間)						
授業方法	ファッション商品企画マップを各自作成する。 各自の進行状況に合わせて個別指導する。 ※PCを使用、基本的な操作法は授業内で解説する。						
評価基準と評価方法	課題を進める技能(30%)及び成果物(70%)で評価する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> ① 5回以上欠席すると受講資格失う。 ② 遅刻、早引きは欠席扱いとする。 ③ 課題を提出する。 ④ ファッション雑誌やカタログを2~3冊用意する。 						

履修上の注意	
教科書	教員のオリジナルテキスト及び教材使用
参考書	織研新聞、ファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション企画演習II/ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案の演習。						
授業の概要	ファッション商品の製品開発や仕入販売の基本となるコンセプト作りを演習する授業。具体的には、対象となる消費者イメージ(ターゲット)を設定し、そのライフスタイルやファッションの特性を分析する。そしてその分析をもとにした商品(製品)や売り場(品揃え)に落とし込んだ企画書を作成し提案する手法と技術を理解し学ぶ。 ファッション業界において消費者向けの的確に訴求できる商品を企画、販売する基本となる「ファッションマーチャライジング」の一連の過程を修得することを目的とする。						
到達目標	<p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション企画「マーチャライジング」とは ファッション企画「マーチャライジング」の具体的な手法や活用法の解説。 2. ファッション企画Ⅰ ターゲットの設定 「マーチャライジング」の対象となる消費者イメージの設定をする 3. ファッション企画Ⅱ ライフスタイル分析1 ターゲットの生活スタイルを言葉(マインドマップ使用)で分析する 4. ファッション企画Ⅲ ライフスタイル分析2 ターゲットのライフスタイルイメージを雑誌(切り取る)で分析する 5. ファッション企画Ⅳ スタイリング分析 生活シーン別に洋服の着こなしの特徴を雑誌(切り取る)で分析する 6. ファッション企画Ⅴ 商品イメージの分析 スタイリング分析をもとに具体的に企画したい商品の特徴を分析する 7. ファッション企画Ⅵ ターゲットイメージマップ PCを使ってターゲットの設定マップを作成する 8. ファッション企画Ⅶ ライフスタイル分析マップ PCを使ってライフスタイル(言葉)分析マップを作成する 9. ファッション企画Ⅷ ライフスタイルイメージマップ PCを使ってライフスタイル(写真)分析マップを作成する 10. ファッション企画Ⅷ スタイリングイメージマップ PCを使ってスタイリングのイメージマップを作成する 11. ファッション企画Ⅸ 5 2週のマーチャライジング 5 2周(1年間)のライフスタイルとファッションの特性を分析する 12. ファッション企画Ⅹ コンセプトマップ I からⅨの内容をもとにファッション企画のコンセプトをまとめる 13. ファッション企画Ⅺ 商品企画マップ 展開したい商品または売り場イメージをマップに作成をする 14. ファッション企画まとめ これまでに作成した企画書を確認しプレゼンテーションの準備をする 15. プレゼンテーション プレゼンテーションと講評 各自、作成した商品企画書(マップ)を使ってプレゼンテーションする(成果物提出) 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各自が設定したターゲットについて、生活特性やファッションの特性知るための情報収集をする。 具体的には、書店で雑誌を見たり街でファッションを観察したりする(2~3時間)						
授業方法	ファッション商品企画マップを各自作成する。 各自の進行状況に合わせて個別指導する。 ※PCを使用、基本的な操作法は授業内で解説する。						
評価基準と評価方法	課題を進める技能(30%)及び成果物(70%)で評価する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> ① 5回以上欠席すると受講資格失う。 ② 遅刻、早引きは欠席扱いとする。 ③ 課題を提出する。 ④ ファッション雑誌やカタログを2~3冊用意する。 						

履修上の注意	
教科書	教員のオリジナルテキスト及び教材使用
参考書	織研新聞、ファッション雑誌

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション構想実習A/ファッション構想実習						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F7117A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ファッションデザインに必要なリサーチ、デザイン画作成の手法を学ぶ						
授業の概要	本科目ではA・Bを通して、ファッションデザインにおけるデザイン構想の方法からその表現方法までを実習形式で修得していく。Aでは、インスピレーションを探す所から開始し、インスピレーションを具体化するために必要なリサーチ、リサーチブック作成をおこない、デザイン画として表現する。その中で、アイデアをファッションデザインとして表現するために必要となる形態、素材、色彩に関する知識や、それをデザイン画として表現する技術を養っていく。						
到達目標	(1)多様な視点からファッションデザインのインスピレーションを収集することができる。(汎用的技能) (2)収集したインスピレーションについてリサーチし、リサーチブックとしてまとめることができる。(知識・理解) (3)アイデアをファッション画として表現する基礎的なスキルを修得する。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッションをデザインすること 2. ファッションデザインの手順 3. デザイン画の基礎① 人体の描き方 4. デザイン画の基礎② 衣服の描き方 5. ファッションデザインリサーチ 目的、手順、手法 6. 線によるデザイン① テーマ設定、リサーチ 7. 線によるデザイン② リサーチブックの作成 8. 線によるデザイン③ デザイン画作成 9. 自然からのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 10. 自然からのデザイン② デザイン画作成 11. テクスチャーのデザイン① テーマ設定、リサーチ、リサーチブック作成 12. テクスチャーのデザイン② デザイン画作成 13. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチ 14. オリジナルデザイン② リサーチブック作成 15. オリジナルデザイン③ デザイン画作成 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	身の周りのものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(最終課題50%、その他50%) 制作した作品についての発表を評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費等は自己負担とする。(クロッキー帳、鉛筆は必ず準備する。詳細は初回に説明。)						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション構想実習B/デザイン基礎実習F						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F7117B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	人体と素材の関係を理解し、立体的なファッションデザインとして表現する手法を学ぶ						
授業の概要	本科目では、形態と素材という点に着目し立体での表現をおこなうことで、ファッション構想実習Aとは違った視点からの構想方法を学ぶ。具体的にはAで修得したリサーチ、リサーチブック作成の手法を用い、衣服デザインとしてデザインを考案し、実際に衣服制作までをおこなう。ファッションデザインにおける様々な素材や形態に関する知識を習得し、ファッションを、身体を中心とした空間デザインとして表現する自由な発想を学ぶ。						
到達目標	(1) ファッションデザインにおける素材と形態の関係性を理解する。(知識・理解) (2) 与えられる課題に対して、適切なリサーチ、リサーチブック作成を経てデザインを考案できる。(汎用的技能) (3) 衣服制作に必要な基礎的な技術、手法を修得する。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 布と人体① ダーツの役割：人体に布を沿わす 3. 布と人体② 様々なボリュームで人体を包む 4. 分割線のデザイン① 人体と分割線 5. 分割線のデザイン② 分割線のデザインと平面化 6. 図形によるデザイン① 人体と平面図形 7. 図形によるデザイン② リサーチブック作成、デザイン考案 8. 図形によるデザイン③ 1/2サイズで作品制作 9. 異素材のデザイン① ファッションデザインにおける異素材 10. 異素材のデザイン② プチプチ衣服制作 11. オリジナルデザイン① テーマ設定、リサーチブック作成 12. オリジナルデザイン② デザイン考案、作品制作 13. オリジナルデザイン③ 作品制作 14. オリジナルデザイン④ 作品制作、写真撮影計画 15. オリジナルデザイン⑤ 写真撮影 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	身の周りにあるものをよく観察し、ファッションデザインのインスピレーションとして捉えるよう努める。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(最終作品50%、その他50%) 授業内で制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習のため、欠席・遅刻に気をつける。 2. 材料費等は自己負担とする。 						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F11060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代までの服飾の歴史や変遷を学び、当時の社会背景との関連性を考察し、衣服に対する理解を深める。						
授業の概要	ファッションとその地域の社会や芸術との関係に触れながら、ファッションと人とのかかわり、ビジネスとしてのファッションのあり方について考察する。						
到達目標	<p>(1) ファッションの流れを知ることにより、生活文化におけるファッションの影響力を理解することができる。(知識・理解)</p> <p>(2) 生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を歴史的な流れと共に身に付けることができる。(知識・理解)</p> <p>(3) からだを取り巻くファッションのデザイン事例について、情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。(汎用的技能)</p> <p>(4) ファッションを背景とする生活文化を理解し地域に根差したライフスタイル提案ができる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 古代・中世の服飾 3. 16世紀の服飾 4. 17世紀の服飾 5. 18世紀の服飾 6. 19世紀の服飾 ① 女性服 7. 19世紀の服飾 ② 服飾の多様化 8. ファッションとジャポニズム 9. 20世紀前半の服飾 10. 20世紀後半の服飾 11. ビジネスとしてのファッションの変遷 ① 女性服 12. ビジネスとしてのファッションの変遷 ② 男性服 13. ビジネスとしてのファッションの変遷 ③ プロダクトアウト 14. ビジネスとしてのファッションの変遷 ④ マーケットイン 15. まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：次回の授業で行う当該箇所の予習(詳細は授業内で指示)(学習時間60分)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を整理・復習(学習時間60分)</p> <p>授業内容と関連する展覧会やイベントを随時紹介するので、見学すること</p>						
授業方法	主に講義。ただし、レポートや展覧会の報告等のプレゼンテーションを随時行う。						
評価基準と評価方法	授業中の課題(40%)、レポート(40%)、授業への参加度(積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか)(20%)						
履修上の注意	特になし						
教科書	特になし						
参考書	<p>「ファッションの歴史・西洋服飾史」朝倉書店、佐々井啓著 ISBN 978-4-254-60598-3</p> <p>「世界服飾史」美術出版社 深井晃子監修 ISBN 978-4-568-40077-9</p>						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション心理学／デザイン心理学						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F13100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションと心理（コミュニケーション・伝達）の関連性について学ぶ						
授業の概要	ファッションは、時代を映し出す社会の鏡であり、その時代を生きる人々の心を映し出す鏡である。この授業では、社会を映し出すファッションと個人の心理を映し出すファッションについて学ぶ。日常生活の中にある具体的な事例の解説をもとに、ファッションと社会の心理、ファッションと人間の心理についての理解を深める。						
到達目標	「社会とファッション」、「人間とファッション」の心理的な関わりについての知識を身につけ（理解したことを日常生活やデザイン活動に応用できる。（知識・理解）（汎用的技能）						
授業計画	1回 授業の概要と進め方、評価の方法について説明する。 教科書第1章「ファッションて何」日本の歴史とファッション心理の関わりを解説 2回 教科書第2章「滑らかなコミュニケーションのために」対話する服についての解説 3回 教科書第3章「成功に導くファッション」生活とファッション心理についての解説 4回 教科書第4章「五感とプラスワンを駆使する」五感を駆使した情報伝達とファッションの解説 5回 教科書第5章「美人を諦めていませんか」社会背景ごとによって美人の定義が違ふことの解説 6回 教科書第6章「着る勉強をしてみましたか」ファッションでわかる人間の心理についての解説 7回 教科書第7章「色で変わるコミュニケーション」パーソナルカラーとマインドカラーについての解説 8回 教科書第8章「人は見た目が9割」コンプレックスとファッションコーディネートについての解説 9回 教科書第9章「ミニマルに生きると全てが身軽になる」身の回り品の断捨離心の断捨離についての解説 10回 教科書第10章「ファッションコミュニケーション」ファッションとコミュニケーションについての解説 11回 デザインと心理 錯視デザインとは 錯視がファッションに応用されている事例の解説 12回 ブランドと心理 ブランドとは何か 有名ブランドビジネスと心理戦略についての解説 13回 ファッション心理 調査資料に基づき年代別嗜好色やデザイン、洋服の着こなしの違いを解説 14回 ファッション心理応用 学んできたことを応用したデザインや事例を探しレポートにまとめる 15回 各自の研究レポートの発表会と講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ファッション心理学の授業内で学んだことをもとにした課題（レポート）の作成（4時間程度）						
授業方法	毎回授業の前半は、教科書及びオリジナルテキストを使用しファッション心理について学ぶ 授業後半は、A4サイズのスケッチブックを使用し前半の講義内容に関連する課題に取り組む グループに分かれて取り組む課題についてのディスカッション それぞれが取り組んだ成果物のプレゼンテーションなどにも取り組む。 教科書とオリジナルテキスト、A4サイズのスケッチブック、色鉛筆やカラーペンを使用する						
評価基準と評価方法	課題（スケッチブック）50%、提出レポート50%で評価する						
履修上の注意	授業と通して知り得た個人情報について授業外で他者に他言してはいけません。 ①5回以上の欠席で受講資格失う。 ②遅刻や早引きは欠席扱いとする。 ③指定する課題やレポートを必ず提出する。 ④1日目から教科書とスケッチブック、色鉛筆またはカラーペンを用意する。						
教科書	ファッションコミュニケーション 東方出版 著者高田敏代（講師の著書） オリジナルテキスト						
参考書	授業を進める中で紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン概論／デザイン概論F						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	色・形・素材などからデザインの基礎を学ぶ。						
授業の概要	他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	1) ファッションデザインを分析することができる【汎用的技能】 2) デザイン美を列挙することができる【知識・理解】 3) フォーム、カラー、素材の専門用語が説明できる【知識・理解】 4) ファッションイメージを説明することができる【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）服飾デザイン：ファッションとは何か 2. ファッションデザインと形態（形態の基礎理論） 3. ファッションデザインと造形要素①：点・線・形など 4. ファッションデザインと造形要素②：面と立体など 5. カラー①：色彩の基礎 6. カラー②：イメージによる色の表現 7. カラー③：配色とカラーバランス 8. Hiroko Koshinoファッションショー見学（神戸ファッション美術館内）土曜の補講日に振替 9. デザイン美①：ファッションの美的統一とは（プロポーション） 10. デザイン美②：秩序の理論（統一と変化）、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 11. マテリアル①：材質の表情、材質とデザイン 12. マテリアル②：イメージによる素材の表現（神戸ファッション美術館内）土曜の補講日に振替 13. フォーム①：ディテールとバリエーション 14. フォーム②：イメージによる形態の表現 15. 体型とファッションイメージの関係性、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②各回授業のテーマに沿った練習問題や課題をする。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	試験70%：ファッションデザインの理解度を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。 提出物30%：各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。 課題（練習問題）に対するフィードバックの方法：採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ④指定する課題を締切までに必ず提出する。 ⑤神戸ファッション美術館への交通費は自己負担。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I/デザイン実習IF						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバー	F72230
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、制作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図、縫製というファッションデザインの一連のプロセスを習得することを目的とする。 ファッションデザイン実習Iでは、まず衣服制作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学ぶ。並行して平面製図法でセミタイトスカートの製図、トワルでの縫製をおこなう。その後各自でデザインしたスカートの製図、縫製をおこなう。それにより衣服制作における基本的な技法を習得する。						
到達目標	(1)衣服製作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。(知識・理解) (2)衣服制作における一連の工程を理解し、セミタイトスカートとデザインしたスカートを設計、制作できる。(汎用的技術)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、人体計測：授業内容、用具の使い方についての説明。採寸。原型の扱い方について。 2. セミタイトスカート「製図」：平面製図法で前スカートを作図 3. セミタイトスカート「裁断・印付け」：トワルを裁断し、印をつける 4. セミタイトスカート「縫製①」：ダーツ、脇の縫製 5. セミタイトスカート「縫製②」：コンシールファスナーつけ。 6. セミタイトスカート「縫製③」：ベルトつけ、裾上げ 7. オリジナルスカート「デザイン」：テーマ設定、資料収集、デザイン 8. オリジナルスカート「製図①」：前スカート製図 9. オリジナルスカート「製図②」：後ろスカート製図 10. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印つけ 11. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 12. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 13. オリジナルスカート「縫製③」：裾上げ 14. オリジナルスカート「縫製④」：仕上げ 15. 写真撮影、作品発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（セミタイトスカート30%、オリジナルスカート70%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。						
教科書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.2スカート編」ISBN978-4-579-07345-0						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I/デザイン実習IF						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F72230
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、制作技法の習得。						
授業の概要	ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、テーマ設定、デザイン、設計、製図、縫製というファッションデザインの一連のプロセスを習得することを目的とする。 ファッションデザイン実習Iでは、まず衣服制作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学ぶ。並行して平面製図法でセミタイトスカートの製図、トワルでの縫製をおこなう。その後各自でデザインしたスカートの製図、縫製をおこなう。それにより衣服制作における基本的な技法を習得する。						
到達目標	(1)衣服製作に必要な用具の名称を理解し、それらを正しく使うことができる。【知識・理解】 (2)衣服制作における一連の工程を理解し、セミタイトスカートとデザインしたスカートを設計、制作できる。【汎用的技術】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、人体計測：授業内容、用具の使い方についての説明。採寸。原型の扱い方について。 2. セミタイトスカート「製図」：平面製図法で前スカートを作図 3. セミタイトスカート「裁断・印付け」：トワルを裁断し、印をつける 4. セミタイトスカート「縫製①」：ダーツ、脇の縫製 5. セミタイトスカート「縫製②」：コンシールファスナーつけ。 6. セミタイトスカート「縫製③」：ベルトつけ、裾上げ 7. オリジナルスカート「デザイン」：テーマ設定、資料収集、デザイン 8. オリジナルスカート「製図①」：前スカート製図 9. オリジナルスカート「製図②」：後ろスカート製図 10. オリジナルスカート「裁断・印付け」：本布裁断、印つけ 11. オリジナルスカート「縫製①」：ダーツ、脇線縫製 12. オリジナルスカート「縫製②」：ファスナー、ウエストの縫製 13. オリジナルスカート「縫製③」：裾上げ 14. オリジナルスカート「縫製④」：仕上げ 15. 写真撮影、作品発表 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。						
授業方法	実習。						
評価基準と評価方法	作品提出（セミタイトスカート30%、オリジナルスカート70%） 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服制作を希望する学生は、履修することが望ましい。						
教科書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.2スカート編」ISBN978-4-579-07345-0						
参考書	なし						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II/デザイン実習IIF						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	F72240
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、制作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。 設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、オリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。						
到達目標	(1) デザインに応じたワンピースの設計、パターン作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、制作できる。(汎用的技術) (2) 制作したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。(知識・理解)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ワンピースのデザイン解説、テーマ設定 2. 「デザイン①」：資料集め。ワンピースのデザイン。 3. 「デザイン②」：ワンピースのデザイン決定。 4. 「製図①」：前後身頃の製図。 5. 「製図②」：袖、衿の製図。 6. 「製図③」：見返し等、製図仕上げ。 7. 「トワル①」：トワルの裁断、印つけ。 8. 「トワル②」：トワル縫製。 9. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。 10. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。 11. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。 12. 「縫製②」：本布、裏地前後身頃縫製。 13. 「縫製③」：本布、ファスナー、袖縫製。 14. 「縫製④」：本布、衿縫製。裾上げ。仕上げ。 15. 発表、まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(ワンピース)80%、発表20% 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 制作した作品についての発表を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 受講希望者は「デザイン実習IIF」を履修していることが望ましい。						
教科書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.4ワンピース編」ISBN978-4-579-07348-1						
参考書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トックス編」ISBN978-4-579-07342-9						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II/デザイン実習IIF						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバー	F72240
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、制作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、オリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。						
到達目標	(1) デザインに応じたワンピースの設計、パターン作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、制作できる。(汎用的技術) (2) 制作したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。(知識・理解)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ワンピースのデザイン解説、テーマ設定 2. 「デザイン①」：資料集め。ワンピースのデザイン 3. 「デザイン②」：ワンピースのデザイン決定 4. 「製図①」：前後身頃の製図 5. 「製図②」：袖、衿の製図 6. 「製図③」：見返し等、製図仕上げ 7. 「トワル①」：トワルの裁断、印つけ 8. 「トワル②」：トワル縫製 9. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ、試着 10. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ 11. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製 12. 「縫製②」：本布、裏地前後身頃縫製 13. 「縫製③」：本布、ファスナー、袖縫製 14. 「縫製④」：本布、衿縫製。裾上げ。仕上げ 15. 発表、まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回でおこなう課題制作において遅れが出た場合は、次の授業までに進めておく。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出(ワンピース)80%、発表20% 授業内において制作する課題について総合的に評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 制作した作品についての発表を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。 卒業研究で衣服製作を希望する学生は、履修することが望ましい。 受講希望者は「ファッションデザイン実習I」を履修していることが望ましい。						
教科書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.4ワンピース編」ISBN978-4-579-07348-1						
参考書	文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップ編」ISBN978-4-579-07342-9						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代					科目ナンバ-	F73180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品を販売する小売業における知識とスキルの修得する						
授業の概要	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンドライジング (VMD) について学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を修得することを目的とする。						
到達目標	<p>「知識・理解」身近な生活におけるデザインの役割に関する幅広い知識を身につけている。</p> <p>「汎用的技能」①からだを取り巻く衣服のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。②ファッションを専門の言葉で表現し、コミュニケーションする能力をもつ。</p> <p>「態度・志向性」ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会貢献にできる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 最新ファッション市場のトレンドを分析する インターナショナルデザイナーコレクションを基にトレンドを分析する 1の分析結果をレポートにまとめる 1と2を基に品揃えテーマのマップを作成する 12ヶ月のマーチャンドライジング計画について学ぶ 小売業における品揃え計画書を作成 5の計画書を52週MD (マーチャンドライジング) 計画に落とし込んだ企画書を作成する DM、カタログ作成の知識を学ぶ 3で作成したマップに基づきPOPまたはDMを作成する ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ 商品陳列の手法 (商品の並べ方の基本とカラー陳列) ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ 商品演出の手法 (ボディを使ったコーディネート提案) ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ 売り場の知識の解説什器のレイアウトと導線、照明、サイン計画など ファッション商品の販売知識Ⅰ パーソナルアドバイス コンサルテーション販売 販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る ファッション商品の販売知識Ⅱ ファッションコミュニケーション (ファッション心理を学ぶ) パーソナリティを支援する服、パーソナリティを映し出す服 ファッション販売実習 接客販売用語とコミュニケーションスキルについて学ぶ ファッション販売実習 ロールプレイ (接客実習) グループごとにストーリーを組み立てる 						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ファッション市場の調査 (トレンド、ショップ)						
授業方法	小売業における情報収集分析の仕方 (各自) 売り場作り及び接客のスキルを学ぶ (各自) 各自が分析したトレンドマップを授業内でプレゼンテーションする。 売り場を想定して学んだことを短い劇に仕立てて実践する (グループワーク)						
評価基準と評価方法	課題 (トレンド分析、品揃えマップ、DMまたはPOP) 80%と グループワーク (売り場を想定した実技) 20%で評価						
履修上の注意	ファッションビジネス演習Ⅰ、Ⅱを履修者したものに限り ①5回以上欠席すると受講資格失う ②遅刻、早引きは、欠席扱いとする ③指定する課題を必ず提出する						
教科書	オリジナルテキスト ファッションコミュニケーション 東方出版 著者 高田敏代 ※ファッション心理学でも同じ教科書を使用する						
参考書	随時適切な資料や書籍を紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論／ファッションビジネス論I						
担当教員	石田原 弘					科目ナンバ-	F22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。 また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。 本論を理解することにより、財団法人日本ファッション教育振興協会主催の「ファッションビジネス能力検定3級」を受験するための基本的な知識を身につけることができる。						
到達目標	<p>(1) ファッションという市場を消費者の立場ではなく、生産者・販売者の立場から見ることによりデザインの役割に関する幅広い知識を身につけることができる。(知識・理解)</p> <p>(2) ビジネスを通して、ファッションの空間的な広がりを肌で感じ、分析することができる。(汎用的技能)</p> <p>(3) ファッションビジネス業界で使用される専門用語で表現、コミュニケーションをとることができ、毎年11月ごろに実施されるファッションビジネス検定3級を受験できるだけの知識を得ることができる。(汎用的技能)</p> <p>(4) 地域に根差した生活文化をビジネスとして発信することができる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションビジネスとは 2. ファッションビジネスのマーケティング① 「3C4P」 3. ファッションビジネスのマーケティング② 「AIDMAの法則」 4. アパレル産業、繊維産業の構造 5. アパレル産業の流通 6. アパレルメーカーの変遷と現状①「垂直統合」 7. アパレルメーカーの変遷と現状②「百貨店との関係」 8. SPAの変遷と現状 9. ファストファッションの変遷と現状 10. ファッション小売り産業の変遷と現状 11. ファッション文化、デザイン文化 12. ファッションコーディネーション 13. ファッション商品知識 14. ファッションデザイン 15. ファッションエンジニアリング 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：ファッションビジネス能力検定のガイドブック等で下調べをすること。(学習時間：1時間)</p> <p>授業後学習：授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみる。(学習時間：1時間)</p>						
授業方法	主として講義ただし、課題レポートの制作結果についてプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>課題レポートの提出(60%)：授業で扱ったマーケティングに関する理解度および、実際のマーケティング調査の内容について評価する。</p> <p>授業内の提出物(40%)：ファッションビジネス能力検定の問題に沿った内容の理解度を評価する。</p>						
履修上の注意	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることになる。						
教科書	特になし。 必要であればプリント配布あるいは、ウェブ上でアクセスできるようにする。						
参考書	<p>「ファッションビジネス能力検定試験3級 項目別試験問題・解答集 改訂版」 一般財団法人日本ファッション教育振興協会 ISBN 4931378331</p> <p>「ファッションビジネス[I] 改訂版」 一般財団法人日本ファッション教育振興協会 ISBN 4931378285</p>						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	F73220
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドの歴史とその文化的・社会的役割について学ぶ。						
授業の概要	ファッションブランドを代表するブランドを取り上げ、ブランドの成立ちや歴史、ブランディング（メディア戦略、ブランドイメージ）、社会への貢献について学ぶ。						
到達目標	(1) ファッションブランドの特性や成立過程について、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2) ファッションブランドに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ファッションブランドとは 3. ルイ・ヴィトン 1 歴史 4. ルイ・ヴィトン 2 ブランディング 5. レッドカーペットとブランド 6. ファッションアイコンとブランド 7. エルメス1 歴史 8. エルメス2 ブランディング 9. 発表 10. シャネル1 歴史 11. シャネル2 ブランディング 12. ブランドの戦略 13. ファッションブランドとCRS 14. 発表 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回、授業で行う当該箇所の予習、事前に指定するキーワードについて指定された方法で下調べする。（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、要点をまとめる。課題は次の授業までに完成させること。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	<p>講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>提出物50%、発表30%、授業への参加度20%</p> <p>提出物：学習内容を理解できているか。リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容、自らの興味の明確性・具体性を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認</p> <p>発表：報告すべき内容を把握し、自分の言葉で発表できているかを評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度：積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を必要とする。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	『ブランドの世紀』（マガジンハウス、山田登世子） 必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	F73200
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ファッション・コミュニケーションのための基本的エディトリアル・デザイン」						
授業の概要	商品自体とは別に、ファッション企業は消費者に対して様々なメディアを通じてコミュニケーションを行っている。この演習では主に印刷媒体である紙メディアにおけるコミュニケーションの実例として、基本的なエディトリアルデザインに必要な知識と技能を習得する。また、グラフィックソフトを利用し、PC上で基本的なレイアウト・デザインの技法を基に、履修者各自がセンスを活かしてブランドイメージを伝えられることを目標とする。						
到達目標	1) ブランドイメージを伝えるグラフィック・デザインの必要性と特徴が理解できる。【知識・理解】 2) ファッション関連テーマの冊子構成手法の基礎を理解している。【知識・理解】 3) バランスのとれたページレイアウト、読みやすいタイポグラフィなどのエディトリアル・デザインのルールを踏まえたデザインができる。【汎用的技能】						
授業計画	1) 10/02 オリエンテーション - 「ファッションメディア」の分類と現状- 2) 10/09 ブランドプロモーションツールの種類 (カタログ、DM、ショップカードなど) とデザイン 3) 10/16 1ブランドロゴとタイポグラフィ- 4) 10/23 仮想ブランドのロゴ制作 5) 10/30 エディトリアルデザインの基礎 - ページレイアウトとタイポグラフィ- 6) 11/06 イラストレーターによる冊子 (リーフレット・パンフレット) 制作の基礎 7) 11/13 雑誌スタイルの見開きページレイアウトパターン 8) 11/20 コレクション・レビューページのデザイン 9) 11/27 ブランドプロモーションツール制作 (1) 対象ブランド選択・情報収集 10) 12/04 " (2) 3つ折りリーフレット (A4縦) 構成プラン 11) 12/11 " (3) レイアウト詳細デザイン 12) 12/18 個人別テーマ設定とパンフレット企画 13) 01/08 パンフレット (10頁B5サイズ) 制作 (1) 素材収集・ページ構成 14) 01/15 " (2) 見開きページレイアウト 15) 01/22 " (3) 表紙デザイン・印刷製本						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	ファッション雑誌、カタログなどの媒体における魅力的なブランドイメージのデザインを普段から注意深く観察する。1週間に約60分程度。						
授業方法	演習・実技: ブランドプロモーションのためのグラフィックデザインに関して、実物を収集してプレゼンするなど、ツールの理解のための演習を行う。 各自PCとグラフィックソフトを活用してエディトリアルデザインの実習として、プロモーションツールやパンフレット制作を行う。						
評価基準と評価方法	平常点 (段階的なスキル習得には毎回の課題提出が必要) 30%、成果物70%						
履修上の注意	分析・検討の対象となる既成のイメージ表現や、制作・企画対象となる映像やデザインは各自の関心により自由に選択できるものとする。従って、自身の興味や感性を明確に限定できることが望まれる。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F12090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。						
授業の概要	現代のファッションは、衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めている。身体そのものを基盤とするようなこうした現象をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。						
到達目標	1) 人間はなぜ衣服を着るのかについて説明できる【知識・理解】 2) 身体加工の意味を述べる【知識・理解】 3) 身体装飾の意味を説明することができる【知識・理解】 4) 衣服の社会性を列挙することができる【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 人間はなぜ衣服を着るのか？ 3. 「ファッションドリーム①」のビデオを見て、衣服の意味を考える。 4. 衣服の始まりと役割 5. 身体加工①なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 6. 身体加工②「ファッションドリーム②」のビデオを見て、身体加工の現象を読み解く。 7. 身体加工③頭、体の部位の加工についてコルセットを例に説明する。 8. 身体加工④神戸ファッション美術館にてコルセットなどの実物を見ながら解説する。土曜の補講日に実施。 9. 身体加工⑤「ブランド・フェラガモ」のビデオを見て、足の加工を纏足などの例に解説する。 10. 身体装飾①化粧をする意味を説明する。 11. 身体装飾②ボディペインティング、TATOOをする意味を説明する。 12. 身体装飾③身体を飾る現象を読み解く 13. 衣服の社会性①制服の意味を考える 14. 衣服の社会性②モード化する社会を流行から読み解く 15. ジャポニズムを例に洋服と着物の違いから体型を説明する 究極の身体美とは何かをまとめる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にてできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	レポート80%：身体加工および身体装飾の歴史的背景に沿って分析し、解説する。授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。 課題20%：レジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	バーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』（鹿島出版会） 鷲田清一著『ファッションという装置』（河合ブックレット17） ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘至訳『ファッションの文化社会学』（せりか書房）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	まちづくり論						
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>前半は都市計画・まちづくりの歴史、後半は都市のあり方の新しい理論を学びます。その歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおけるパリ大改造の話を中心とします。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学びます。わたしはほかの授業でも強調しているのですが、19世紀を重視しています。都市計画とは直接関係しないようですが、美術史のなかでも燦然と輝く印象派マネとカルノワールとか、ポスト印象派のゴッホとかの時代です。それと、北斎もね。歴史を大づかみにして、産業革命後つまり近代の出発点である19世紀（イギリスではヴィクトリアン）をしっかりと頭の中にすえてほしいのです。が、これがなかなかむずかしい。</p> <p>まちづくりの新しい理論では日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦点となります。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学びます。法律の説明で終始するような授業をしている大学もあると思いますが、わたしはむしろ法にもとづいた都市計画行政が都市を悪くしたという点を強調します。そして、それ対抗して、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をしていることを学んでいただけたらと願っています。</p> <p>こういうことも考えてもらいたい。各地で路上喫煙防止条例ができています。自動車の排ガスに比べて格段に毒性の弱いタバコをどうしてとりしまりたいのでしょうか。これはファシズムです。人びとの日常生活に権力をふるおうとする勢力の作戦なのです。ほんとうに人びとの健康をねがってやっているのでしょうか。この授業では政府・自治体の行政の批判がずいぶん出てきます。乱開発に対する反対運動にいつか立ちあがるようなひとになってください。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願います。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに—地域生活空間の学問 2 職住緑近接 3 居住地の構成 4 世界の大都市 5 中小都市・農村・ニュータウン 6 都市論の基礎+テスト1 7 産業革命が出发点19世紀のイギリス 8 パリ大改造 9 田園都市論 10 日本の都市計画のしくみ——ほんとうに日本の行政は悪いことばかりしてきた、すっかりクルマ社会にしまった 11 都市計画史の+まとめ 12 新しいまちづくりの考え方——それでも前進していることもある、とくに海外では 13 人間的な交通・景観 14 地球環境問題 15 新しいまちづくり+テスト2 <p>ビデオは最後の30分ほどに毎回見せます。最初はヤオトン、前半はNHKの「ふれあい街歩き」が多くなります。後半は以下のようなラインナップ。</p> <ol style="list-style-type: none"> A 団地の誕生（1960ころの団地） B アニメ貧困史 格差都市ロンドン C アフガニスタン女性刑務所 D フィラデルフィアの衰退、バーミンガムの成功 E 新長田の再開発、悲惨な失敗 F ソウルの快挙（高架道路の撤去） G トランジットモール（新型路面電車） H 自転車の都市グローニンゲン 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。こういう問題に関しては学外に素晴らしい教材があります。話を聞いてほしいひととたくさんあります。ゲストスピーカーという制度があって、呼んだらいいのですが、手続きが煩雑で。なかなか呼べません。この場をかりておわびします。ついでに言うておきますが、こういうわけですから、ゲストスピーカーを呼んでいる教員はとて熱心な教員なので、みなさんもそう思っててください。拍手を送りたいと思います。したがって、わたしは町の活動家を呼びませんが、学習の準備として新聞などでまちづくり運動の記事などをよく読んでください。</p>						
授業方法	受講者がすくないので、いろいろな面でフレキシブルな授業方法をとります。						

評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するという事です。わたしの評価は甘いといわれている。つまりこの点では優しい。「優しい教師はいい加減な教師である」(「マーフィの法則」より)。
履修上の注意	すくなくとも人類の歴史に興味をもつこと。ところで「素晴らしいシラバス」(すばらしいしらす)は回文(上から読んでも下から読んでも……………)ですよね。こういう遊びがちりばめられているシラバスにしたいのですが、なかなか余裕がありません。余談でした。 学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。 履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。
教科書	図解住居学編集委員会編(彰国社)『図解住居学1 住まいと生活』
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフカラーコーディネート演習/イメージリテラシーⅣ (カラーコーディネート演習)						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活に使われている配色を色彩の知識から演習を通じて幅広く理解する。						
授業の概要	カラーデザイン論の応用演習科目として位置付ける。カラーを通じてウェブデザインを表現し、ウェブサイト制作のカラー配色法を学ぶ。カラーの応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。ファッションコーディネート、インテリアコーディネート、テーブルコーディネートのそれぞれを色の表し方や色の調和、色の知覚的効果、色の感情効果、色の美的効果を中心に理解する。次に、色の基礎的知識を得た上で応用編としてウェブサイトの配色計画を、演習を通して習得する。						
到達目標	1) 配色が分類できる【知識・理解】 2) ファッションカラーコーディネートの配色がつかれる【汎用的技能】 3) 好きな色を活かしながら快適な空間を演出するインテリアやテーブルカラーコーディネートがつかれる【汎用的技能】 4) パソコンを使ってファッションカラーコーディネートができる【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) : 色の本質を説明 2. 配色① : 色相、トーンをもとにした配色を演習 3. 配色② : ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習 4. 配色③ : ドミナント、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習 5. 配色④ : トーナル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習 6. 配色⑤ : トリコロール、ビコロール、マルチカラーの配色を演習 7. 配色⑥ : セパレーション、グラデーションの配色を演習 8. Work paperで復習しよう 9. テーブルカラーコーディネート1 : 色とテーブルコーディネートの関係の配色を演習 10. テーブルカラーコーディネート2 : テーマに合わせたテーブルコーディネートに挑戦 11. インテリア1 : 個人や家族の空間と快適な色の関係の配色を演習 12. インテリア2 : 好きな色が主役の理想の部屋づくりに挑戦 13. 色の見やすさを重視したウェブサイトのコーディネート 14. パソコンを使ってファッションカラーコーディネート 15. パソコンを使ってテーブル・コーディネートとインテリア・コーディネート						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 : 授業内で説明する。(学習時間60分) 授業後学習 : 学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。(学習時間60分)						
授業方法	演習 : ① 毎回、配色を演習する。 ② 教科書を中心に進める。 ③ テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	課題(練習問題も含む) 100% : 各回設定のテーマの課題を評価する。課題はその日に提出する。提出やり直しが遅れるごとに減点していく。到達目標(1)~(4)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 : 採点して返却する。満点になるまでやり直し提出する。						
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は欠席扱いとする。 ③ 指定する課題を締切までに必ず提出する。 ④ 毎時間、配色カード、のり、はさみを持参する。 ⑤ 教科書は、必ず購入する。						
教科書	財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『カラーコーディネートの基本』(日本色研事業株式会社) 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』(日本色研事業株式会社) 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業内にて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル入門／ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F01030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活文化を軸としてライフスタイルを考える。						
授業の概要	ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後、経済発展するとともにライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化などが見られる。そこで、自分のライフスタイルを分析し、ファミリーライフサイクルを理解する。社会背景から少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイルの観点からライフスタイルについて考える。最後にライフスタイルに合わせたファッションコーディネート提案する。						
到達目標	1) 私のライフスタイルが説明できる【知識・理解】 2) 図表を読み取り、ファミリーライフサイクルの図が作れる【汎用的技能】 3) ライフスタイルのファッション計画が作れる【汎用的技能】 4) ライフスタイルに合わせたコーディネートができ、ファッション企画が意識できる【態度・志向】						
授業計画	1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明、ライフスタイルとは何か？ 2. ライフスタイル①：TPOと購買行動 3. ライフスタイル②：パーソナルカラー 4. ライフスタイル③：ワードローブチェック 5. 家族周期と私のライフスタイル 6. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー 7. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー 8. 世代によって異なるライフデザイン（生活設計）とその考え方 9. 生活時間の管理・労働・余暇 10. 世代別ライフスタイル分析 11. 雑誌から読み取るライフスタイル 12. 神戸ファッション美術館の展示からライフスタイルを読み取る（神戸ファッション美術館） 土曜の補講日に振替 13. ライフスタイルとファッション計画 14. ライフスタイルとファッションイメージ 15. ライフスタイルに合わせたコーディネート、最後に試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ②各回授業の内容に沿った課題をする。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	定期試験50%、提出物50% 試験50%：ライフスタイルの理解度を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。 提出物50%：各回設定のテーマの課題を評価する。到達目標（1）および（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	① 10回以上の出席がないと、受講資格失う。 ② 遅刻は、欠席扱いとなる。 ③ 指定する課題を締切までに必ず提出する。 ④ 神戸ファッション美術館までの交通費は自己負担。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						